

NHK放送予定(平成21年1月~2月)

- NHK-FMラジオ才能鑑賞(毎週日曜日7時15分~8時) 桜間金記ほか
- 1月25日 素謡「鉢木」(再)金春流 坂井音重ほか
- 2月1日 素謡「源氏供養」観世流 小倉敏克ほか
- 2月8日 素謡「善知鳥」宝生流 金春安明ほか
- 2月15日 素謡「隅田川」金春流 岡久広ほか
- 2月22日 素謡「屋島」(再)観世流
- 教育テレビ(午後3時~午後5時)
- 1月25日 狂言「土筆」大蔵流 山本剛直ほか
- 狂言「箕被」和泉流 野村万作ほか
- 能「西行桜」観世流 梅若玄祥(六郎改め)ほか

演能カレシダ

名古屋能楽堂

(能・狂言演能関係)
(TEL 052-231-0088)

- [平成21年1月]
- 24日(出) 万作を 見る 会 (有料)
 - 25日(日) 名古屋宝生会 定式 能 (有料)
 - 31日(出) 宝生流第二十代宗家継承披露能 (有料)
 - 名古屋城本丸御殿復元祝賀能
- [2月]
- 1日(日) 青陽会 定式 能 (番組②面) (有料)
 - 7日(出) 現代狂言Ⅱ名古屋公演 能 (有料)
 - 8日(日) 名古屋観世会 定例公演 (番組②面) (有料)

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464-0858)
電話 (052) 731-7984
FAX (052) 733-2837
振替口座 00800-6-36393
購読料 1年 1100円
郵送の場合 1年 1800円

三 観世寿夫記念法政大学能楽賞

浅井文義氏 受賞 トーマス・ヘヤ氏 受賞

法政大学(増田寿男総長)は、一九七九年(昭和五十四年)に「観世寿夫記念法政大学能楽賞」を設定し、すでに二十九回の贈呈

を重ねているが、平成二十年も各方面の識者の推薦による候補者について、選考委員(徳安彰法政大学国際学術支援本部担当学務理事、野村萬、みなもところ、松本雅、表章、西野春雄、山中玲子)が慎重に審議した結果、第三十回の受賞者として、観世流シテ方・浅井文義氏、能楽研究者のトーマス・ヘヤ氏を決定した。

浅井文義氏

〔贈呈理由〕近年の氏は、2006年12月の(鶴鳴小町)、2008年12月(定家等、シテとして)優れた舞台成果を見せるだけでなく、地頭としても多くの舞台に欠かせない存在になっている。氏が地頭を勤める地謡はよく筆筆がとれ、作品の興行きを感じさせるが、特に2008年6月の(松風)

では一曲の核となる地謡によって、舞台の成功に大きな役割を果たした。

〔受賞者〕
トーマス・ヘヤ氏

〔贈呈理由〕氏の近著『Performance Notes (Coleridge University Press, 2008)』は、日本

催花賞 河村総一郎氏 受賞

法政大学は、第十九回の催花賞の決定に当たって、各方面の識者から推薦された候補者について、法政大学能楽研究所と能楽賞選考委員とが慎重に選考した結果、受賞者として、大政方・河村総一郎氏を決定した。

河村総一郎氏

〔贈呈理由〕氏は16歳での入門以来60年、誠実・着実に石井流大鼓の芸術に精進し、東京の大鼓とは異なる柔らかな打音や軽みなど、石井流の流泉をよく守り伝えてきた。東京や関西での活躍の場も多いが、名古屋での秘曲・大曲上演には欠かせない難子方として多くの能の成功に寄与しており、長年にわたり名古屋の能楽界を支えてきた功績は大きい。

〔催花賞〕は法政大学が服部廉治氏からの観世新九郎家文庫受贈を記念して、一九八八年(昭和六三年)四月に「服部記念法政大学能楽振興基金」を設定し、同基金

思想体系「世阿弥・禅竹」を基本とし、「甲楽談巻」「金鳥書」のぞく世阿弥伝書すべてを英訳した大業である。演出・技法にも目を配り最新の研究成果を踏まえた翻訳の水準は傑出しており、国際的な世阿弥能楽論研究の基礎を打ち立てた業績として、高く評価される。

に基づく事業の一つとして、能楽三夜の功労者、および能楽の普及・発展に貢献の大きい個人・団体を顕彰する「催花賞」を設けた。「催花」は観世新九郎家伝来の額に基づき名称である。

名古屋城本丸御殿 復元祝賀能

1月31日名古屋能楽堂

名古屋城本丸御殿復元祝賀能はきたる1月31日(出)名古屋能楽堂で開催される。

主催名古屋市文化振興事業団(名古屋能楽堂、能楽協会名古屋支部、名古屋城本丸御殿PRイベント実行委員会)

〔第一部〕午後一時開演
能(宝生流)「杜若」(衣裳正直、梅田嘉宏)
半能(観世流)「石橋」(久田勘助、梅田嘉宏)

〔第二部〕午後五時開演
能(宝生流)「杜若」(衣裳正直、半能(観世流)「石橋」(古橋正邦、武田大志)

日本能楽会公演 168日

能楽協会名古屋支部主催 平成21年度の演能予定

能楽協会名古屋支部による平成21年度の演能予定は次のとおりである。

◎名古屋能楽堂定例公演
能・狂言でたどる天下統一の道

- (前編)平成21、22年度2カ年
- 6月6日(出) 午後2時開演 市
 - 7月5日(日) 午後2時開演 市
 - 民能楽セミナー
 - 9月6日(日) 初秋能・2部制

- 第一部 午前10時開演
- 第二部 午後2時開演
- 10月23日(金) 午後6時30分開演
- 12月13日(日) 12時30分開演
- 1月3日(日) 午後2時開演
- 3月6日(出) 午後2時開演
- ◎名古屋能楽堂芸術鑑賞会
- 7月2日(休)3日(金) 午前9時30分~午後1時30分
- 12月1日(休)3日(内) 午前9時30分~午後1時30分
- ◎親子能楽教室
- 8月4日(休)5日(休)
- ◎若輩能(能楽後継者育成会および協会の手先の研究会)

- 6月20日(出) 午前9時30分育成会・午後1時若輩能
- ◎日本能楽会名古屋公演
- 8月16日(日)
- ◎豊田市中学生のための能楽鑑賞教室
- 7月30日(休)31日(金)宝生流▽8月4日(休)5日(休)観世流▽8月6日(休)7日(金)夢多流
- ◎小牧山新能
- 9月5日(出)

年 新 賀 謹

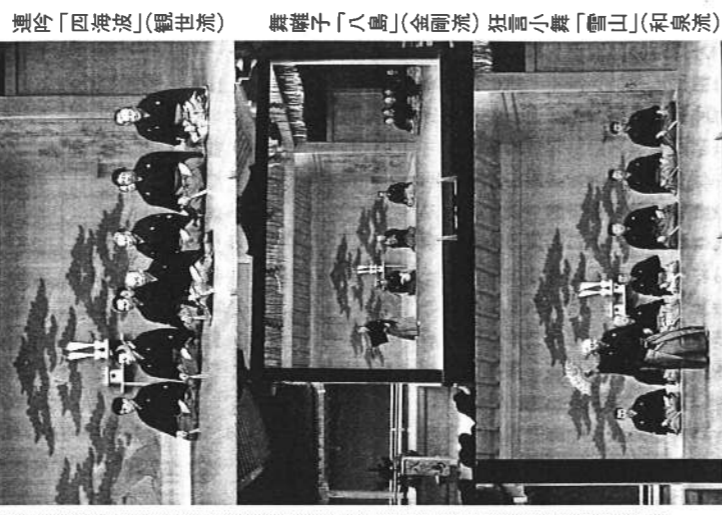
名古屋 観世会	幽 花 会	梅 若 吉之丞	幽 花 会
観世 清和	梅 田 邦 久	梅 田 邦 久	梅 田 邦 久
片山九郎右衛門	梅 田 邦 久	梅 田 邦 久	梅 田 邦 久
清 司	梅 田 邦 久	梅 田 邦 久	梅 田 邦 久
大槻清韻会	武田 志 弘	武田 志 弘	武田 志 弘
大槻 文 蔵	武田 志 弘	武田 志 弘	武田 志 弘
鳳 鳴 会	井 上 嘉 久	井 上 嘉 久	井 上 嘉 久
武田 志 房	井 上 嘉 久	井 上 嘉 久	井 上 嘉 久
大西 智 久	井 上 嘉 久	井 上 嘉 久	井 上 嘉 久
大西 智 久	井 上 嘉 久	井 上 嘉 久	井 上 嘉 久

名古屋市昭和三山手邊3-8-2, 306
電話(〇五二)八三二二二八五
西宮市甲陽園目神山町三十二五
電話(〇七九八)二四四八

名古屋城本丸御殿 復元着工記念 新春謡初め 2日名古屋能楽堂で開催

名古屋城本丸御殿復元着工を記念して、名古屋市文化振興事業団(名古屋能楽堂)、能楽協会名古屋支部では、新春一月二日(金)午後二時から名古屋能楽堂で「新春謡初め」を催し、シテ方五流、狂言和泉流により、舞囃子、連吟、小舞などにぎやかに平成21年の門出を祝った。

【写真】杉浦賢次氏撮影



連吟「四海波」(観世流) 舞囃子「八鳥」(金剛流) 狂言小舞「雪山」(和泉流)

演能案内

青陽会定式能(第53期)

二月二日(日) 午前十二時半開演
名古屋能楽堂

仕舞 老松 近藤 幸江 地謡 今久野 三津子
星野 隆子 美和 希
三村 輝希

能 胡蝶 前野 郁子 高安 勝久 帆 嵐一 児頭 義命
竹市 学
後見 久野 隆子 地謡 久田 勸吉郎 武田 大志
久田 勸吉郎 加賀 敏彦
久田 三津子 加賀 敏彦

仕舞 難波 八神 孝充 松山 幸親
古橋 正邦
船弁 慶 武田 邦弘 祖父江 修一

狂言 末廣がり 佐藤 融 今枝 郁雄
井上 敬次郎
後見 井上 敬次郎

能 雲林院 清次 一政 杉江 元 河村 眞之介 加藤 洋輝
橋本 幸 柳原 富司 忠 大野 誠
間 佐藤 友彦

後見 前野 郁子 地謡 八神 孝充 近藤 幸江
梅田 邦久 武田 大志 梅田 繁弘
武田 大志 梅田 繁弘

〔附祝言〕 主催 青陽会
当日券三〇〇〇円、学生一〇〇〇円
取り扱いニテネットびあTEL05770・112・9999
Pコード7880・112・9999
名古屋能楽堂 出演教師宅

予 告 予
第 二 回 平成21年 第53期 予定
五月九日(土)
第 四 回 川 星野 隆子
十二月十九日(土) 第三回 九月十二日(土)
班 女 八神 孝充
紅葉 狩 松山 幸親
野 鉢 守 武田 大志

名古屋観世会定例公演能

二月八日(日) 十二時半開演
名古屋能楽堂

素謡 神歌 観世 芳伸 八神 孝充 地謡 高橋 正邦
梅田 繁弘

能 高砂 清次 一政 久田 勸吉郎 河村 眞之介 加藤 洋輝
高安 勝久 柳原 富司 忠 大野 誠
橋本 幸 井上 敬次郎
後見 小島 一英 地謡 吉沢 久
松山 幸親 梅田 繁弘
祖父江 修一

狂言 宝の笠 興 井上 敬次郎 太郎 尊者 今枝 郁雄
スッパ 佐藤 友彦
後見 大野 弘之

仕舞 笠之段 村 武田 邦弘 吉沢 久
春日龍神 古橋 正邦 武田 大志

能 楊貴妃 観世 清和 河村 眞之介 加藤 洋輝
福王 茂十郎 大倉 次郎 藤田 六郎 兵衛
間 佐藤 融

地謡 八神 孝充 古橋 正邦
加賀 敏彦 観世 芳伸
清次 一政 久田 勸吉郎
(終演五時頃)

附 祝 言 主催 名古屋観世会
事務所 名古屋市昭和区台町2-16-5
電話/FAX(052)84114632

〔入場料〕
年間指定席(年五回分) 三〇〇〇円
年間自由席(年五回分) 二〇〇〇円
当日券六〇〇円

新年 祝

怡楽会 山階 彌右衛門
観芳会 星野 路子
観世 芳伸

藤井 徳三

上田 観正会能楽堂
上田 観正会 TEL0781-691549

上田 貴弘
大 公 拓 介 威 司

大垣 浦声会 稽古場 大垣市佐馬町大垣別院
電話〇五八四七三三三三

浦田 保利
浦田 保浩
浦田 保親
TEL0564-841173

名古屋 修 諷 会
梅 若 修 一

久田 観正会
大 松 月 会 久 田 舞 一 郎
那 那 会 前 野 郁 子
松 会 松 山 幸 親
星 野 路 子
TEL052-7051585

松 音 会
泉 泰 孝
TEL052-333180

泉 雅 一 郎
TEL052-481485

春 鶯 会
梅 若 善 高
TEL500-0084
TEL106-0003

梅 春 会
井 戸 和 男
良 祐
TEL545-0041
TEL506-0041

笙月会 中 川 雅 章
TEL506-0041

賀 水 会
桑 名 賀 水 会
名 鉄 百 貨 店 友 の 会
加 賀 敏 彦
TEL401-0041

名古屋 淡 交 会
三 橋 岡 慈 観
三 交 会
久 田 三 津 子
TEL401-0041

松 盛 会
小 松 勝 憲
TEL511-0041

初 陽 会
武 田 宗 和

舞 謡 会 橋 岡 久 太 郎
山 上 小 宮 半 松 吉 塚 小 宮 山 島 荒 坪
岸 原 倉 内 澤 原 田 田 出 下 岸 田 木 内 苅 路 之
健 美 重 年 友 三 郎 亮 之
登 一 富 樹 健 章 彦 功 吉 郎 亮 之

観 修 会 祖 父 江 修 一
TEL501-0041

当地の各流儀・流派・結社 社中の消息を辿る

竹尾 邦太郎

一 「名匠鑑賞能」 ④

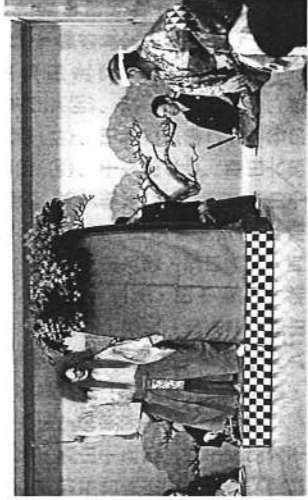
第二回は昭和二十九年一月七日、金春と観世流の重鎮が来演。先回が夏・七月三日だったので、此の年は春・秋に加え年三回の公演。番組は舞子「高砂」本田秀男、能「通小町」桜間昌川・龍馬・榎王茂十郎、能「鱈丸」蒼装束・梅若六郎・観世尊之・榎王茂十郎、狂言「釣狐」井上松次郎

・河村兵造、仕舞二番「井筒」山中信之「花屋クルト」山中信義、一調「女郎花」榎本直治、桜間龍馬、能「文豪」龍馬片山九郎右衛門・杉浦義明(師長)片山博太郎(徳)慶次郎(龍神)、高安滋義滋、大鼓山本敬一郎。なお番組の案内に「狂言大習 釣狐を井上松次郎師お披露此曲はお能道成寺と同じ秘曲で御座います」とあるが、すれは四〇歳での披露。但し

平成二十一年一月二日、葬儀。告別式の際に配布された「偈ふ故 井上兩次郎(重兵衛)殿」と題するパンフレットの略歴には昭和十六年「釣狐(つりぎつね)」を披露、とあるが日時、催会名の記載が無く詳細は不明。
第二三回は昭和三〇年三月六日、野口兼資先生追善能、の副題のある宝生大会。番組案内に次のようにある。「能楽界の名人 野口兼資先生は、当地出身又当地宝生流研究会は明治四十四年同先生を主として設立、以来四十年間流儀の為のお披露お稽古を頂きました。御縁故深い先生で誠に残念で御座います。又本鑑賞会も毎年御披露頂きます名技を鑑賞、昨年三月末縁が当地での最後になりました次第、就而は今回 家元九郎、英雄

高師、禰子孫久師、辰巳孝、清岡師又久方なりに宝生の元老近藤乾三師、昭方松本謙三師、葛野流大敵方齋田喜兵衛師、其他在名全業師御出演でお手向け頂きます。追善大能どうか皆機御光栄、故先生のお冥福をお祈り下さいませ」
宝生流研究会については田鍋惣太郎著「小鼓茶話」に次の記述がある。「(明治)四十五年五月には宝生流研究会記念能を行い、近藤乾三、松本良の諸氏等をお招きしました。この宝生流研究会というのはその頃私と長谷川、長尾、永田の諸氏として作ったもので此会では宝生家元を初め同流の大家を順次招へいしました。これはそれ以来中絶せず今日までも続いており、

金剛流、朋の会(羽多野良子師主宰)では「五色の会」能を観る「観賞会を旧暦12月23日、岡崎市大西町の「花朋会歌舞台」で公演。金剛流宇高通成、広田幸松師らが来演。能「紅葉狩」(シテ羽多野良子・ワキ高安勝久)はじめ、狂言「井杭」(野村小三郎)仕舞「説法師」(宇高通成)が上演された。
「五色の会・能を観る」は毎年開催され、今回は10回目の記念講演で、熱心な鑑賞がつけられた。岡崎市教育委員会後援。



「写真は能「紅葉狩」川杉清賢次氏撮影」

五色の会 「紅葉狩」上演 岡崎・花朋会舞台

浅井文義氏(あさいぶんぎ) 観世流シテ方。1949年1月1日、大阪府生まれ。シテ方観世流藏分故竹谷文一の長男。1953年(敏馬天狗)の花見で初舞台。12歳(岩船)で初シテ。高校卒業後、辨仙会に入門し、観世寿夫、八世観世鏡之丞に師事。1972年(石橋)、1977年(狸々乱)、1980年(道成寺)、1982年(翁)を披露。1980年黒テント

作業場での佐藤信演出・構成「乱拍子」をはじめ、他ジャンルとの共同作業にも早くから取り組んできた。栗谷能夫(喜多流・櫻間金記(金春流))とともに流儀を超えた同人組織「三鈴の会」を結成し、1988年(鷹姫)、1991年の練肉工房との提携公演「水の声」、1992年(幻)、1995年(壱子みだれ髪)を上演。1997年から1998年にかけて自ら主宰の「五能之会」で、夕顔・野宮・井筒・芭蕉・定家)を連続上演。2001年には(卒都婆小町)、2006年には(鶴崎小町)

催花賞受賞

河村総一郎氏(かわむらこうじ) 本名・河村幸治(かわむらこうじ)。石井流大鼓方。1933年2月19日、名古屋に生まれる。2月19日、名古屋市に生まれる。1977年の(卒都婆小町)披露以来(磯捨、鶴崎小町、松垣・閑寺小町)をすべて勤めており、名古屋での大曲・秘曲上演には欠かせない存在。長男の大、次男の眞之介も後継者として育っている。1991年度愛知県芸術文化選奨文化賞受賞。重要無形文化財総合指定保持者。日本能楽会会員。

トーマス・ヘヤ氏

プリンストン大学教授。専攻トーマスは、日本中世文学(特に詩歌・演劇)、日本の仏教文化・思想、古代エジプトの文化等。1952年3月13日生まれ。1975年、プリンストン大学卒業。1977年、ミシガン大学にて修士、1981年同大学にて博士(D. Ph. D. Far Eastern Languages and Literatures: Japanese Literature)を

を披く。そのほか海外公演にも多く参加し、海外でのワークショップなど意欲的な活動をしている。「朋の会」主宰。重要無形文化財総合指定保持者。日本能楽会会員。社団法人辨仙会理事。社団法人能楽協会理事。

取得。1978、80年には東京芸術大学音楽学部楽理科に研究生として留学し、横道萬里雄・藤田大五郎・安福建雄・野村四郎の指導を受ける。1983、84年、国際交流基金の奨学金による来日の際は、京都の前川光長・杉本和にも師事。1981年よりスタンフォード大学専任講師、准教授を経て、2001年よりプリンストン大学教授。能楽関係の主な著書としては、受賞理由となった「Zeami-Performance Notes」のほかに「Zeami's Style: The Nob Plays of Zeami Motokiyo. (Stanford University Press, 1986)等がある。プリンストン大学では実演者と組んで尺八と禪に関する講義もおこなっている。



猶惠会 熊沢 恵美子
〒465 001 名古屋市中東区早和ヶ丘3-176

幸誦会 近藤 幸江
〒444 022 岡崎市鴨田本町十一番地ノ三
電話(〇五七四) 〇五五九

千早会 八神 孝充
〒464 001 名古屋市中千種区郷渡町3-60-1-201
電話(〇五二) 七六二二二〇一

恵誦会 三村 徑布
〒465 001 西尾市住吉町三十一番地
電話(〇五三) 五五七二五九四番

桜月会 加藤 春枝
〒500 001 可児市鼻ヶ丘3-1-113
電話(〇五七四) 六四一三〇六

宝生和英
〒465 001 西尾市住吉町三十一番地
電話(〇五三) 五五七二五九四番

宝生流 嘉宝会
〒465 001 名古屋市中千種区西尾町二ノ五二

司安城司宝会 佐藤耕司
〒465 001 名古屋市中千種区西尾町二ノ五二

近藤乾之助
〒170 0002 東京都豊島区東鴨五十三番地
電話(〇三三) 九二五二二七六番

名古屋屋楽会 橋巽会
〒170 0002 東京都豊島区東鴨五十三番地
電話(〇三三) 九二五二二七六番

辰巳満次郎
〒170 0002 東京都豊島区東鴨五十三番地
電話(〇三三) 九二五二二七六番

佐野由於
〒150 0011 東京都渋谷区東2-1-14
〒921 0011 金沢市泉野町4-15-18-1 30121

櫻風会 倉本 雅
〒658 0001 神戸市東灘区田中町1-13-27 800
電話(〇七八) 四四一五五六五番

惠美寿会
〒465 001 名古屋市中東区早和ヶ丘3-176

衣斐正宜 衣斐正宜後援会
〒465 001 名古屋市中東区早和ヶ丘3-176

宝生流 嘉宝会
〒465 001 名古屋市中千種区西尾町二ノ五二

司安城司宝会 佐藤耕司
〒465 001 名古屋市中千種区西尾町二ノ五二

金剛永龍 謹
〒465 001 名古屋市中千種区西尾町二ノ五二

廣田鑑賞会 廣田陸一
〒465 001 名古屋市中千種区西尾町二ノ五二

廣田幸稔
〒465 001 名古屋市中千種区西尾町二ノ五二

菊扇之会 廣田泰三
〒465 001 名古屋市中千種区西尾町二ノ五二

廣田泰能
〒465 001 名古屋市中千種区西尾町二ノ五二

廣田泰能
〒465 001 名古屋市中千種区西尾町二ノ五二

廣田泰能
〒465 001 名古屋市中千種区西尾町二ノ五二

廣田泰能
〒465 001 名古屋市中千種区西尾町二ノ五二

豊嶋能の会 豊春会 豊嶋三千春
〒616 001 京都市右京区鴨堀殿町一八三
TEL 〇七五(四六) 二二四八番
FAX 〇七五(四六) 六〇九八番

松野恭憲能の会 松野恭憲
〒616 001 京都市右京区鴨堀殿町一八三
TEL 〇七五(四六) 二二四八番
FAX 〇七五(四六) 六〇九八番

宇高通成 徳竜成
〒616 001 京都市左京区吉田中大路19-1
〒791 0003 松山市山越4丁目11-38
松山舞臺会

金剛流 名古屋周星会 岐阜周星会 古川周子
〒464 001 名古屋市中千種区西尾町三二六
電話(〇五三) 七六一二二五七

シテ方金春流宗家 金春安明
〒167 0002 東京都杉並区南荻窪三丁目17-16
電話(〇三三) 三三二二五七二番

金春信高
〒167 0001 東京都杉並区善福寺二丁目二七二七
電話(〇三六) 七六五六一四四番

本田光洋
〒164 000 東京都中野区上高田二ノ五二
電話(〇三三) 三八六二二四二番

本田光洋
〒164 000 東京都中野区上高田二ノ五二
電話(〇三三) 三八六二二四二番

本田光洋
〒164 000 東京都中野区上高田二ノ五二
電話(〇三三) 三八六二二四二番

本田光洋
〒164 000 東京都中野区上高田二ノ五二
電話(〇三三) 三八六二二四二番

本田光洋
〒164 000 東京都中野区上高田二ノ五二
電話(〇三三) 三八六二二四二番

本田光洋
〒164 000 東京都中野区上高田二ノ五二
電話(〇三三) 三八六二二四二番

本田光洋
〒164 000 東京都中野区上高田二ノ五二
電話(〇三三) 三八六二二四二番

◆秋の舞台から(その二)◆

「久田勘鷲の会 二十回記念特別公演」
「第二九回 名古屋金春会」
「名古屋能楽堂定例公演」

竹尾邦太郎

「小鍛冶」 勅諭で御剣を打つよう命じる勅使(ワキツレ正樹)に、優れた相棍が居らず当惑する小鍛冶宗近(ワキ元)、苦しい時の神頼み、と稲荷明神へ赴けば、既に祈願の趣を承知する口ありけな置子(シテ勸吉郎)が出現(直面・黒頭・襟浅黄・赤地縹着付・濃緑水衣)、和漢の名剣の奇特を説く地(芳伸・直長・義高ら)が迫り、就中、日本武尊が草薙剣の靈験を誇示するクセ。シテは未だ中学生、これまで土方を数多く勤め舞台脚は満点、六月には能楽後継者育成研修発表会で「小鍛冶」は半能を勤めてをり、前シテの輩も心得たもの、へ導は剣を抜いて、と立つと、へ四方の草を、と薙き払う敏捷さ、へ夕雲の稲荷山、できりく小廻りのあとのへ行方も知らず、と静かに構態を往くところなど心憎い。

後シテ稲荷明神、直面・赤頭・狐戴・紅入段厚板着付・法被(袖折込)・半切の姿。鍛冶増上、ワキ宗近の相棍へ打ち重ねたる鍵の音、に弾かれた様に飛び下りるや頭取ルところ、如何にもへ天地に響きて聴しや、への風景、鮮やかだった。今後、器用徴乏に墮ち入らぬよう更なる精進を期待したい。初面の舞台が待ち遠しい。(57分)

「砧」 訴訟で国を留守に在待女夕霧(ツレ徑左)を遣る葺屋来(ワキ勝久)。夫の帰国を知り暮る思いの北ノ方(シテ三津子)は待女との掛合に愚痴を奪い、へ郎の住居に秋の暮、と思いを吐露する初同(徳三・芳伸・貴弘ら)、シラル北ノ方に待女はただ見守るだけ。と、そこへ、北ノ方

と敬称される身には無縁の、普段は気にも止めなかつた物音、それが里人の構つ砧と教えられれば、そこは高貴の教養人たる北ノ方、唐土の故事に思いを致し、自身も砧を構つと言い出すところ、「いや砧など浅しき者の業」と選言する待女にも止められない頂な気位の高さ、前場の出だしが惹きつけ、物着あと、眼目の砧之段は、へこれは東の空なれば、とワキ柱上を、へ西より来る秋の風の、で兼へ見ると、へ君が其方に吹けや風、で作物(砧)へ指して拍子一ツ踏むところ、思いの丈を風に托す心情も切ない。虫の音に物の哀れを知るのも上流階級の業、砧之段のキリへほろくはらへ、と待女と構つ砧に落ちる涙に心憎も尤進する。そこへ齧られるこの年の暮にも御下りあるまじき、の便り、クドキの懸帳はへ変り果て給ふそや、の双シテリに心摩極まる心臓麻痺の死。哀調を帯びた重厚な地話がシテを支え、シテも好演。

後シテは面深井から泥眼・襟白二・浅黄大口・縹散シ文白綾壺折。成俣するキリ前、夫の不実を厳しく責め、へ思ひ知らずや怨めしや、と夫に詰め寄るところ、凄まじい気魄に然もありなんを思わせた。トメ拍子は踏まなかつた。(1時間39分)

「鬼瓦」 訴訟無事着して帰国の叶った大名(シテ友彦)、太郎冠者(アト弘之)を伴い暇乞に因幡業師に参詣。そこで国許にも御室を、の思いで入念に普請を観察するうちに目に付いた高い所の黒い物。鬼瓦と教えられ、国許の妻に「その依ちや」と懐かしさに泣き出す大名。そう言えはとこやらが、と笑



「能」久田勘鷲の会・20回記念特別公演
「道成寺」シテ久田勘鷲 (20年10月19日演能)
(写真:工務円提供)

いをこらえて遠慮がちに同意する太郎冠者が可笑しければ、「どこやらが似たといふ事があるものか」と剣突を食らわす大名の、丸つきりそのままではないか、の口吻が可笑しさを増幅、シテとアトの持ち味が小品ながら充分に出た好舞台だった。(17分)

「道成寺・赤頭」 住僧(ワキ勝久) 禿角帽子・襟浅黄・白綾着付・白大口・紫水衣・小刀の俵容に自から風格。鐘の供養に急ぐ白拍子(シテ勸助)は面若女・襟白赤・浅黄地金鱗箔着付・黒地紋尺縹箔・腰巻・紅入唐織襷折の姿。出て直ぐ三ノ松、一旦止まり、何事も思案する心から静かに運出せは、既にして胸を固めた気配が。道行へ急ぐ心か、の高い調子に左手で襷を取るところ、逸る心は能力(アヒ菊次郎)に女人禁制と阻止されはしても怯まな得意気込み。物着から一ノ松へ、鐘を見込む執心の目付きの凄まじさ、昂ぶる鼓動は、大鼓(真之介)の一調に煽られ、舞台へ入つて来るところは正に舞が舞える狂喜。その熱気が寸時鎮まるようにへ暮初めて鐘や響くらん、と吹かれる嬌々たる一管(六郎兵衛)の妙、その余韻を破る小鼓(舜一郎)の裂帛の掛け声から乱拍子に、小倉は無かつたが中ニ段教訓(無師之傳)が、段は短かつた。急之舞から鐘入へ、常の型と思つたが鐘の下に巫

「柏崎」 訴訟の事で鎌倉に在る柏崎殿と息、花若(子方・金春梓妙)、父の病死に世を傳み出家遁世した花若の文と柏崎殿の形見の品を携え越後へ下る侍臣小太郎(ワキ雅介)、名宣から道行へ、身の様子・状況を重い胸の中に吐露、説得力も上々。案内を乞ひ、花若の母(シテ穂芭)の声

り、鐘がするく降りて来たので吃驚した。昭和四二年(一九六七)一〇月二八日、金春流の桜間道雄が古希つきりそのままではないか、の口吻が可笑しさを増幅、シテとアトの持ち味が小品ながら充分に出たのたろうか。鐘が上がるも赤頭・大元結・白敷若、着付だけ赤地金鱗箔に替えた安座の蛇体、折りに紺地打板を持ち、立つと前シテの唐織でなく白綾を腰に巻き、烈しい住僧の折りに追い立てられ、一ノ松で白綾を捨てたる鱗箔、盛り返しシテ柱越しにキツと鐘に面ヲ切ル凄味は、腰を落としてシテ柱に背を付けると右へ伸び上がりながらキリく柱を巻いてゆく柱巻、蛇体の執心の怖さを如実に見せる。キリは折伏され一ノ松へ、怨めしげに鐘を見込みに、三ノ松へ逃れへ飛んでそ入り、ワキのユウケン留メ。桜間道雄は自署で「私が二度目に演じたとき、飛べないなら道成寺など舞わぬ方が良いという声がありました。能に対する認識の度合いが違つたので、これはしかたがないと思います」と言うが、古希には未だ間のある勘助、飛んで欲しかった。(1時間49分・10月19日・久田勘鷲の会20回記念特別公演)

に「や、これは」と笠を捨て一ノ松に平伏する小太郎。シテは面曲見・襟浅黄・白地露文文襷着付・無紅萌黄地秋草文帯巻。問答は「あら心許なや」と不安の暮るシテに、口重にならざるを得ないワキ、雰囲気がよくでる。シテのタドキは二ノ松、ワキを中へ招じ入れる間も惜しむかに佇立のまま。観世流のようにシテは先に地謡歴の床几に掛かつて居り、そこへ案内を乞うワキを招じ入れるのとは趣を異にして、演出でシテの気持ちの在りようが違つたのが面白い。シテとワキ掛合のロンギ、へ歎きを止めおはしまし、とワキが立つて運ぶと、シテもへげにや歌きても、と舞台へ。へ形見を見るからに進む涙は腫きあはず、はシテ、ワキ連向、シテは常座、ワキはワキ座前に下居する。シテが吾子の健全な心境に思いを馳せる文、母を思い連る文末でへ書いたる文の怨めしや、と手をハツと文から放したが込み上げる愛しき、印象的。母に逢わず遁世の吾子、恨めしくはあるが無事を祈らずには居られない母心の哀れは中人地の哀調、退いて往くところ余情一入である。

後場、狂乱して柏崎を出てさ迷う花若の母は、唐織を茶地小菊文縹腰巻に替え、浅黄水衣の旅装、狂と狂を持つ。古歌にてらし、今の身の上は夫や子の所為、へ怨めしや憂き身は、と泣懐するサシの部分へ怨め、とシテが、へしや憂き身は、と地(安明・廣明・忍ら)が切つて語つた(と聞こえたが)のが珍しい。道行は里々をさ迷う風情、へ降れども積もらぬ淡雪の、と正丸、狂と狂で指し廻すのは雪深い越後に比べる感慨。善光寺に至り下居に合掌、夫の菩提を弔うところ、住僧(ワキツレ幸)に内陣の立入りを咎められると、問答に女人禁制は「如来の仰せ」と居立ちへありけるか」とすつくと立つ不退転の勢い。へ頼もしやく、と誇む教拍子に力が入り胸が透く。阿彌陀如来を崇め、夫の形見を寄進する傍ら、物着でその前折烏帽子と水衣に替えて長袴を身に着ければ、歌増す追慕の念、立つと(◎へくつづく)

年 新 賀 謹

富 耀 会 柳 原 富 司 忠 船 戸 昭 弘 小鼓教室 名古屋市中区栄 朝日神社内 (丸善前)	飯 島 六 之 佐 千 920 000 金沢市香林坊2-1-8-17 電話(076)262-1434	大 倉 源 次 郎 千 460 000 名古屋市昭和区滝川町47-1 サザンビル八事2-1-703 電話(063)210323	叶石会 河村 総一郎 河村 真之介 千 460 000 名古屋市昭和区前山町一丁目三三 電話(052)761-4881	亀 井 俊 一 保 忠 雄 実 雄	呉竹会 伝統文化(能楽)こども教室 寛 鈺 一	谷 口 正 喜 千 602 0015 京都市上京区中立売通室町西入 室町スカイハイツ610号	谷 口 有 辞 千 520 0021 大津市緑町二四-1-20
---	--	--	--	-------------------------	-------------------------------	--	------------------------------------

金春流太鼓 青 耀 会 上 田 悟 千 391 013 和泉市青葉台2-1-17-25 電話(072)5(56)8521 名古屋 名古屋市中区栄5-1-6-4 稲古場 栄能楽堂 電話(052)262-1183	長 生 会 鬼 頭 義 命 千 490 000 愛知県稲沢市平和町城西1-1 電話(0567)9160	大 蔵 狂 言 会 大 蔵 彌 太 郎 基 誠 千 太 郎 千 215 0077 神奈川県川崎市麻生区岡上38-1 TEL044-9871-187	茂 山 千 作 千 五 郎 七 五 三 千 三 郎	茂 山 忠 三 郎 茂 山 良 暢 千 606 000 京都市左京区北白川裏小倉町28 電話(075)702-2021 FAX(075)702-2331	葵 心 庵 舞 台 尾張旭市東大瀬町原田二四九三ノ二 若杉ビル(旭市役所西) 電 話 〇五六一五〇〇三三四六番 能舞台 電話〇五六一五〇〇六九八
---	--	---	------------------------------------	--	--

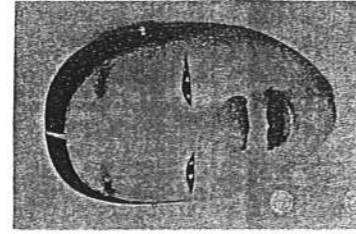
当地の各流儀・流派・結社・社中の消息を辿る

竹尾 邦太郎

一「名匠鑑賞能」⑤

五流道成寺が先回(第三〇回)を以て無事完了。主催の田鍋惣太郎はこれを自祝して昭和三年六月一日、第三二回を自身が「翁」を勤める字守記念の乱能とし、番組に「乱能について」の題で解説をしている。

乱能とは一役を立派に勤め得る人が出演の資格あり。お能各役者が日頃他の役を研究し語り。お能各役者が四拍子、狂言を勤め又、三役(脇方、四拍子方、狂言方)シテ、又は他役を演じ日頃の心構へ



昭和二十五年十月廿二日(土) 能 名匠鑑賞能
 昭和二十五年十月廿五日(日) 能 名匠鑑賞能
 昭和二十五年十月廿五日(日) 能 名匠鑑賞能

を發表する会で御座います。昔(維新前)は各能役者が談合して直ちに二三日でも催す事の出来る人達で演ぜられて居ります。ですからお茶番ではありません。歌舞伎や他のそのり、お茶番、お笑ひに催されるのとは全然違います。維新後東西でも年一度

は各舞台、流祖祭、稻荷祭、などに催されて居ります。当地方でも呉服町や布地町の能舞台上で毎年催して居りました。事変中は皆休みました。終戦後は私(雀)が昨年(昭和三〇年五月七日、松坂屋ホール)舞台六十年日加寿能最後の日に再開(田鍋惣太郎は「羽衣・鶴巻」を勤めている)好評を頂きました。本年は五流道成寺完了記念に催します次第、今後は毎年催される事になると思います。此度は東西の一流楽師各位が応援して下さい。どうか皆様にも

そのおつもりで御覧頂ければ幸甚に存じます。(括弧内筆者)番組は一翁「田鍋惣太郎・藤田六郎兵衛(三番目)田鍋洋一(千歳)後藤孝一郎(面鏡)観世武雄(雀)観世喜之(小鼓頭取)高安滋郎・柴田収(脇鼓)本田秀男(大鼓)田鍋惣一郎(地頭)・舞囃子「高砂」鬼頭八郎、狂言「末廣」林盛藏、柴田初太郎・増田一雄「仕舞二番」笠之段」山本孝「善界」大倉長十郎、狂言「大刀齋」本田秀男、観世喜之・武雄、舞囃子「小袖當我」河村庄造・井上松次郎、小舞「宇治のさらし」加藤良久、狂言「文徳」高安滋郎・西村欽也、西尾孫太郎、舞囃子「西王母」野村太郎、狂言「引括」内藤泰二・鬼頭喜太郎、能「船弁慶・前後之巻」山本敬一郎(前)田鍋惣一郎(後)鬼頭喜信(判官)・藤田六郎兵衛(弁慶)河村総一郎(雀)榎王茂十郎(小

③面へつづく

一色町能楽保存会

3月15日

四百五十年の伝統を守る一色能では、地元一色神社の例祭に欠かすことなく奉納をしているが、今年はきたる三月十五日(日)一色公民館仮設舞台で開催される。一色能を継承していくために一色町能楽保存会(土屋豊八郎会長)では、現在子供教室を開き、幼児から高校生まで二十名の子供を指導、また地元の保育園の年長組四十一名にも謡曲を指導、いずれも三月十五日の奉納能に出演する。今年の演目は、国の選抜民族無形文化財に指定されている一色能をはじめ能二番「狂言一番、舞囃子二番」仕舞二十四番「連防四番など合わせて三十五番が上演される。午前十一時開演。

能「翁」(シテ石原進、面鏡・喜多敬、神楽、浜口富三、三番目・喜多秀夫)
 半能「忠度」(シテ石原慎一、ワキ宮川貞夫、笛・鹿取希世、小鼓・後藤嘉津幸、大鼓・河村厚之介)

能「百萬」上演

3月8日 菊之会

金剛流菊之会(廣田泰三師主宰)は、春季「菊之会」を三月八日(日)金剛能楽堂で開催する。能組は、仕舞「羅波」廣田泰三、能「百萬」シテ藤田泰能、ツレ金重久子、ワキ村山弘、間・丸石やすし、地謡・種田道一、廣田幸稔、豊嶋幸洋、今井克紀、山口尚志、豊嶋晃嗣、宇高竜成、宇高徳成

一色町能楽保存会

3月15日

能「狸々」(シテ石原進、ワキ久谷憲之、笛・菊川遊子、小鼓・吉川広美、大鼓・石原隆明、大鼓・木形いく子)
 狂言「善樂樓」(郡方・喜多敬、鎌倉方・喜多秀夫)
 問い合わせ先 一色町能楽保存会事務局/伊勢市一色町一三〇六一 電話 0596・25・6525番。

能「世界」

3月14日 名古屋能楽堂

能楽協会名古屋支部・社団法人能楽協会・社団法人日本能楽会の主催により、三月十四日(土)、名古屋能楽堂で「さわつてみよう」能の世界」のタイトルで、能楽体験の企画を実施する。対象は、小学校三、六年と中学生とその同伴者。笛・小鼓・大鼓・太鼓・さらに仕舞、謡、狂言を能楽堂で身近に感じとってもらいたい機会であり、主催者ではお気軽に参加して下さいと呼びかけている。参加は無料、二百名を限定募集で、能「羽衣」の上演があり、鑑賞できる。

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

小・中学生の能楽体験隊募集

3月14日 名古屋能楽堂

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

第四回西村同門会研究能

三月二十九日(日) 午前十時半開演

名古屋能楽堂

三月二十九日(日) 午前十時半開演
 名古屋能楽堂

ソレ侍女 大塚 恵
 ソレ侍女 風頭 京子
 花婿夫人 衣斐 愛子
 シテ 衣斐 正直
 定生流 兼藤 小林 大勢
 能 威陽宮 原 有松 寛一
 間 佐藤 郁雄
 後見 飯 克徳 地謡 真村 純功
 菅山 淳司 竹内野村 孝久 平田 和久 正文
 村 上 茂 竹内 浩一 渡一

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

第31回 邦謡会・東海の能

四月五日(日) 十二時三十分開演

名古屋能楽堂

四月五日(日) 十二時三十分開演
 名古屋能楽堂

解説 東海の能 村瀬 和子
 舞囃子 養老 片山 清司 河村厚之介 上田 慎也
 水波之伝 上田 敦史 竹市 学
 地謡 本田 邦久 藤田 六郎 兵衛
 須部 甫 河村 総一郎 上田 慎也
 藤田 六郎 兵衛

朝長

四月五日(日) 十二時三十分開演

名古屋能楽堂

四月五日(日) 十二時三十分開演
 名古屋能楽堂

トモ 武田 大志
 ソレ侍女 梅田 嘉宏
 観世義之丞 高安 勝入
 榎法 杉江 元 正樹
 間 井上 菊次郎
 河村 総一郎 須部 甫 河村 総一郎 上田 慎也
 藤田 六郎 兵衛

③面へつづく

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

③面へつづく

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

③面へつづく

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

名古屋能楽堂

3月14日

申込みは、往復ハガキで、次のところへ申し込む。返信ハガキが入場券となる。
 申込み先 〒466-1082 6)名古屋市長和区滝川町47-147(2-1703)柳原方一
 わつてみよう能の世界」宛
 同伴者(大人)と小学生、中学生の学年記入。ハガキ締め切りは二月二十八日(土)(必着)定員二百名。
 後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市文化振興事業団。平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業。

③面へつづく

NHK放送予定(平成21年3月~4月)

Table with NHK-FM ラジオ能楽鑑賞 (毎週日曜日 7時15分~8時) and program details for 3/29, 4/5, 4/12, 4/19, 4/26.

演能カレンダー

名古屋能楽堂

(能・狂言演能関係) (TEL 052-231-0088)

Calendar table for 演能 with dates from 3/29 to 4/25 and event names like 西村回大会, 東海の能, etc.

能 楽 の 友

発行能楽の友社 名古屋千種区千種2丁目18-18 (郵便番号 464-0858)



和泉流狂言方・野村小二郎氏は、平成二十年度名古屋芸術奨励賞(個人)を伝統芸能・狂言で受賞した。

平成20年度

名古屋市芸術奨励賞

狂言方 野村小二郎氏受賞

豊田市能楽堂では、豊田市能楽堂四月能を四月四日(土)開催、能「桜川」(シテ親世流・大槻文蔵)狂言「腰折」(シテ大槻流・茂山忠三郎)を上演する。

豊田市能楽堂四月能

4月4日 能「桜川」狂言「腰折」

狂言「腰折」(シテ祖父・茂山忠三郎、アト山伏 茂山良暢、アト太郎冠者山口耕道、後見・榊谷雄一郎)。

能「隅田川」

4月15日第12回 廣田鑑賞会能

金剛流、廣田鑑賞会能は、きたる四月十五日(水)京都・金剛能楽堂で第12回公演を開催、能「隅田川」小巻後の彩色(シテ廣田幸稔)狂言「鬼継子」(茂山十三郎)を上演する。

始曲午後一時三十分。解説 能楽評論家・權藤芳一氏。演能は次のとおり。

狂言「鬼継子」茂山十三郎、松本薫。能「隅田川」後之彩色 シテ廣田幸稔、子方西村豊、ワキ福王和幸、ワキツレ山本順三、笛・左簿齋弘、小鼓・林光寿、大鼓・河村大。

後見・金剛水護、宇高週成、宇高竜成、地詠・松野共憲、今井清隆、種田道一、掛川昭二、重本昌也、廣田泰能、今井克紀、宇高徳成。料金 一般八千円、会員七千五百円、学生三千円。

梅原 猛「能を観る」

大槻能楽堂自主公演能

2009年大槻能楽堂自主公演能は、哲学者梅原猛氏による独特の世界観で「能を観る」解説と話が新風をもたらす鑑賞として注目される。演能および梅原氏の「お話し」は次のとおり。

◇4月25日(土)午後2時開演。お話 戦線離脱者の恋 梅原 猛。能「清経」恋之喜取 シテ上田拓司、ソレ寺沢幸祐、ワキ江崎金次郎。

後見・泉嘉夫、赤松禎英、生一、知識、地詠・大槻文蔵、上田貴弘、斎藤信隆、上野雄三、山本正人、武富康之、斎藤信輔、水田雄晴。

◇5月16日(土)午後2時開演。お話 浮城なまを築する妻の真心 梅原 猛。能「井筒」シテ片山清司、ワキ福王和幸、ゾイ善竹隆平。

尾張徳川家の能

徳川美術館 21年度4月開講

徳川美術館では、平成21年度の能楽講座「尾張徳川家の能」を4月から開講する。

今回は「船弁慶」をテーマに、歌人尾場あき子氏のお話(4月25日)から狂言方・井上博洋氏、シテ方辰巳滿次郎氏、笛方・藤田六郎兵衛氏の話と実演による充実した内容で進められる。

講座内容は次のとおり。◇4月25日(土)午後2時開講「院政期の芸能界」白拍子・帯一講師・歌人尾場あき子氏。◇5月2日(土)午後1時半開講「能舞台に船登場」船頭一人で大奮闘!講師・狂言方泉流・井上博浩氏。◇6月6日(土)「美しい静御前から怨霊へ」シテ寛利講師

シテ方宝生流、辰巳滿次郎氏。◇8月8日(土)「静の涙・押し寄せる大波」講師・笛方藤田流十一世豪元・藤田六郎兵衛氏ほか。

会場 徳川美術館講堂、定員百五十名。受講料(税込) 一般一万円(入館料を含む)、賛助会員五千円。申し込み 定員になり次第締め切り。

申し込み方法 往復はがき、又はFAX番号記入のうえ、左記に申し込み。申し込み、問い合わせ 名古屋市中区徳川町1017(〒461-10023) 徳川美術館「能楽講座」係 TEL052・9355・6262、FAX052・9355・9444。

日本芸術院会員 故 橋岡久太郎

五十年忌追善別会 特別公演

四月十一日(土) 第一部 午前十一時 第二部 午後二時三十分 名古屋能楽堂

【第一部】 午前十一時 開演

仕舞 清経 久田勸吉郎 地詠 藤谷山幸親 融 久田勸鶴 梅田嘉宏 仕舞 笠之段 山階彌右衛門 地詠 寺澤幸祐 玉之段 観世 芳伸 地詠 上田貴弘 梅田嘉宏

舞囃子 砧 観世 清和 河村総一郎 藤田六郎兵衛 地詠 林 宗一郎 大西 礼久 坂口 貴信 山階彌右衛門 仕舞 西行櫻 橋岡 慈観 地詠 清沢 山幸親 久田 勸鶴 久田 三津子 高安 勝久 河村真之介 藤田六郎兵衛 一慶之次郎 杉江 元 柳原富司忠

卒都婆小町 後見 藤谷山幸親 地詠 久田 勸鶴 観世 清和 寺澤 幸祐 上田 公威

入場料(全自由席) 前売券 一般10000円 学生 5000円 当日券 1000円増

【第二部】 午後二時三十分開演

能 道成寺 橋岡 慈観 地詠 清沢 山幸親 一政 久田 勸鶴 橋岡 慈観 久田 勸鶴 上田 公威 武田 大志 松田 高義 伊藤 泰泰 伴野 俊彦 野口 隆行 後見 橋岡 慈観 寺澤 幸祐 山階 彌右衛門 地詠 清沢 山幸親 一政 久田 勸鶴 橋岡 慈観 久田 勸鶴 上田 公威 武田 大志 松田 高義 伊藤 泰泰 伴野 俊彦 野口 隆行

※入場料無料、御来場歓迎 主催 名古屋淡交会 橋岡 慈観 三交会 久田 三津子

NHK放送予定(平成21年4月~5月)

Table with NHK-FM and NHK-TV broadcast schedules for April and May, including programs like 'Classical Music' and 'NHK Education'.

演能カレンダー

名古屋能楽堂

Calendar of performances from April to May, listing dates, times, and ticket prices for various events.

能楽の友

発行能楽の友社
名古屋市中区千種区千種2丁目18-18
電話 (052) 731-7984
FAX (052) 733-2837
振替口座 00800-6-36393

名古屋名駅新能は、毎年親世宗家が来演して多くの市民が鑑賞して話題をよび盛会で、こころは第8回を迎え7月26日(日)J.R名古屋駅・タワーズガーデン特別会場で開催される。

「名古屋名駅新能」併催
全国学生能楽コンクール
応募締切り5月31日

名古屋名駅新能は、毎年親世宗家が来演して多くの市民が鑑賞して話題をよび盛会で、こころは第8回を迎え7月26日(日)J.R名古屋駅・タワーズガーデン特別会場で開催される。

12世野村又三郎3回忌追善
狂言やるまい会名古屋公演
5月31日 名古屋能楽堂

十二世野村又三郎信慶氏追善の第52回狂言やるまい会名古屋公演がきたる5月31日(日)名古屋能楽堂で開催される。

故野村又三郎氏は、多年にわたる名古屋狂言界の発展に尽力、能楽協会名古屋支部長の要職をつとめ、芸術祭賞受賞、法政大学による催花賞など受賞、平成十九年十二月十二日八十六歳で逝去された。

豊水会四十周年記念大会
五月五日(祝) 午前10時始
名古屋能楽堂
組 近藤幸江
高砂

能通盛
組 高安 勝久 河村 眞之介 加藤 洋輝
井上 靖浩 後藤 繁雄 幸 竹市 学

能羽衣
組 飯富 雅介 河村 眞之介 加藤 洋輝
柳原 富司 忠 鹿取 希世

能紅葉狩
組 渡辺 美樹 秋山 比登美
下尾 和子

豊水会四十周年春季大会
五月三日(祝) 午前九時半始
名古屋能楽堂
組 近藤幸江

東海異会大会
五月六日(水) 午前10時始
名古屋能楽堂
組 近藤幸江

能碓
組 飯富 雅介 河村 眞之介 加藤 洋輝
後藤 繁雄 幸 竹市 学

能松浦佐用姫
組 小野 眞幸子 近藤 幸江

能遊行柳
組 石川 晴子 近藤 幸江

能松
組 出口 新也 内藤 賢次
小林 俊雄 高取 良昌

(番組②面へつづく)

NHK放送予定(平成21年5月~6月)

5月24日	NHK-FMラジオ才能鑑賞(毎週日曜日7時15分~8時)	桜間 右陣ほか
5月31日	素謡「忠度」(再)金春流	善竹 十郎ほか
6月7日	狂言「文相撰」大藏流	関根 祥六ほか
6月14日	独吟「遊行柳」観世流	佐野 由於ほか
6月21日	素謡「小袖巻我」宝生流	香川 靖嗣ほか
6月28日	素謡「三井寺」喜多流	観世鏡之丞ほか

演能カレンダ―

◆名古屋能楽堂◆

(能・狂言演能関係)
(TEL 052-231-0088)

[5月]	名古屋観劇会	(無料)
24日(日)	名古屋観劇会	(無料)
30日(土)	名古屋観劇会	(無料)
31日(日)	名古屋観劇会	(無料)
[6月]	名古屋能楽堂定例公演	(有料)
6日(土)	能と狂言の催し(要整理券)	(有料)
7日(日)	シアタープロジェクトS(オセロ)	(有料)
13日(土)	名古屋観劇会定例公演	(有料)
14日(日)	名古屋観劇会定例公演	(有料)
20日(土)	名古屋宝生会定例公演	(有料)
21日(日)	名古屋宝生会定例公演	(有料)

能楽の友

発行能楽の友社

名古屋千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464-0858)
電話 (052) 731-7984
FAX (052) 733-2837
振替口座 00800-6-36393
購読料 1年 11000円
送料 1年 18000円
郵送の場合 11000円

平成21年度の名古屋能楽堂定例公演は、6月6日開催の特別公演をはじめ7月、9月、10月、12月、1月、3月の7公演が決定。今回のテーマは、「能・狂言」として、織田信長、豊臣秀吉をはじめ毛利元就、細川幽斎、朝倉義景、伊達輝宗、豊臣秀次など戦国武将と能とのゆかり、歴史ロマンの仲立ちとして、能・狂言の魅力に触れる機会として期待されている。

【6月特別公演】(織田信長)
6月6日(土) 開演午後二時半
能「運成寺」赤頭 片山清司(観世流)
【7月公演】(織田信長)
7月5日(日) 開演午後二時半
市民能楽セミナー、解説「面と装束について」(久田勘麿)
能「殺生石」久田勘麿(観世流)

名古屋能楽堂 定例公演番組 平成21年度7公演

狂言「磁石」井上靖浩(和泉流)
【9月公演】(毛利元就、細川幽斎、朝倉義景、伊達輝宗)
9月6日(日) 第一部(開演午前十時)
能「花月」長田麟(喜多流) 能「鞍馬天狗」白頭・武田邦弘(観世流) 狂言「大刀鐔」今枝郁雄(和泉流)
第二部 開演午後二時
能「経正」梅田嘉宏(観世流) 能「鉄輪」玉井博祐(宝生流) 狂言「鐘の音」野村小三郎(和泉流)
【10月公演】(豊臣秀吉)
10月23日(金) 開演午後六時三十分
能「野宮」衣斐正直(宝生流) 狂言「不腹立」井上菊次郎(和泉流) 前売・指定席四〇〇〇円、自由席一般三〇〇〇円
【12月公演】(豊臣秀吉)
12月13日(日) 開演十二時三十分

能「富士太鼓」「雪」「鶴飼」

6月20日 第3回若鯨能

能楽後継者の育成と能楽協会の若手の研究会として、平成19年に発足した「若鯨能」は、きたる六月二十日(土)名古屋能楽堂で第三回演能を行う。
この若鯨能は、愛知県文化振興基金事業「平成21年度文化庁芸術団体人材育成支援事業」として、その役割は大きい。

番組は、能(喜多流)「富士太鼓」(シテ長田郷)、能(金剛流)「雪」(シテ西郷和子)、能(観世流)「鶴飼」(シテ梅田嘉宏)の上演
十二時半始、来場歓迎。

豊嶋三千春師 古稀記念能

金剛流豊春会は、五月十七日(日)金剛能楽堂で、豊嶋三千春師古稀記念・豊春会春の能を開催。
能「雪」(シテ豊嶋三千春、ワキ梅王切登)
狂言「千鳥」(茂山置司)
仕舞「枕愁置」(種田恭三)
能「石橋」猿蓑之式(シテ豊嶋晃嗣、ワキ小林繁)
なお、古稀記念豊嶋三千春能の会は七月四日(土)東京国立能楽堂で開催される。

能「大仏供養」(豊嶋幸彦)
能「枕愁置」(豊嶋三千春)

豊田市能楽堂の7月能

7月18日 能綾鼓

豊田市能楽堂七月能は、七月十八日(土)豊田市能楽堂で開催。能(宝生流)「綾鼓」、狂言(和泉流)「二人袴」を上演する。解説豊田市能楽堂企画運営委員、柳沢新治氏
狂言「二人袴」シテ三宅近成、アド三宅右近、同・高澤祐介、アド太郎冠者・三宅右矩
能「綾鼓」シテ今井泰男、ツレ衣斐正直、ワキ森常好、アイ三宅右近

演能案内

名古屋能楽堂六月特別公演

六月六日(土) 午後二時半開演
名古屋能楽堂

能 道成寺 片山清司
高安 勝久 河村恭一郎 井上敬介
赤頭 杉江 元 柳原富司忠 藤田六郎兵衛
能 力 佐藤 融
鹿島 俊裕
後見 泉 梅田 嘉宏 八神 孝充 清沢 一
久田 勘麿 地謡 本 田 孝 武 田 邦 弘
勸 麿 山 幸 親 祖 梅 田 邦 久
鏡 後 見 武 田 大 志 八 神 孝 充 清 沢 一
青 木 道 喜 高 橋 瞭 一
狂 言 後 見 佐 藤 友 彦 今 枝 郁 雄
井 上 靖 浩 今 枝 郁 雄
(午後四時三十分頃終了予定)

【前売券取り扱い】名古屋能楽堂(TEL052-231-0088)
プレイガイド(袋アプレケ922・松坂屋ほか)
ナナイアバール(TEL052-2655-2915)
チケットぴあ(TEL0570-0255-9999)
前売り 指定五〇〇〇円 一般四〇〇〇円
学生三〇〇〇円
自由席のみ当日五〇〇円増

主催 名古屋市文化振興事業団
能楽協会名古屋支部

能と狂言の催し

六月七日(日) 午後一時半始
名古屋能楽堂

能(宝生流) 八島 表巳清次郎
狂言(和泉流) 文蔵 井上菊次郎
能に関する文学と文物の総合的研究
研究代表者 逸山一郎
(愛知県立大学教授)

オセロ

六月十三日(土) 午後二時始
名古屋能楽堂

出演 善竹寛太郎、土田聡子、善竹忠英、井上菊次郎
佐藤友彦、佐藤融、井上靖浩、亀井英ほか
全席指定 A席五〇〇〇円 シアター・プロジェクトS
CB席四五〇〇円 事務局
C席四〇〇〇円 電話03-3384-2085
FAX03-3384-2085

名古屋観世会定例公演

六月十四日(日) 十二時半始
名古屋能楽堂

能 通小町 観世 善正
観世 善之
飯富 雅介 河村 貞之介 藤田 六郎兵衛
雨夜之伝 後藤 孝一郎
後見 武田 邦久 地謡 八神 孝充 清沢 一
梅田 嘉宏 武田 邦弘
梅田 嘉宏 久田 勘麿

狂言 仏師 都の徒者 井上 靖浩 田舎人 井上 菊次郎
後見 佐藤 融

仕舞 芭蕉 武田 志房
水無月祓 加賀 敏彦
能 海士 高安 勝久 寛 津一 加藤 洋輝
祖 父 尚 史 一 後 藤 嘉 津 幸 大 野 誠
橋 本 幸 間 佐 藤 友 彦

後見 梅田 嘉宏 地謡 吉 須 部 迅 加 賀 敏 彦
武 田 志 房 大 志 親 久 田 勘 麿
武 田 大 志 幸 親 世 正 正 邦

附 祝 言 (終演四時半頃)

【有料】
当日券六千円
主催 名古屋観世会
事務所 名古屋市昭和区台町2-16
TEL/FAX 052-841-4631

木藤夫・波多野敬、豊嶋三千春 (以上シテ方) 太鼓に安福春雄、太鼓の前川善雄が来演。

第六五回(観念)は同年一〇月二四日、舞囃子「養老・水波之佐」大江又三郎、能「小鍛冶・熊頭」泉嘉夫(前)大槻文蔵(後)西村欽也、高安勝久、狂言「狐塚」井上松次郎、井上礼之助、在

藤卯三郎、能「定家」大槻秀夫、西村欽也、能「狸々乱・双之舞」橋岡久馬、鈴木一雄、高安勝久。他に南条秀雄、泉泰孝、小林二郎

(以上シテ方)、太鼓の観世元信が来演。

沼淵雨の番組解説に次の人物月旦がある(抄録)。

大槻秀夫 能楽師多しといえども、この人程篤実な芸風の人はいらぬ。その人程、舞行柳「木賊」「砦」「卒都婆小町」こうした曲をこゝ、数年つゞけて舞つて、そのどれもが話題になっているので、これらを得意とする各流の名匠は多いのですが、それとは又違った、それもいかにも能らしい能を見せている大槻氏に、西村弘敏・田鍋惣太郎師を配し、「定家」を求めたのは、今回の企画中の白眉といわねばなりません。

橋岡久馬 能楽界にあつて全く文字通りの異色の存在は、今更いうまでもないでしょう。この人の異色は、講、型の独特だけではなないのです。例えば「狸々乱」の双之舞などというものは、親子とか兄弟同門同志とか、全く呼吸の

合ったものが舞うべきものですが、一度も一緒に舞っていない、とはいえないかも知れませんが、そのような鈴木一雄氏と組む、この自信の強さは恐らく能界無比でありましょう。

鈴木一雄 先代権若万三郎秘蔵弟子として、その人柄と同じよう

◆ 早春から陽春の舞台 ◆

「名古屋観世会」 「名古屋能楽堂定例公演」 「名古屋宝生会定式能」 「第四回西村同門会研究能」と「豊田市能楽堂・四月能」

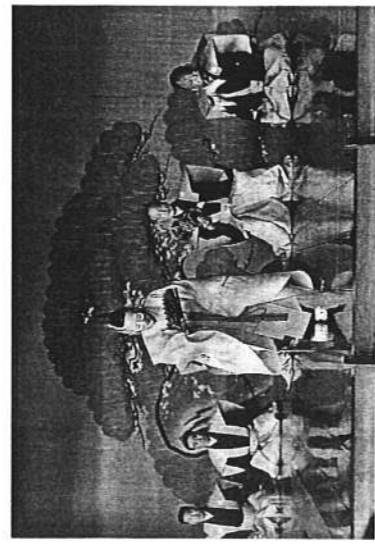
竹尾邦太郎

「高砂」肥後「の宮」阿蘇乃宮の神主(ワキ勝久、従者(ワキツレ元(幸)を伴い)「この善悪ひ立ち」と暢気な行動は、瀬戸内を往く船旅の長閑な道行、ワキ・ワキツレ連吟は如何にも朗らか。上京の途次、名勝高砂の浦に憩うも一興を思わせる。たゞ、能作者、瀬戸内に通じる海に近い豊前「の宮」宇佐神宮の神主を何故ワキに、と思わぬでもない。

さて、浦には老人夫婦(シテ勸鶴ツレ一政)の、連吟に現在の心境を述べるところを見始めてワキ、シテとの問答、シテ・ツレとの掛け、高砂の松と住言の松、国を隔て相生の松とはと置せば、自身夫婦になぞらえ、万里を隔ても、へ妹背(愛し合う女と男)の道は遠からず、とツレ嬢。当世の長距離恋愛も思われる。更に聞かせるところは、と交き付けるワキに、高砂は万葉、住言は古今、尽きぬ歌の道は御代を崇める縁え、とシテ・ツレ掛けに語るが、氣負いがあるか、シテ謡が乱れる



昭和46年6月6日 第64回「鶴越小町」左より片山博太郎(後見)、安福春雄(大鼓)、山本博之(シテ)、田鍋惣太郎(小鼓)、藤田六郎兵衛(笛)、宝生弥一(ワキ)

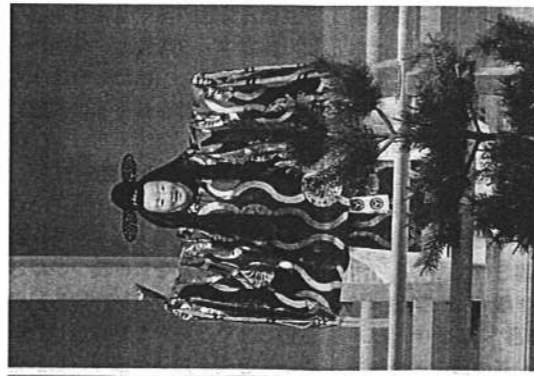


同上 左より八木藤夫(後見)、片山博太郎(後見)、山本博之(シテ)

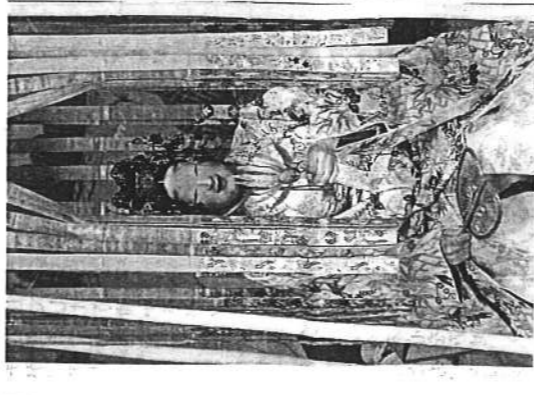
ところがあつて一寸残念。「高々高砂の松のめでたき調れ委しく」とワキにせがまれ下居に説くクリ・サシ・クセ。目付柱の方へ耳を欲て鐘の音を聴く上々端から竹把(サラへ)を取つて立つと、へ掻けども落葉の尽きせぬは、で右へ一度、左へ二度、二度目に慎重に掻き寄せる趣は松葉への敬意とも。クセ留めに正中ワキに向き下居、ワキに養性明かし、へ住言に先づ、と頭上高々と上げた扇を倒して後方を指示し、立つと正面へ乗込拍子にへ小舟に、乗る心は、阿神を大きくあげ、帆に擬した袖に風を孕ませ常座へ、へ沖の方に、の返し句に袖下ろすと静かに中入。

後シテは住言明神(勸鶴)、颯爽と一ノ松に出る威容(写真)は、舞台へ入つては二月の雪、を袖に受ける純な心気も晴れやかに、神舞三段力強く清朗に舞い上げ、天下泰平を誓うキリ、阿神きりりと巻き上テ常座へ行くところ、溢れる力感に勸鶴充実ふりをみせた。(1時間20分)

「宝の笠」別名「隠笠」。果報者の主(シテ菊次郎)の命で宝鏡への出品物を護送のため上京の太郎冠者(郁雄)、序でに都見物



観世会「高砂」久田勸鶴



観世会「楊貴妃・台留」観世清和

も、の浮かれ気分。宝の入手法も確かめず出たのを悔やむも後の祭、「買り買ふ物も呼ばはれば調ふ」を奏踏すれば、おまごかしに振り寄るスツバ(友彦)。目を抜く油断のならない都の怖さを打(ぶ)ちながら、古書笠を「面白可笑しふ言ふて売りつけてやらうと存する」と、ちゃつかり騙しに掛かる狡猾。舌舐りせんばかりの友彦、芸功をみせる。

鬼ヶ島で鎮西八郎が朝が力勝負で鬼から奪つた隠れ笠、姿が消えるのは笠の所有権者がそれをかぶつて被験者となる時だけ、余人には見えないという効力がある、と弁舌も爽やか。戻つた太郎冠者、主にそれをかぶせるが、岩園からんや姿が見える。謀られたと何と事象を取捨しようにも「見へぬ所をそれがしも見たい」と言われ、ば最早打つ手は無い。狼狽する郁雄の表情がよい。「身共を抜きをつたな」(写真)「あの横着者」と激怒の主、事前にきちんと教えなかつた己れに非にも苛立つか。(32分)

「楊貴妃・台留」玄宗、七き貴妃への思慕然し難く、その魂魄の在処を探索に連れられる方士(ワキ茂十郎)漸く仙界に至り、

この所ノ者(アヒ)とこの問答から目指す辺りで様子を一窺



名古屋能楽堂定例公演「隅田川」左より宇高通成、倉知益巨(子方)、高安勝久

は「や」と硬着くと、囁々とした笛(六郎兵衛)のアシラとは奈頼尽きず、一気に蓬萊宮の世界へと舞台が墜つ。

宮から洩れる貴妃(シテ清和)の、静かに古を述懐するサシからワキとの掛けは、へ丸華の帳を押し除けて、と引通シが下ろされる所、豪華な調子の舞帯を下げる所謂「玉簾」の慶美は正に金殿玉樓。宝生などは小書とするが、観世は替。初回(芳仲・邦弘・勸鶴ら)へ(六宮の粉黛の)顔色の無きも、で左右に聞く玉簾の典、文字通り類無き貴妃の麗姿である。

恐懼平伏のワキが玄宗皇帝の近況、勸の趣を伝えれば、「げにけに汝が申す如く」とワキに面を向けるシテだが、君の情けは却つて辛く恨めしい、と直り魂魄を消



観世会「宝の笠」左より今枝郁雄、井上菊次郎

す、とシラルのも切ない。目的を達して帰途に当たり、君への報告に証拠をどうワキへ、「これこそ在りし形見よ」と鏡(かんざし)を手にするシテ(写真)に、類似品の無い、君と交わした言葉を求めるワキ。それもそう、と掻き立てられる古の思いに吐露する體言、へ今洩れ初むる、とシラルのが哀調の地と相違つて正に嗚咽。帰途に就くワキに、へよしさらば暫し待て、と床几を立つシテは、と宮を出ると鏡をワキに戻させ、物着に姿を整えると、一セイ・イロエを省き直ぐへそれ過去遠々の、とクリ・サシに生々流転の哲理を説き、クセに己が帰途を回顧する。上り端まえ、へ哀れ憐き身の露の、と宮の柱に纏まるのは、思い胸に迫る腕力感を支えるため、へ静かに語れ裏き音、とワキにアシラつて促すように左手指スのも思いの深さ。が、へさるにグ端へ(その文月の)七日の夜、と踏む拍子に交刺る万感である。序之舞はいわゆる霓裳羽衣の曲、典麗優雅なシテ宗家の気品、舞上げると鏡は再びワキに渡り、へ暇申して、と立つと一ノ松へ。シテは後ろ髪引かれるかに正中へ出、ワキに招き戻ると、平伏するワキにへさるにてもさるにても、へ君には此の世違ひ見ん事、と哀訴する様に力なく下居、へ蓬が鳥つ鳥(よも有らじ)、と目付柱の方へ視線泳がせるとへ浮



名古屋能楽堂定例公演「鼻取相撲」左より野口隆行、奥津健太郎、野村小三郎 (撮影・杉浦賢次氏)

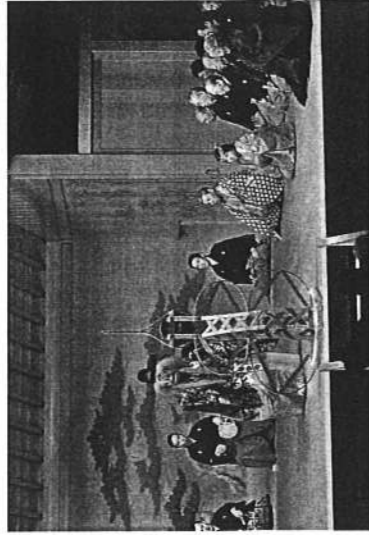
世なれども、と立ち、ワキは幕へ、シテはへ蓬葉の台に、と宮へ入り、直ルと唐園扇左へ取り、阿神に抱き締めるように沈みトメた。余情惻々、哀感一人、好舞台だった。(1時間22分・2月8日・名古屋観世会)

「鼻取相撲」 「敢相撲」などと同工のいわゆる相撲物の一。例によつて「一人ではあまり使ひ足らぬによつて」と召使う者の新報採用を太郎冠者(アト隆行)に酷る大名(シテ小三郎)、「それはこなたのお心任せで御座る」の巻えに「一度にとつと八千人」と調子に乗る大名だが、結局、五百人がくわつと減つて二人、それも「汝とも」とあれば一人の採用、この辺り誰に気兼ねの無い主従の、あつげらんとした問答が可羨しい。太郎冠者が街遣でキャッチしたのは万能に達した男小アト健太郎、中でも相撲が得意と。しかし、取らず段にも相手が居らず、已むを得ず大名が。未知数の相手が怖いくせに強がる大名、初戦を鼻取の奇手で負ける、と、再戦は土器の要害で鼻を防御して勝利。ここで終りに、と太郎冠者に「同じくは置けと言へ」と命じるが、相手は是非にもと三戦目、突き出す右手を外され、足を暫し沈黙の不気味は、「おのれはそれに何をしてゐる」と嘆み、鬱憤晴らしは太郎冠者を倒し、「勝つたを勝つたぞ」と叫ぶが口吻は (4)画へつづく

捨て鉢。小三郎、我が儘大名の性格を活写。(40分)

「隅田川」商人(ワキツレ正樹)に乗船を促す渡守(ワキ勝久)の逢後、我が子の行方を尋ねる母(シテ通成)は一ノ松、さ迷う心はへうはの空、と小廻りからへ松に音する、の地(恭憲・竜成・徳成ら)のうちに舞台へ入りカケリ、囃子(六郎兵衛・孝一郎・絵二郎)と相俟って嵐風狂乱の横は陸路とした趣もあり惹きつける。ワキとの都鳥問答があつて、へ隅田川の真まぎ、と一ノ松へ抜け、へ限りなく遠くも、と笠に手をやり舞を見込むところ、渡船を乞うのにへさりとは乗せて、とワキに手を合わせるところ、など胸のうち痛切に思われる。後鳥が狂母をひき、船中では身しろぎもしないシテ、ワキ語の中、「終に事終つて候」で、ひっそり双シラリのシテは、船が着き下船を促されて「なうなう今の御物語は」で、漸くシラリを解き、ワキを質し問答になる。徐々に我が子の死が明らかになり、感情が昂ぶつてくるころ、クドキにへこの世の姿を母に見せさせ給へや、とワキに手を合わせるところ、など人情の機微儼やかにみせる。

へ目の前の浮世、は即ち現実、双シラリのシテに鉦を持って立つワキ、へ既に月出での出に掛けて子方(権若丸・倉知益臣)は切戸から塚に入るが、なおも塚に掻き巻かれるシテに「母の申ひ給はんをこそ」死者は喜ぶと言ひ含めるワキ、シテは漸くシラリを解き、へ我が子の為と、鉦鼓を取る。念仏の段はシテ、ワキ連吟が金剛座付高安の縁の立派。へ幻に、と子方に気付き、櫓木を取り落して手を取り交わさんとするところ(写真)は正直に過ぎると思ったが、キリへ真雲の空もほのほのと、左手カザシテワキ柱上を眺めるところはよかつた。へ我が子と見えしは、と大きく双手を拡げて塚に寄り、左手触れるとへ草花々、と右手で撫でさすり、退つて直恥とへ浅茅が原となるこそ、と目付柱石へ呆然と眺め、双シラリのま、寂々とした笛のアシラヒを聴き、吹き止むとシラリ解きトメた。余

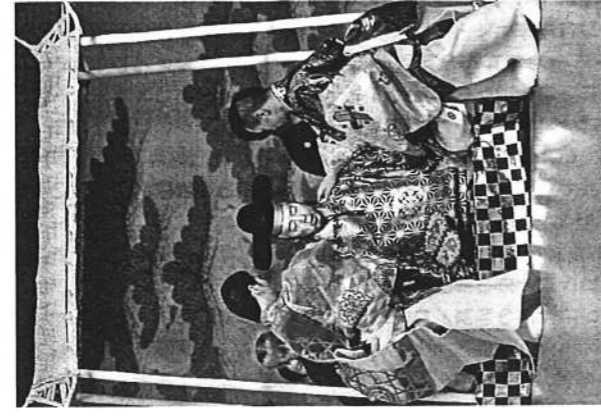


西村同門会研究会「松山鏡」左より長田隼、飯富雅介、園田光樹、松井俊介

韻囃々哀傷一人だつた。(1時間25分・3月7日・名古屋能楽堂定例公演)

「雲林院」幼時より「伊勢物語」に親しむ声屋(公光(ワキ雅介)、雲夢を得、従者(ワキツレ幸・正樹)を伴ひ花の雲林院へ赴けば、日く有りけな老翁(シテ雅)に出遇い、手折る桜枝を咎められ、手折る心の是非を巡り古歌問答になる。こ、桜の巻の有無を言う「西行桜」に似る。是とするも非とするも共に風流の心ゆえ、へ柳桜をこき交せて都若春の錦なる、と遠くへ視線を廻らしながらスミから左へ回り常座へ至る風情、聴き深く練達のシテならこそ。ワキの素姓、来意を知ると、シテは続きの夢を見るようワキに促し、不審するワキにへ我が名を何と夕映の、と身許はかしたま、に送り笛で中人の後ろ姿にも芬囲気。

後シテは在原業平ノ靈(雅)、



西村同門会研究会「威陽宮」左より原大、衣斐正匡、小林努

面中將・初冠(垂織・老懸)、石屋文厚板着付・紫指貫・白地單袴衣の瀟洒な姿、大刀は佩ない。夢枕に立ちワキの求めに語るの二条ノ后との逢瀬に交遊の舞樂のこ。クセ中、へ柴の一本柱の藤椅、と七ノ拍子踏むのは連行の語りか。へ冠の巾子にうち扱き、では正先に佇立するが、密やかに辺り窺う心だらうか。へ降るは春雨か、と肩高くカザシテ見上げ、へ落つるは涙か、と下へ見る姿には寂寥の思も如実。シテ、心象描写に力量をみせる。序之舞は三段、織細入念に舞上げ、キリはへ山笠の羽袖、と雲ノ層に笠柱上をみる姿が奇麗だつた。(1時間31分)

「角説法」従依養に僧のお出でを願う施主(アト増造)、相僧の留守で代りに新発意(シテ懸)がお布施欲しさになつて来る。しかし、俄に鞋も読めないシテ、海辺宵で魚名に詳しいことを好む事に、言葉の鳥籠を抑揚さもそれらしく、あらゆることから贈物を嫌う仏寺に魚名尽しの説法を展開。茶目つけのシ



西村同門会研究会「松山鏡」飯富雅介

テが、アトに見破られ退い出される際まで、捨て台詞も魚名に茶化してしまふ強かさが盲く出た。(20分)

「桜川」貧窮に忍びず、我が子・桜子が自らを身売りした代金を、母(シテ愛)の許に届ける人商人(ワキツレ幸)、シテは添えられた文(ふみ)を三ノ松で読から目を上げるが、人商人は匆匆御名残こそ惜しう候へ、の一方をらぬ哀調は若い女流のシテの感情移入の激しさである。名残惜しいのならへ何しにか(何故)、と初回(輝和・孝・耕司ら)に文を持つ左片手を放せば、はらりと垂れる文は落胆絶望の象徴ともみえる。

後場は子求め物狂となつて送る母の後日譚。今は寺住みの桜子(子方・坂口悦)、住持達(ワキ勝久ワキツレ元)の供で桜川へ観桜の旁ら、里人(ワキツレ正樹)が勧める物狂の芸も見せて貰い、図らずも母に再会する。

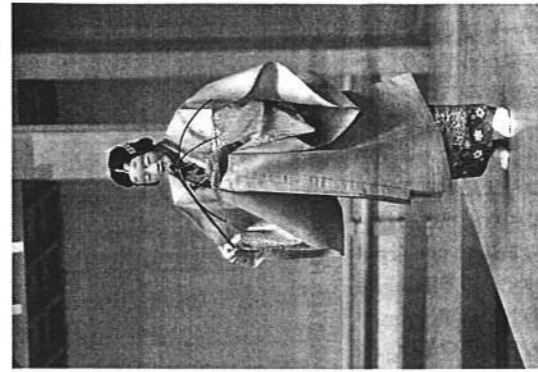
シテは面深井・横浅黄・白地褶袴着付、藍地秋草文襦袢腰巻、浅黄水衣、抄網を担げ一ノ松へ出、へいかにあれなる連行人、とワキの一行に桜花の様子を問ひ掛け、散り初める花に暮る悲しみをカケりにみせる。極く幼い子方が笑いが離せず、ついシテを等閑視せざるを得ない程だつた。眼目の網之段は、地へ告は散るを怨みなる、と後鳥から抄網を取ると、へ三吉野の、で担ぎ、へ花を抄は、と抄つてへもし国栖魚や、と正先に置く抄網を見詰め、へ花も桜も雪も波も、と常座へ。へ抄ひ集め持

ちたれども、と抄網を両手に持ち集める心をみせ、へ(これは木々の花)まことは、と落胆の心で投げ捨てる時、へ我が桜子ぞ恋しき、と安座シラルところ、子方がシテの美の娘と聞き及ぶので、ひどく現実味を帯びて感じられた。子方と相俟ち、シテ、母性愛に味をみせ好演。(1時間12分・3月15日・名古屋宝生会定式趣)

「威陽宮」密かに隙を狙う隣国燕の、地図と謀叛人・機伶術の首級を差し出せば、何事も望み叶える、との奏ノ始皇帝(シテ正宜)の勅諭を触レル官人(アト)。早速、この時と刺客となつて燕を発つ荆軻(ワキ大)と奏舞同(輝和・孝・耕司ら)に文を持つ左片手を放せば、はらりと垂れる文は落胆絶望の象徴ともみえる。

後場は子求め物狂となつて送る母の後日譚。今は寺住みの桜子(子方・坂口悦)、住持達(ワキ勝久ワキツレ元)の供で桜川へ観桜の旁ら、里人(ワキツレ正樹)が勧める物狂の芸も見せて貰い、図らずも母に再会する。

シテは面深井・横浅黄・白地褶袴着付、藍地秋草文襦袢腰巻、浅黄水衣、抄網を担げ一ノ松へ出、へいかにあれなる連行人、とワキの一行に桜花の様子を問ひ掛け、散り初める花に暮る悲しみをカケりにみせる。極く幼い子方が笑いが離せず、ついシテを等閑視せざるを得ない程だつた。眼目の網之段は、地へ告は散るを怨みなる、と後鳥から抄網を取ると、へ三吉野の、で担ぎ、へ花を抄は、と抄つてへもし国栖魚や、と正先に置く抄網を見詰め、へ花も桜も雪も波も、と常座へ。へ抄ひ集め持



豊田市能楽堂四月能「桜川」大槻文蔵



豊田市能楽堂四月能「腰折」左より山口耕道、茂山忠三郎、杉浦賢次氏

呪咀する木偶かと疑い、早々と不心得を諭せば、娘は母形見の鏡と明かし、恋しい時は見るようにの言葉に、映る自分の顔を若やいだ母と思ひ込み、亡き後も身近に居る有難さを言ひ含め、不審なら鏡の前へ、と常座下居のワキへ訴える機にアシラフ。事の次第を知り、ワキは亡者の幻影に纏わる道士・本朝の故事を詩々と説き、鏡の裏体を聞かすが、なお娘の鏡信仰は拭い難く、鏡の前にシラル娘。クドキへげにや別れての、と訴える様にワキへアシラフ娘に、今は現実を直視させねばとワキ。

「御覧せよ」と居立ち、鏡を指シ(写真)裏体を明かせば、漸く納得する娘だが、へ鏡の中の姿に母を奪つていらさきに、へ父は涙にかき替れてや、と双シラリのワキは、心を曇らせ素直でなかつた己れを恥じるかに退く。

会釈の囃子(誠・嘉津幸・真之介)で娘の夢枕にいつとき喜界から現れる母ノ靈(ツレ俊介、面妮・横浅黄・段敷斗月か・黒水衣)、往時は全て夢、旧知は大方七く、とクリ地。正中、床几に舞台も賑やかに物語の展開にワキ方の活躍が大きく、テンがも軽快で劇面を見る面白さ。あまり上演されず、たまに出ても学生流が多い。ワキ方の五人は岡治郎石衛門・谷田宗二郎・森晴蔵達の後を継ぎ、主に京都で活躍する高安流だったが、洗練と力強く好演だつた。(45分)

「松山鏡」七妻の三回忌に焼香をよ松山来(ワキ雅介)、娘(子方・園田光樹)の声を聞きつけ持仏堂を開けさせれば、何か隠す気配に、さては噂に聞く継母を

台前に引き出すが、玻璃の鏡に映る姿はへこはいかに、娘の功力で言葉に、驚くシテは憤然独り地獄へ、へ奈落の底にぞ、と常座で飛返つてトメた。

正にワキ方の能で、娘の挙動を疑い論ずるところ。異なる事を言う娘の誤りを正さんとするところ。辺境に居て無知にならざるを得ない娘に目を開かせるところ。何れも長大なワキの語を情感ある明晰な口跡で語る雅介に巧味、充実ぶりを示す。対する子方はシテの外派五年生というが雄気に頭張り立派、舞台を盛り上げる。シテの出番が極く少なく、ワキ方の催しでも減多に上演されない稀曲。今回も全員初演であらう。因に当地演能記録には昭和一五年にシテ橋岡久太郎・ワキ西村弘敬がある。(52分・3月29日・第四回西村同門会研究会)

「腰折」シテ忠三郎、アト良暢・耕道。シテは祖父(おおじ)の面をつける。馴染のない土地で頻りに来演もないとすれば、演者の素(ま)が直に感じられる直面の狂言が見たかつた。「腰折」にも直面はあるが、それも演者の気持ち次第で見所の与り知らぬこと、大方は直面で演じられる狂言の中、それもたつた一番の上演に、面を必要とする少数の曲からの選曲、一考ありたい。たゞ舞台は、祖父の腰を伸ばしてあげよう、の善意からた山伏(貞樹)の行為が、無程に感感運りにならず、一所懸命にも雅気がみられ、良暢の持ち味が出て面白かつた。(22分)

「桜川」貧窮を見兼ね、身売

りをして母(シテ文蔵)を助ける桜子(子方・寺澤若庵)の後を、狂気して探し求める母は、流浪の果て常陸国は名も懐しい桜川で、たまたま近在の住僧(ワキ茂十郎)が観桜に伴う桜子と再会する。

散り初める桜に、我が子の消息を重ねる心を、無様に駆られる狂おしいカケリに目撃にみせ、網之段では、散る桜を道うように正面から面使とつ、シテ柱近く行き、へ抄ひ集め、と框外から花片を抄う心はへ持ちたれども、と左手で抄網の底をもたげて沁々見るところ(写真)、美しい型に桜子を恋う心懐をみせて素請らしい。桜子の幻相を散られ、へこれは木々の花、と抄網捨てるとへ我が桜子ぞ恋しき、と安座双シラリ。落胆まざまざと哀感強く迫り、内面描写の優れた立派な舞台だつた。(1時間22分・4月4日・豊田市能楽堂四月能)

※名古屋能楽堂演能写真
撮影・杉浦賢次氏

前号訂正
4頁2段8行目 八は片仮名のハ
3段4行目 群は郡
6段後から5行目「」は()
6段括弧は括弧
7段14行目 叫は叶

NHK放送予定(平成21年6月~7月)

6月28日 NHK-FMラジオ能楽鑑賞(毎週日曜日7時15分~8時) 観世鏡之丞(ほか) 野村四郎 今井泰男

7月5日 素謡「歌占」(再)観世流 観世鏡之丞(ほか) 野村四郎 今井泰男

7月12日 独吟「能野」(再)観世流 観世鏡之丞(ほか) 野村四郎 今井泰男

7月19日 独吟「松風」(宝生流) 観世鏡之丞(ほか) 野村四郎 今井泰男

7月26日 素謡「天鼓」(観世流) 観世鏡之丞(ほか) 野村四郎 今井泰男

7月26日 素謡「杜若」(再)(喜多流) 観世鏡之丞(ほか) 野村四郎 今井泰男

●NHK教育テレビ(15:00~17:00)

7月12日 能「夜討昔我・十番切」(観世流)

7月12日 能「夜討昔我・十番切」(和泉流)

演能カレンダー

名古屋能楽堂

(能・狂言演能関係)
(TEL 052-231-0088)

月	日	演能	観覧料
6月	20日(出)	能 能 能	(有料)
7月	21日(出)	能 能 能	(有料)
7月	22日(休)	能 能 能	(有料)
7月	23日(休)	能 能 能	(有料)
7月	24日(休)	能 能 能	(有料)
7月	25日(休)	能 能 能	(有料)
7月	26日(休)	能 能 能	(有料)
7月	27日(休)	能 能 能	(有料)
7月	28日(休)	能 能 能	(有料)
7月	29日(休)	能 能 能	(有料)

能楽の友

発行能楽の友社

名古屋千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464-0858)
電話 (052) 731-798 4
FAX (052) 733-283 7
振替口座 00800-6-36393

購読料 1年 1100円
1年 1800円
郵送の場合 1100円

お洒落名匠狂言会

7月12日 名古屋能楽堂

狂言共同社主催の「お洒落(おしゃらく)名匠狂言会」は今回第10回迎え、7月12日(日)名古屋能楽堂で開催、大蔵流・山本東次郎師、和泉流・野村万作師らが来演、両流の名手が競演する。午後1時半開演。

番組は、素囃子「高砂八段之舞」と和泉流狂言「まぶかり」(井上清造)

大蔵流「鶴生」(山本東次郎)
和泉流「川上」(野村万作)
和泉流「首引」(佐藤友彦)

S席八〇〇〇円、A席六〇〇〇円、B席四〇〇〇円。

第8回 名駅新能

能「小袖昔我」[鉄輪]

7月26日 観世宗家来演

「第8回名古屋名駅新能」は、7月26日(日)観世流宗家・観世清和師が来演して、J.R名古屋駅・タワースガーデン特設劇場で開催される。午後5時開場予定、午後6時開演。

入場は無料、ただし整理券が必要。整理券の応募方法は、往復はがきに、郵便番号、希望席数(1名2名まで)を記入のうえ、次の宛先へ送付。当選発表は発送をもって替える。

宛先 〒453-10024、名古屋市中村区名駅4-16 大黒寺内、名古屋名駅新能実行委員会事務局、☎052-482-3580、応募締切、平成21年7月3日(金)必着。ホームページからも応募ができる。Eメールは不可。

雨天の場合は名古屋能楽堂で午後7時開演、当日午後3時決定。会場変更の場合、ホームページならびに東海ラジオ放送で午後4時ごろ告知される。

名古屋名駅新能
主催 財団法人観世文庫、名古屋名駅新能実行委員会
演能は次のとおり。(番組②面掲載)

観世流能「小袖昔我」シテ久田勘鷹、ツレ久田勘吉郎
舞囃子「胡蝶」シテ久田三津子、和泉流狂言「柑子」シテ佐藤友彦、アト今枝郁雄

7月のたにまち能

7月5日 山本能楽堂

山本能楽会主催の山本能楽堂定期能「たにまち能」の7月公演は「素謡会」として7月5日(日)上演される。午後1時開演。

素謡「救世」(シテ山下麻乃)
素謡「松風」(シテ森本哲郎)
仕舞「松虫キリ」(松浦信一)

名古屋能楽堂定期公演

能・狂言でたどる天下統一の道(前篇)

七月五日(日)午後二時開演
名古屋能楽堂

解説「面と装束について」久田勘鷹

熊野

観世 喜正
小島 英明

一管 鈴之段 街・藤田六郎兵衛 (特別出演)

七月四日(土)午後二時始
名古屋能楽堂

能の案内

「能の旅人」
のうのう能「名古屋」

七月四日(土)午後二時始
名古屋能楽堂

幸清流小鼓方

柳原富司忠氏 去

7月3日 告別式

幸清流小鼓方・能楽協会名古屋支部副支部長・柳原富司忠氏は、6月31日、くも膜下出血で逝去。享年62。通夜は7月2日午後6時から、告別式は3日午前10時から

名古屋千種区千種2-19、いちやなぎ中沢斎場で執り行われ、能楽関係者はじめ多数の会葬で盛儀であった。喪主は美貞子さん。

「写真は告別式場」

「女郎花」(今村一夫)
素謡「遊行柳」(シテ波多野重)
仕舞「加茂」(今村宮子)「橋貴妃」(河村栄重)「鶴桐キリ」(林本大)
素謡「玄象」(シテ山本章弘)
入場券、一般券五五〇〇円。問い合わせ、山本能楽堂/TEL06-6943-9454、FAX06-6942-5744。



第10回 御洒落名匠狂言会

七月十二日(日)午後一時半始
名古屋能楽堂

舞囃子 高砂八段之舞 大蔵 河村真之介 本鼓 加藤洋輝
小鼓 後藤嘉津幸 笛 大野誠

末広がり (和泉流) 観覧者 井上清造 太郎冠者 今枝郁雄 使ら者 大野弘之 (後見 今枝清雄)

蝸牛 (大蔵流) 山伏 山本東次郎 主人 山本則俊 太郎冠者 山本泰太郎 (後見 遠藤博美)

川上 (和泉流) 男 野村万作 妻 石田幸雄 (後見 深田博治)

首引 (和泉流) 観 鬼佐藤友彦 後見 鬼鹿島俊裕 鬼今枝郁雄 鬼長米大枝 鬼高橋則博 鬼今中島知 鬼朝宗貴 鬼枝郁雄 鬼大野弘之 (後見 大野弘之)

前売券(全席指定)

A席八〇〇〇円、B席六〇〇〇円、C席四〇〇〇円

(当日券は前記金額より一〇〇〇円高)

取扱い チケットぴあ05770-02999
ブレイクガイド(栄アトレケ92・2・松坂屋ほか)
(Pコード:394・930)
名古屋能楽堂(052-228-3108064)
ナディアパークブレイクガイド052020-265-2015

主催 狂言共同社
電話 052-834-8607
022-911-8784
(佐藤事務所)

当地の各流儀・流派・結社・社中の消息を辿る

竹尾 邦太郎

「名匠鑑賞会」

―― 承前 ――

先号で名匠鑑賞会は第六五回(納会)と記したが次回が予定されておき、日時も昭和四七年一月二日に決まっていた。なぜ納会となったかは催能を主催する名古屋能楽鑑賞会・主宰の田鍋惣太郎翁が昭和四六年二月四日、脳内出血のため千種区千種町茂佐義の真市民病院で逝去されたことに因る。享年満八十六歳。

昭和四六年は今回顧すると、あたかも田鍋惣太郎が死を予期していたかのように着纏として過ぎ去って行った感がある。この年、一月十七日宝生会定式能に内藤泰二「桜川」に出動、一月三十一日梅若実一三回忌追善能には梅若六郎



田鍋惣太郎氏遺影 (高辻幸一氏撮影)

と組んで一齣「松虫」を手向け、二月四日観世会定式能初回には観世元正「草子洗小町」に出動。二月二日梅若会には梅若修一「融」、三月七日九草会に半能「融」、シテ観世喜之、三月二十八日恒例の中日五流能で野口樵久と一調「桜川」、四月二十五日梅若会で「巨匠」をシテ大槻秀夫と。そして五月二日の記念離子会を初日

とする田鍋惣太郎米寿記念・日加寿能が六月一九日を千秋祭に五回に亘つて催されることになる。仄聞するに、この企画は年齢を越えていた田鍋惣太郎が「来年は幾つになるな」と口にしたことから俄に実現の運びとなり、満年齢云々ということもあつた中で、昔風の呼び蔵八八歳で行なわれたと云う。これが短日月の間に企画を推進実現されたのは、惣太郎長男・幸清流嵐分・日本能楽会々員田鍋惣一郎の力が与つて大きかつたことは忘れられない。しかし田鍋惣一郎も、翌年四月八日、父惣太郎の後を追うように六五歳を一病に急逝した。感慨入りのものがある。

さて、記念能の挨拶に立った田鍋惣太郎は、八八という年齢を忘

れてしまつていたが、周囲の進めもあり、人生の里程標の一つとする意味もあつて、この祝賀能を持つたが偏に見所の昔様の御後援の賜である、と述べた後、エトモア たつぷりに「我は私は一日を二分に過ぎて居ります。その訳は、普通のお方は大概夕餉にお酒を召上りますが、私は朝晩お酒を戴いておりまして幸わせこの上もないと思つております。昔様には悪いのですが一日に二度の幸わせを戴いておりますので、このところ一年に二歳年齢をとつていることになります。でありますから恐らく百歳は疾うに越えているのではないかと思つております」と話し、見所はひとしきり笑いが振がり、和やかな気分が醸つて祝能に相応しかつた。

五月三〇日米寿記念・日賀寿能 第二日、番離子「翁」を喜多実・喜多長世、「道成寺」を大西信久と。六月六日、第三日には秘曲「鶴亀小町」を山本博之と。六月十五日千秋祭の乱能には目出度く「鶴亀」のシテを舞い上げる。尚、田鍋惣太郎はこれまでに世阿弥祭乱能・楽師会乱能などで慶々シテを勤めたが、これが最後の乱能となり、この年の師走一九日楽師会乱能「潮發遣」のシテは、惣太郎次男・藤田流宗家藤田六郎、

兵衛の代動となつた。七月四日調友会には舞離子「善知鳥」に出動、シテ梅若盛義。七月一日「能楽の友」発刊五周年記念能に「狸々乱・双之舞」シテ大槻文蔵・辰臺夫。八月十五日、日本能楽会第二回名古屋公演には観世元正のシテで「半能」に出

動、これが観世流宗家元正との最後の能となつた。田鍋惣太郎の生前、私は次のような話をつれつれに聞いたことがある。今の観世の家元が初めて名古屋へ来られたとき、確か「朝露」で御相手をしました、利発なよう出来た坊

名古屋能楽堂 夏休み親子能楽教室

8月4・5日 2日間

夏休みに「羽衣」を能舞台上で演奏しませんかと名古屋能楽堂で

は、「夏休み親子能楽教室」への参加を呼びかけている。主催は名古屋市文化振興事業団〈名古屋能楽堂〉、能楽協会名古屋支部。開催要項、申込方法次の通り。日時 8月4日(火)5日(水)の2日間。午前10時〜午後2時30分。会場 名古屋能楽堂能舞台・けい古堂ほか。曲目 能「羽衣」内容 1日目 仕舞と謡の練習 2日目 能面体験(能面をつけて歩いてみよう) 能舞台上での発表会。講師 衣装正宜、衣装美、犬塚恵(空生流シテ方) 参加費 親子1組1500円、(追加の場合 子ども1人500円、親1000円) ※当日は、白足袋持参で必ず長

スポン着用のこと。☆☆☆ 対象 小学校3年生から中学校3年生までの子どもとその保護者 募集人員 30組60人(定員を超えた場合は抽せん) 申込方法 はがきに住所、氏名(親子とも)、電話番号、学校名、学年、性別を記入して、次に郵送(FAAXでもよい)

十二世 野村又三郎信廣 三回忌追善

狂言也留舞会

七月二十日(月・祝)(海の日) 名古屋能楽堂

【第一部】 午前十時三十分開演
因幡堂 男 宇佐島昭子 妻 柴田 錦子

締切り 7月13日(月) 当日消印有効
申込み先 〒460-0001 名古屋市中区三の丸一丁目一 名古屋能楽堂「夏休み親子能楽教室」係
TEL 052-231-0088 FAX 052-231-8756 E-mail: /www.bunka758.or.jp/

痺 生種 大徳冠者 小川 泰範 主 伊藤 泰 伯 父 林 恭子 伊呂波括 壺 斯ッパ 坂倉 純子 中岡の者 野村小三郎 目代 宇佐美昭子 妻 徳田 文三 夫 吉村由紀子 弟 堀場 将吾 兄 野村 信朗 (能楽堂長退任)

狂言小舞 法師ケ母 平山みよ子
伯母ケ酒 男 田 篤 晴雄 伯 母 原 有作 柿山伏 山 伏 田 端 泰衛 地 主 藤 藤 徹 祐 善 花巻の雀 伴野 俊彦 所の者 松村 美和 伊藤 十智子

【第二部】 午後二時開演
苞山伏 通りの者 東 信彰 山 山 伏 服 山内 理洋 井 杭 伊 達 義也 算 何 某 奥津 健太郎 口真似 大徳冠者 田 篤 慎太郎 客 主 伊 守 屋 善 巳 魚説法 新発童 吉本 有李 檀 家 太 田 育 子 狂言語 那須 語 伊藤 悦子

連吟 敦 盛 前田 純子 後藤 紀子 柴田 鏡 三宅 千生子 平山 みよ子 田中 芳子

伯母ケ酒 男 伊 達 義子 伯 母 松 田 萬 義 膏 煉 括 妻 加 藤 圭 津 子 夫 野 村 小 三 郎 犬 山 伏 都 方 喜 多 敬 儀 兼 方 喜 多 芳 夫 出 山 伏 吉 村 由 紀 子 茶 屋 野 口 美 和 大 磯 村 美 和 敦 子

御来場歓迎 (入場無料)
主 雙 也 留 舞 会 参 加 如 月 月 会 菊 池 み の る 会 伊 勢 一 色 町 能 楽 保 存 会 謡 曲 信 謡 会

〔連絡先〕 野村事務所 名古屋市中区平和一丁目二十番四号 TEL (052) 35017971

第八回 名古屋名駅新能

七月二十六日(日) 午後六時開演
J.R.名古屋駅前タワー12Fガリアン

能小袖曾我 男主 武田 大志 梅田 義宏 母 上 田 公 威 久 田 勲 五郎 十郎 久 田 勲 河村真之介 後藤 藤幸 竹市 学 問 佐藤 融 後見 八神 孝充 梅田 邦久 地謡 須部 貞信 口賀 甫 祖父 江 修一 清松 一幸 親 上 田 正 弘 清沢 政 古 橋 正 祐 胡 蝶 久田三津子 狂言柑子 大徳冠者 佐藤 友彦 主人 今枝 郁雄 後見 佐藤 融 仕舞 雲 林 院 橋 岡 慈 観 親世 清和 森 常好 河村 総一郎 加藤 洋輝 鐵 輪 井上 靖信 柳原 昭司 鹿取 希世 後見 上 田 公 威 上 田 貴 弘 地 謡 本 田 勲 武 田 大 志 古 橋 正 邦 祖父 江 修 一 上 田 拓 司

主 財 団 法 人 観 世 文 庫 名古屋名駅新能実行委員会

〔要覧〕 申込方法①面参照 自由席は当日先着順

第五回 名古屋青雲会

七月二十九日(水) 午後二時始
名古屋能楽堂

仕舞 笠之段 奥頭 京子 高 山 孝 司 富士太鼓 衣斐 愛 地 謡 藤 原 巳 克 内藤 飛能 和 久 庄 太 郎 能 高 砂 同 楊 元 正 樹 河 村 真 之 介 加 藤 洋 輝 同 飯 富 雅 介 船 戸 昭 弘 竹 市 学 問 佐藤 融 後見 宝生 和英 地 謡 江 沢 陽 三 澤 田 宏 衣 斐 愛 地 謡 金 森 陸 吉 野 田 憲 正 高 山 孝 司 藤 原 巳 克 徳 克

〔来場歓迎〕 主 催 名 古 屋 青 雲 会 後 援 社 団 法 人 宝 生 会 名 古 屋 宝 生 会 問 い 合 わ せ 先 名古屋市昭和区御器所三丁目三十一番九号 御器所パーカマーション8802 電話 052-882-5680 衣裳正宜方

NHK放送予定(平成21年7月~8月)

Table with NHK broadcast schedule: 7月26日, 8月2日, 8月9日, 8月16日, 8月23日, 8月30日, 8月31日, 8月5日, 8月12日, 8月19日, 8月26日.

演能カレンダー

Calendar table for 名古屋能楽堂 with dates from 7月 to 8月 and event details.

能楽の友

発行能楽の友社

名古屋千種区千種2丁目18-18 (郵便番号 464-0858) 電話 A X (052) 731-7984

片山九郎右衛門氏

親世流・片山九郎右衛門氏は、このたび親世流・親世清和宗家より、雪号「幽雪」と、「老分」(ろふん)の称を授けられた。

人に与えられる称号で、片山九郎右衛門氏の永年の功績をたたえ、最老格の氏に今回はじめて授けられるものである。

全国学生能楽コンクール 9大学が出演

名古屋名駅新能は、ことし第8回をむかえ、伝説芸能の夏のイベントとして期待を高めているが、ことしから初の企画として「名古屋名駅新能 全国学生能楽コンクール」が併催されることになり、名駅新能当日の七月二十六日午前十時から名古屋能楽堂で全国から9大学の能楽クラブの出演で審査が行われ、当日午後5時からの名駅新能の会場で結果発表と表彰式を挙行し、最優秀大学には会場で舞いを披露する。

金剛家能面・能装束展覧会

金剛家の「能面・能装束展覧会」が七月二十五、二十六日京都・金剛能楽堂で催される。開催時間は午前10時~午後5時、入場料は千円。

審査員は親世清和、親世芳伸、葛西敏之、豊川正弘の諸氏。賞は最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞、中日新聞社賞など。入場無料

能楽特別鑑賞会 名古屋公演 八月十六日(日) 十二時半開演 名古屋能楽堂. Includes cast list and program details.

何御中 暑. Includes names of performers and their affiliations across multiple columns.

幽花会 片山慶次郎 伸吾

猶梅 梅若吉之丞 梅若猶義

名古屋観衛会 山本博通

名古屋観世九皇会 観世喜之 観世喜正 高橋瞭一

鳳鳴会 武田志房 武田友志

壺泉会 泉嘉夫 井上裕久 井上嘉介

名古屋観世会

観世清和

幽謳会 片山九郎右衛門 清司

大槻清韻会 大槻文蔵

大西智久

大西智久

〔金銭制〕
一般入場料五〇〇〇円(限定)
学生入場料二〇〇〇円(限定)

第25回 いわむら城址新能

8月22日開催
第25回を迎える「いわむら城址新能」は、ことし恵那市制五周年記念として、きたる八月二十二日(土)宝王和英家が来演して開催される。会場は岩村城灘主邸跡。午後四時半開場。午後五時半閉演。
番組は、仕舞「妬」花月「安宅」高野物狂△能「羽衣」(シテ宝王和英)△狂言「千鳥」(茂山茂)△能「鞍馬天狗」(シテ辰巳満次郎)
前売券四千円、当日券五千円
問合せ/まち並ふれあいの館(電話0573・43・4622)

第25回 いわむら城址新能

8月22日開催
第25回を迎える「いわむら城址新能」は、ことし恵那市制五周年記念として、きたる八月二十二日(土)宝王和英家が来演して開催される。会場は岩村城灘主邸跡。午後四時半開場。午後五時半閉演。
番組は、仕舞「妬」花月「安宅」高野物狂△能「羽衣」(シテ宝王和英)△狂言「千鳥」(茂山茂)△能「鞍馬天狗」(シテ辰巳満次郎)
前売券四千円、当日券五千円
問合せ/まち並ふれあいの館(電話0573・43・4622)

第25回 衣斐正宜後援会能

八月二十三日(日)午後一時開演
名古屋能楽堂

大蔵流狂言 人間国宝 茂山千作の世界

八月二十日(木)午後二時始
名古屋能楽堂

狂言 魚説経 傳 茂山千作 榎家 茂山正邦 後見 井口 竜也
狂言 鎌腹 男 茂山千五郎 女 房 茂山 茂 後見 山 下 守之
主催 名古屋市文化振興事業団
名古屋能楽堂

AS席(正面)三〇〇〇円
A席(正面・脇正面)二〇〇〇円
B席(中正面)一〇〇〇円
中学生以下五〇〇円
(全席指定)

草紙洗

飯富 雅介 後藤 孝一郎 鹿取 希世
間 佐藤 融
後見 寺井 良雄 地謡 竹内 孝成 佐野 水成 竹内 上上 佐野 光輝 和久 太郎 久野 幸三 水上 優夫

草紙洗

飯富 雅介 後藤 孝一郎 鹿取 希世
間 佐藤 融
後見 寺井 良雄 地謡 竹内 孝成 佐野 水成 竹内 上上 佐野 光輝 和久 太郎 久野 幸三 水上 優夫

草紙洗

飯富 雅介 後藤 孝一郎 鹿取 希世
間 佐藤 融
後見 寺井 良雄 地謡 竹内 孝成 佐野 水成 竹内 上上 佐野 光輝 和久 太郎 久野 幸三 水上 優夫

草紙洗

飯富 雅介 後藤 孝一郎 鹿取 希世
間 佐藤 融
後見 寺井 良雄 地謡 竹内 孝成 佐野 水成 竹内 上上 佐野 光輝 和久 太郎 久野 幸三 水上 優夫

草紙洗

飯富 雅介 後藤 孝一郎 鹿取 希世
間 佐藤 融
後見 寺井 良雄 地謡 竹内 孝成 佐野 水成 竹内 上上 佐野 光輝 和久 太郎 久野 幸三 水上 優夫

草紙洗

飯富 雅介 後藤 孝一郎 鹿取 希世
間 佐藤 融
後見 寺井 良雄 地謡 竹内 孝成 佐野 水成 竹内 上上 佐野 光輝 和久 太郎 久野 幸三 水上 優夫

観 芳 会

観 世 芳 伸
〒141-0042 東京都品川区東五反田1-3-14
電話(03)3280-3643

怡 楽 会

山 階 彌 右 衛 門
山 階 弥 次 次
〒141-0042 東京都品川区東五反田1-1-10
電話(03)3442-1570

藤 井 徳 三

邦 話 会

梅 田 邦 久
梅 田 清 沢 一
梅 田 須 部 一
梅 田 本 田 沢 一
梅 田 今 沢 美 和
梅 田 嘉 宏
〒466-0033 名古屋市昭和区奇町丁自十六五
電話(052)842-4363番

梅 春 会

井 戸 和 祐 男
良 祐 男
〒545-0004 大阪市阿倍野区文の里3-16-17
電話(06)6622-1222九

久 田 観 正 会

久 田 勤
久 田 舜 一
松 野 幸 郁
星 野 路 子 親
〒465-0001 名古屋市名東区一社3-1-10
電話(052)705-1555

上 田 貴 弘

上 田 貴 弘

上 田 観 正 会 能 楽 堂
上 田 観 正 会 TEL0781-6911544九

梅 春 会

井 戸 和 祐 男
良 祐 男
〒545-0004 大阪市阿倍野区文の里3-16-17
電話(06)6622-1222九

春 鶯 会

梅 若 善 高
〒500-0084 豊中市野上里野町三丁目18-12
電話(06)6321-7854
〒166-0003 東京都杉並区喜田寺南4-27-7・900
電話(03)3322-1057〇

泉 泰 孝

泉 泰 孝
〒108-0001 東京都杉並区宮前四一九四
電話(03)3333-160番

泉 雅 一 郎

泉 雅 一 郎
〒201-0002 東京都江戸川区野田四六一八
電話(03)3484-845番

名 古 屋 修 諷 会

梅 若 修 一

名 古 屋 修 諷 会

梅 若 修 一

橋 岡 会

橋 岡 久 太 郎
山上小宮半松吉塚小宮山島荒坪
岸原倉内澤原田田出下岸田木内
健美 重年 要友三郎亮之
登一富樹健章彦功吉郎亮之

財団法人 鎌倉能舞台

中 森 貫 太

武 田 謳 楽 会

武 田 大 邦 志 弘 司
武 田 大 邦 志 弘 司

名 古 屋 淡 交 会

三 橋 岡 慈 観
三 交 会
久 田 三 津 子
〒465-0001 名古屋市名東区一社3-1-10
電話(052)705-1585

一「名匠鑑賞能」⑩

承前

訂正及び補遺 先月号で第六六回が予定されてをり、納会になったことについて書いたが、それは第六五回の番組に次回の日時があっただけで、第六五を納会とすることは当日の田鍋惣太郎の挨拶によつて既定のことであった。筆者の私家版「能・狂言」誌の第五号より改めてそのことを左記する。

幾多の名人・上手の演能を手懸け、教々の名舞台を残して、名古屋能楽界に刺戟を与えてきた伝統ある立会能の「名匠鑑賞能」が、第六五回で終焉を迎えることは惜しみて余りあるものがある。昭和四十六年一〇月二四日、演能に立ち挨拶に立った田鍋惣太郎は、心持緊張の面持で次のように述べた。

「戦前から今日まで、六五回を数えてきた名匠鑑賞能も、今回で一先づ終りと致したいと思いま

す。能楽界も今日の頃は忙しくなつて参りまして、東西から人を呼ぶのにもなかなか時間の調整がむずかしく、番組も作りにくくなつてきております。これまで長い間御後援いただきました見所の皆様には、誠に申し訳なく思つてをりますが、事情をお酌みとり下さいます。誠に申し訳なく思つてをります。ありがとうございます。」

その言葉は、努めて平静に、ざつとくばらんな調子ではあったが、それだけに一人胸中が察しられ、胸が痛んだ。

一「和島重太郎(喜多流) 泉嘉夫(観世流) 野村又三郎(和島)

合同能の案内

当地の各流儀・流派・結社
社中の消息を辿る ⑩

竹尾 邦太郎

訂正及び補遺 先月号で第六六回が予定されてをり、納会になったことについて書いたが、それは第六五回の番組に次回の日時があっただけで、第六五を納会とすることは当日の田鍋惣太郎の挨拶によつて既定のことであった。筆者の私家版「能・狂言」誌の第五号より改めてそのことを左記する。

藤田六郎兵衛
舞台50周年記念公演

10月20日、国立能楽堂

能楽師方藤田流十一世宗家・藤田六郎兵衛氏の、舞台五十周年記念公演が今秋十月二十日(火)東京・国立能楽堂で開催される。主催は藤田六郎兵衛舞台五十周年記念実行委員会、藤田六郎兵衛事務所。公演は「暫一中之舞」(藤田六郎兵衛)▽能一清経(恋之音取(観世清和、武田友志、ワキ福王茂十郎)▽仕舞一遊行柳(片山九郎右衛門)「船弁慶」(榎若玄

祥)▽狂言「越後梨」(野村高斎)▽半能「石橋」大獅子(白獅子・大槻文蔵・赤獅子・観世義之丞・同、片山清司、同・観世晋正、ワキ宝生團) 入場料(全席指定、S席一万二千元、A席一万二千元、B席九千元。チケットぴあ(0570・02・9999、プリント3951575)▽ローンチケット(0570・084・003、プリント

泉流)を観る会」①

昭和四五年(一九七〇)一月二五日、表記の会が名古屋喜多流観賞会・蓮泉能友会・やるまい会の主催で五周年記念名古屋公演として行なわれる。五周年記念とあるが実は名古屋での初回、これについては第三回公演の番組に、当時、大阪芸大教授・文化財保護審議会専門委員で著名な能楽家でもあった北彦佑吉(一八七九—一九五二)が「立会能のみのり」の題で次の一文を寄せてをり、その間の事情が明かされよう。

異流の合同能というのは珍しい。観阿弥、世阿弥が能を大成させるまではむろんのこと、それからでも二座の立会能がしばしば行われていた。立会能は単なる合同能ではなく、茶の勝負であつた。喜多流の和島氏と観世流の泉氏とが合同能をはじめたのは地元の大坂が昭和二十二年からで、勢力範囲をのぼした名古屋が昭和四十

五年からだつたかと覚えている。それには昔の立会能のような真剣な芸道精進の熱意がこめられているのが当然のことながら、また相携えて能楽のたのびを演者みづか

ら味わおうという余裕も感じられて、いつも期待するのである。こんどの演目には、偶然のことかもしれないが、喜多の一線の鼓」といふ、観世の「求塚」といふ、古くから名曲とされていたものを復興または新しく流儀に加えたものなのも大変な意義がある。大きに食指を動かされる。また名古屋で孤軍奮闘する狂言和泉流の正統野村又三郎氏を同人に迎え入れていたのもうれしいが、野村氏もまた大曲というほどまではないにしても最も狂言らしい名曲を選んで実力を示されようとしている。

どうやら、この合同能でも、いつものとは違う「別会」なみの充実した催能というけどらねばならぬようである。

なお、当地名古屋初回とあつて番組には主催する演者の舞台経歴が紹介される。

泉嘉夫 大正一五年(一九二六)生れ。昭和五年「相崎」子方で初舞台、昭和二八年「達成寺」、昭和三七年「碓」を上演。昭和四三年、仏立発着木村太郎教授に協力し、クロアチア原作「女と影」を新作能として上演、大阪文化祭賞受賞。大阪、名古屋、東京等に活躍。繊細な演技によって人間性の奥深くにひそむ美を表現しようとしている。

野村又三郎 大正一〇年(一九二一)生れ。昭和二年「田嶋」で初舞台、昭和三年「碓」を上演。昭和四年、立会能の「碓」を上演。昭和八年「碓」を上演。昭和十年「碓」を上演。昭和十二年「碓」を上演。昭和十四年「碓」を上演。昭和十六年「碓」を上演。昭和十八年「碓」を上演。昭和二十年「碓」を上演。昭和二十二年「碓」を上演。昭和二十四年「碓」を上演。昭和二十六年「碓」を上演。昭和二十八年「碓」を上演。昭和三十年「碓」を上演。昭和三十二年「碓」を上演。昭和三十四年「碓」を上演。昭和三十六年「碓」を上演。昭和三十八年「碓」を上演。昭和四十一年「碓」を上演。昭和四十三年「碓」を上演。昭和四十五年「碓」を上演。昭和四十七年「碓」を上演。昭和四十九年「碓」を上演。昭和五十一年「碓」を上演。昭和五十三年「碓」を上演。昭和五十五年「碓」を上演。昭和五十七年「碓」を上演。昭和五十九年「碓」を上演。昭和六十一年「碓」を上演。昭和六十三年「碓」を上演。昭和六十五年「碓」を上演。昭和六十七年「碓」を上演。昭和六十九年「碓」を上演。昭和七十一年「碓」を上演。昭和七十三年「碓」を上演。昭和七十五年「碓」を上演。昭和七十七年「碓」を上演。昭和七十九年「碓」を上演。昭和八十一年「碓」を上演。昭和八十三年「碓」を上演。昭和八十五年「碓」を上演。昭和八十七年「碓」を上演。昭和八十九年「碓」を上演。昭和九十一年「碓」を上演。昭和九十三年「碓」を上演。昭和九十五年「碓」を上演。昭和九十七年「碓」を上演。昭和九十九年「碓」を上演。昭和百一年「碓」を上演。

加賀藩前田家伝来 尾山神社の能面Ⅱ 金沢能楽美術館特別展 金沢能楽美術館では、7月18日から10月12日まで、加賀藩前田家伝来の「尾山神社の能面Ⅱ」の特別展を前・後期2回に分けて開催する。主催は金沢能楽美術館「金沢芸術創造財団」、特別協力/尾山神社。展示会・前期:7月18日(土)〜8月30日(日)▽後期:9月5日(土)〜10月12日(月・祝)午前10時/午後6時。観覧料 一般・大学生300円、65歳以上200円、高校生以下無料、団体(20名以上)250円。

「訂正」本紙6月号「寺清流・柳原風司氏逝去の記事で告別式7月3日とあるのは、6月3日の誤りでした。お詫びして訂正します。

<p>暑中御見舞 申し上げます</p> <p>笙月会 中川 雅章 〒505 岐阜市長浜市地蔵寺町八ノ二九 電話(077)2540663</p>	<p>賀水会 桑名賀水会 名鉄百貨店友の会</p> <p>加賀 敏彦 〒483 岐阜名古屋守山区森孝二丁目七〇九 電話(057)7771184</p>	<p>松盛会 小松 勝憲 松舞台 〒511 三重県桑名市西別所一〇六一の五 TEL・FAX(059)4233458</p>	<p>洗心会 奥村 富久子 〒606 京都市左京区水閣菅野町一〇 電話(075)7721077</p>	<p>観修会 祖父江 修一 〒507 岐阜多治見市日ノ出町2の2 電話(0577)231356</p>	<p>猶恵会 熊沢 恵美子 〒486 岐阜名古屋市東区平和ヶ丘3-76</p>	<p>幸誦会 近藤 幸江 〒444 222 岡崎市鶴岡本町十一番地ノ三 電話(0564)92529</p>	<p>千早会 八 神 孝 充 〒464 岐阜名古屋市中区穂波町3-60-1-201 電話(052)762121</p>	<p>恵譚会 二 村 徑 布 〒445 西尾市住吉町三十一一二 電話(0563)572594</p>	<p>桜月会 加藤 春 枝 〒500 岐阜可児市鼻ヶ丘3-1-113 電話(0574)641306</p>	<p>宝生流 嘉 宝 会 岐阜県岐阜市昭和区川名本町一七五 〒486 電話(058)215100</p>	<p>司 宝 会 佐藤 耕 司 〒486 岐阜名古屋市天白区島田二丁目三〇一 島田無住宅十二三〇電話(052)257373</p>
---	---	---	---	---	---	---	---	--	---	--	---

<p>宝生和英</p> <p>近藤 乾之助 〒170 0002 東京都豊島区東横町五十二三十八 電話(03)39151376</p>	<p>名古屋異会 豊橋異会</p> <p>辰巳 満次郎 〒463 岐阜名古屋市中区森孝二丁目七〇九 電話(057)7771184</p>	<p>佐野 由 於</p> <p>倉本 雅 〒688 岡山津市東区田中町1-13-22 電話(078)4441546</p>	<p>恵美寿会</p> <p>衣斐正宜 衣斐正宜後援会 〒486 岐阜名古屋市昭和区御器所3-23-19 御器所パーキングション8002号 電話(052)881560</p>	<p>宝生流 嘉 宝 会</p> <p>金剛流 岐阜周星会 古川 周 子 〒481 岐阜名古屋市中区西崎町三二一六 電話(058)7611357</p>
--	--	--	---	--

<p>金剛 永 謹 龍 謹</p> <p>廣田 鑑賞会 廣田 陞 一 廣田 幸 稔</p>	<p>菊 之 会 扇 会</p> <p>廣田 泰 三 廣田 泰 能</p>	<p>豊嶋能の会 豊春会 豊嶋 三千春</p>	<p>松野恭憲能の会 松野 恭 憲</p>	<p>宇高 通 成 徳 竜 成 成</p>	<p>金剛流 岐阜周星会 古川 周 子 〒481 岐阜名古屋市中区西崎町三二一六 電話(058)7611357</p>
---	---	---------------------------------	---------------------------	---------------------------	---

◆初夏の舞台から◆

「名古屋梅猶会」と「第五一回 鳳の会」
「金剛定期能」
「野村又三郎信廣三回忌追善 第五二回やるまい会」
および「名古屋能楽堂六月特別公演」

竹尾邦太郎

「田村」

旅僧（ワキ雅介）
桜花爛漫の都、清水

寺に着くと、境内は地主権現の秘を自費する屋敷の重子（シテ勝懸）に出合う。自費するには誰が少々元気ないが、ワキとの問答からわかれて清水寺の縁起を語るところは自慢も仄々。ワキが話柄を辺りの名所へ転じ、所謂シテの名所教えも煩るところは月下

の地主の秘の自慢。問答から掛合となれば、癒れるような春宵を共有するシテ・ワキ連が良く、へ今この時かや、と互いに赤み寄り、シテがワキの肩に手をやるところには親愛の情が。クセは、へ天も花に酔へりや、と頭を取り拍子踏むところに気持ちをはみせる。地（善高・和男・光之助ら）との掛合にシテが善哉問われるロンギ

昭和47年1月23日「鏡鼓」

左より和島富太郎、高安滋郎、内田安信、高辻幸一氏（撮影）

番組は仕舞（観世）
「東北」泉成佳・高砂・三島憲・能「清経・替之型」泉嘉夫・近藤幸江（ツレ）西村欽也、主後見大橋秀夫、地頭中森晶三、囃子方藤田六郎兵衛、田嶋惣太郎・寛敏一、狂言「三人片輪」野村又三郎（座）佐藤卯三郎（座頭）井上礼之助（懸）井上松次郎、仕舞（喜多）「田村」松井彬「玉之段」塩津忠

③面よりつづき

二二）生れ。一世又三郎三男。大正二四年、「あかがり」にて初舞台、昭和三年「釣狐」、昭和四年「花子」を抜く。新作狂言として「権山節孝」「唾の一声」など。又海外公演として昭和三二年パリ国際演劇祭、昭和四〇年ペルリン芸術祭、ベネチア・ビエンナーレ、昭和四二年ニューヨーク東洋演劇シンポジウム、昭和四三年アメリカへ野村狂言団として参



加、等の経歴がある。昭和四二年、重要無形文化財指定。和島富太郎 大正三年（一九一四）生れ。昭和二年喜多楽に師事、昭和三年東京にて初舞台、昭和四年「道成寺」を初演。昭和三六年「景清」上演で大阪市民芸術賞受賞。昭和四〇年「望月」上演で大阪府民芸術奨励賞受賞。昭和四〇年に重要無形文化財保持者に認定された。大阪、名古屋、東京その他の都市で、能の普及発展に尽力している。豪放な演技は以前から定評がある。

は、へ覚束無くも、とワキへアシラヒ、へ我が行く方を、と居立ち、へ地主権現の、で直つて立つと、へ月のむら戸を、と扇で戸を開ける型から扇置みつ、地一杯に橋懸へ入り、送り笛（鼓）で退いて行くところ、扇の勢風気があり、前場は劇に坦坦と起伏なく運んだ印象。門前ノ者（アと高懸）が唇語にかなり長尺の清水寺の縁起を口跡爽やかに明快に語り上々。後場は清水寺を建立した坂上田村麿ノ霊（後シテ勝懸）が東夷を平定したあとの後日談。面平太・黒垂・梨子打鳥帽子・襟浅黄・赤黄段置板着付・朝貫地金龜甲に裙・葵丈半切・紺地ベタ金法被肩脱ぎ・太刀の姿。ずかずか出て常座、指込開キからへあら有難の、とワキの誦経を喜び、身分を明かし、宣言を受け清水観世音の加護のと、都近く敷水観風山に果くうんげん退治の武勇譚をみせる。へ瀬田の長橋踏

み鳴らし、と床几は馬上、勇躍杜凌に就く昂ぶりは人、馬とも、指題は馬に鞭を当てる心にも思ふ、激しく踏む三ツ踏子が利く。上ヶ端へ（既に伊勢路の）山近く、と床几を立つてからはカケリに昂揚する士気を活き活きみせるが、観世音の加護へ一度放せば、以下の連続する型どころ、そつなく極めるも征夷大將軍の重みは余り感じられず、小さく纏まってしまった印象。（1時間17分）

「鬼瓦」

大藏流は大名狂言で「遠国に隠れもない大名です」と名乗るが、和泉流野村又三郎派は正亮の名言にして「これは遠国の方でござる」と純朴。

水の在京から帰国の渡次、訴訟叶つたお礼語りに太郎冠者（アド微）を伴い因幡屋を訪ねる主（シテ小三郎）、御利生あらたかな義師如我を國に勧請したいと堂を仔細に観察するうち、大屋根に上が

弘「高頭」長田驍（仕舞（観世）「舍利」殿島修二、独吟（喜多）「琴之段」二井栄逸、能「船弁藤・真之伝・波間之拍子」と和島富太郎・泉真彦（子方）高安滋郎・勝久・飯富雅介・野村又三郎（アと・早義亮）、主後見長田驍、地頭大島久見、囃子方藤田昭彦、田嶋惣一郎、河村総一郎。第二回は昭和四六年一月二四日、今回から「観る会」が「合同会」となる。番組には如何にも能の啓蒙普及も目指す結社らしく、上演曲「天鼓」に取材して能の特質の一端を解明しようとする次の文章「王伯は鼓を仲々打ちにゆかない」を同人連名で記す。

能が一般のリアリズム演劇と異なる大きな特徴の一つは、後者が「事件の劇的進行」によって構成されているのに対し、前者では「人間の或る状態」を表現することによって成り立っているといえます。

例を天鼓にとつてみると、この能に於いては事件の経過はワキの独り語りによって簡潔に処理され、これに対し王伯の悲歎——即ち「人間の或る状態」——が一般演劇とは比較にならない程内容

的、時間的に充分に表現され、これが前半部の主題となつてをります。この間むしろ劇的進行は停止し、専ら心情を表現することに精力が傾けられます。かくして最後に漸く鼓を打つ——即ち劇的進行が行なわれる——という行動がとられるのであります。このような構成によつて観る心に充分に蓄積させ、それが圧縮され飽和状態となつた頃に、鼓を唯一打つて、観客の精神的重症感を解きはぐします。こうして素に人間そのものを象徴的にえがこうしてをります。能には、殆どすべてのものに以上のような表現法がとられているといえます。このような能的表現の奥深い素晴らしさに私共は大きな共鳴と、尊敬をもつて努力を重ねている次第であります。

番組は能「天鼓」と和島富太郎・西村欽也・井上松次郎、主後見長田驍、地頭喜多長世、囃子方藤田昭彦・福井啓次郎・河村総一郎、助川龍夫、仕舞（観世）「山姥」

山中義滋、独吟（喜多）「隅田川」二井栄逸、仕舞（喜多）「霧林院」長田驍「八島」梅津忠弘、狂言「鞠猿」野村又三郎・井上礼之助（太郎冠者）野村万作（猿曳）野村武司（猿）、能「葛城」泉嘉夫・高安滋郎・勝久・飯富雅介・佐藤卯三郎、主後見殿島修二、地頭大橋文蔵、囃子方富三男・田嶋惣一郎・寛敏一・鬼頭喜太郎。第三回は昭和四七年一月三日。番組は仕舞（観世）「老松」殿島修二「草子洗小町」近藤幸江、能「求塚」泉嘉夫・泉泰孝、三島憲、西村欽也、井上松次郎、主後見大橋秀夫、地頭観世静夫、囃子方富三男・福井啓次郎・寛敏一・三島太郎、仕舞（喜多）「風山」栗谷能夫「坂下傳」塩津哲生「飛坂」長田驍、狂言「純太郎」野村又三郎・井上礼之助、佐藤友彦、仕舞（観世）「母之段」大橋秀夫「玉之段」観世静夫、能「鏡鼓」和島富太郎、内田安信・高安滋郎・野村又三郎、主後見長田驍、地頭栗谷新太郎、囃子方藤田六郎兵衛・福井啓次郎・河村総一郎・三島太郎。なお求塚の前に前大阪大学総長・岡田実の講演「今後の能の在り方について」がある。

暑

喜多流
和谷栄太郎
〒515-0073 松原市殿町一四二二三
電話会合室 ☎三五〇二番

喜多流
和楽会
和谷衡市
〒516-0007 伊勢市中島二丁目26-12
電話会合室 ☎一五九番

長田驍後援会
〒514-2211 津市高野屋町三三五-14六
電話 ☎五九二〇 ☎六九七番

伊勢金春会
宇仁田吉邦
〒516-0006 伊勢市八日市場町5-16
電話 ☎五九六〇 ☎五二九八

本 田 光 洋
〒104-0061 東京都中野区上高田二ノ二五ノ二
電話 ☎三三三八六 ☎二六四二番

金 春 信 高
〒107-0052 東京都杉並区善福寺二丁目27-27
電話 ☎三六七五五 ☎六一四四番

シテ方金春流宗家
金 春 安 明
〒107-0052 東京都杉並区南荻窪二丁目17-16
電話 ☎三三三三三 ☎二五七二番

御

中

暑

藤 田 舞 台
藤 田 六 郎 兵 衛
〒491-0041 名古屋西區幡下2-10-9
TEL&FAX ☎五二五七二 ☎一三四一

清 水 利 宣
〒509-0017 高槻市桜ヶ丘北町11-25
電話 ☎七二二六四 ☎五〇一七

宝 生 欣 哉
橋 本 正 樹
橋 杉 江 元
飯 富 雅 介

西 村 同 門 会
高 安 勝 久

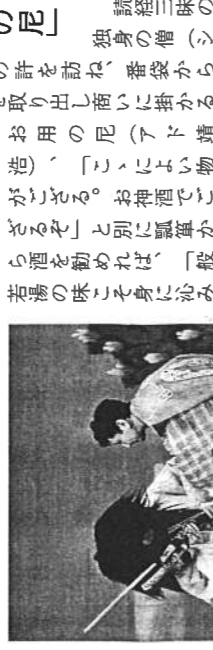
福 王 茂 十 郎
知 和 幸 郎
登 幸 郎

伺



風の会「二文酒」

左より今枝郁雄、佐藤融



風の会「武悪」

左よより佐藤融、今枝靖雄 (撮影・杉浦賢次氏)

舞台へ入ると返シ句に常座、ワキにアシラヒ、再びの問答に自庵で一夜をと勤める。シテは誰も詞も選じも相愛らず美しく気持ちに籠り奉晴らしいが、残念ながら加齢からくる身体変化(か)は如何ともし難く、背が曲り、すつきりと優美な杜若のイメージに遠く、物着で初冠(巻襷・老懸)に小葉を翳シ、長綱・腰巻の装いとなつて日藤ノ糸を結び、飾り太刀を佩いた兼平を形容する美々しい出で立ちも痛々しい。

小書「恋之舞」は杜若ノ精の舞に重きを置き、シテアセイへ別れ来し、以下、伊勢物語の兼平身辺の逸事を進べるクリ・サシ・クセを省くが、この度はイロエだけを抜き足なかつた。クセは上ア端あと、へ三河の国に着きしかば、と一ノ松へ抜け、沢辺に匂う杜若を匂下下下眺め、へ(三河)水の底ひ無く契りし人の数々に、と踏む鼓拍子の暗合は、へ名をかへて、と袖返スのも。更に二ノ松へ行き、飛ぶ蟲がへ雲の上まで、と雲ノ窟に可視化するのも面白い。舞台へ戻ると舞はいわゆる恋之舞、舞の途次一ノ松へ抜けると扇を左手に替え、匂棚へ静かに寄つて右袖被くと沁々水鏡を眺めること暫し、そこに兼平の面影を見る心である。たゞクセにも二ノ松で型があり、重複するから、小書の趣め通りで良かったのでは。キリに、花も悟りのへ心開けて、と大きく両袖をパツと撥ねるところは如何にも成佛成就に思えた。(1時間14分・4月25日・

名古屋権鑑会)

「二文酒」

世渡りも盡ならぬ当然、太郎(シテ助)が吞み助なら兼若(アド郁雄)も劣らぬ酒好き、ならば好きな飲み屋商売をと美に安易な楽天的思考回路。多分、仕入れた酒はツケ、酒樽に見立てた壺桶と「煎物」の荷茶屋に似る小道具を前後に荷棒で担ぎ、店を出すのが客は来ない。折角手元にある酒、飲みたいシテだが口開けの商いに拘泥するアド。俗に無い袖は振れないと言うが、振つてみたらシテの袖には二文の銭が。これで飲ませろ、とアドに渡せば此れが口開の商い。自分ばかりでは、と今後はその二文を受取りアドにも飲ますシテ。莞爾として笑む同人(写真真)だが商いとは言い奈、二文の銭が夫婦交互に渡るだけでメートルが上がる一方。酒興の小舞「瓢箪」や「七ツ子」が盲く雰囲気は上々。ただキリの歌謡へ二人の為にお酒はあるの、は失張り絶へ、見所に何るよう嫌だが新作の宿命? (25分)

因みに二文銭は寛永一三年から万延一年(二六二六―一八六〇)にかけて鑄造された寛永通宝一枚、明治維新直後は一厘に通用したという。なお、明和(一七六四)前後は上酒二合二文、下酒一合八文、と三谷一馬者「江戸商売図説」にある。

「お用の尼」

読経三味の独身の僧(シテ友彦)の許を訪ね、番袋から種々の品を取り出し商いに掛かるお用の尼(アド靖造)、**「こ、によい物がござる。お神酒でござるぞ。」**と別に瓢箪から酒を勧めれば、**「般若湯の味こそ身に沁みます。」**と僧。酔われれ雑談の末、若後家を紹介するとの甘言にまんまと乗せられる。頭働即菩提、などと勝手な理屈をつけ呪言となれば、**「いざ先づ目出度う盃事をしませう。」**この辺り「因幡屋」に酷似。

羞しらう若後家が袷衣の下から大藏四杯目をせがむのに呆れ、袷衣を誂がせば若後家に成り済ましてお用の尼。「今こそ頭働の恐ろしさを知つたぞ」と驚き「許せ許せ」と逃げる僧に「腹立ちや(どちらが)」と追う尼。僧と尼といえは、布施の金錢に執着する「泣厄」は早しいだけだが、こちらは僧を好色漢と糾弾する以前に、孤獨を叩つ尼の飯腰が躍る異様な音が響く、演者の力演は貫うが意味は悪い。(36分)

「竹生島・女体」

大小前、一屋台に宮の作物。君に暇を願い、従臣(ワキツレ浩史・正彦)を伴い念願の竹生島詣に向かう臣下(ワキ茂十郎)、逸る気持ちは力強い次第の三週返シや急くような道行に。着詞から湖上に船舟を認め便船を請う一行、「女体」の小書で舟は出さず、シテとツレが逆みで何と執り成し、思い止まらそうにも主の憤怒は治まりそうもなく、主の勘気に触れてとはつちりも喰ひかねず戸惑う太郎冠者、緊迫感ある冒頭のこの場が惹きつける。主の太刀を持ち薙に染まぬま、武悪の許へと太郎冠者が。が、相手は名づての剛の者、騙し討ちの目算など露知らぬ武悪に機嫌よく迎えられ、ば狂う目算。謀られたと知る武悪は信する明輩の仕打ちを恨み、腹を括り深く斬られんとする。**「奈り不憫さについ助け」と武悪に申し訳をする太郎冠者、気弱な一面が巧まず出て靖雄上々。命拾いのお礼参りにと武**

悪、嘘と知らず討たれた武悪を憐れみ後申う為にと主、共に行き着く先は清水観音。途中、鳥辺野(平安時代の火葬場)辺で主に見られる武悪。泡盛つた太郎冠者の懸念な執り成しで幽霊となり主の眼前に現われる武悪、痢癖は強いが怖がりの主の弱みを握れば、これ迄の鬱憤晴らしとはかり冥土の大蔵様のお望み、と亡父を慕う主から様々な物品を取り上げ(写真)、拳句は主をお連れ申せとて引つ立てん勢いに、逃げ出す主。「それは御尊性でござる」と追う武悪ノ幽霊、少々悪厄山嵐が過ぎると思わせる程の友彦、親子の息の合った熱演だった。(49分・5月10日・佐藤友彦舞台生活六〇年記念公演・第51回鳳の会)

「清水」

主と雇い人の太郎冠者に限らず、戦前は目上に威があり、怖く逆らなかつたもの。茶の湯の水を野中の清水へ汲みにやるにしても、何も「ガゴジ(鬼)が出る」という七つ下りでもなくもよまそうなものだが、言い出したら聞かない主(アド忠三郎)にささやかな謀叛を自論む太郎冠者(シテ良懸)。鬼が出たので桶を投げつけ逃げ帰つたと言えは、秘蔵の桶を執着するアドは太郎冠者の替えはあつても桶の替えは無いの論理。桶を採しに出掛けられては、と嘘を

織無地敷斗目・括袴・浅黄緑水衣のアヒ(耕運)が「斯様に候者は天女に仕へ申す者にて候」と登場、竹生島の調れ立シャベリに伝来の笠物を紹介する。その後、秘伝の小舞「岩飛」とを舞い、へ岩底にずんぶと入りにつけり、とずぶ濡れに「ツツサメ」と囁留めてそのまゝ、幕に入ると後場。

出端の囃子でへ山の端出づつ、と引過し取ると、面前前・黒垂・白蛇ノ天冠・緋大口・白地紫髯長シ文舞衣重折の優美端麗な後シテ弁財天が床几に居る。へ弁財天とは我が事なり、と名乗り、へその時虚空に音楽聞え、地の返シに宮を出ると選擇掛の「楽」、足拍子の多い舞は欣喜奮躍といった印象。袖被キ、袖返シ、袖巻上げ、など袖の動き美しく、麗抜い手編麗に大きな舞は如何にも舞金剛の面目。ワキ正、袖返シ兼へ招キ、地前、床几に掛かると、早笛でツレ龍神へ湖上に出現して、と宝珠台を掲げ一ノ松、舞台へ入りワキに授けると腰から朱の打杖を抜き持ち爽快な舞動。シテはへ元より衆生済度の誓ひ、の地の返シに床几立ち、地につれて舞い、へ又は下界の、とツレにアシラフとへ天女は宮中に、と正面から宮に入り、ツレは立つとへ波を蹴立て、と文字通り「乱し足」の蹴り上げる型を見せ、響へ走り込むとシテは再び宮を出、へ天地に轟がる大蛇の形、と両袖高々巻上げて常座へ、袖振りほどき右ウケ留えた。親子競演の美、大い上がり、ワキの牧場追らぬ風姿も亦舞台を締めた。(1時間28分)

「清水」主と雇い人の太郎冠者に限らず、戦前は目上に威があり、怖く逆らなかつたもの。茶の湯の水を野中の清水へ汲みにやるにしても、何も「ガゴジ(鬼)が出る」という七つ下りでもなくもよまそうものだが、言い出したら聞かない主(アド忠三郎)にささやかな謀叛を自論む太郎冠者(シテ良懸)。鬼が出たので桶を投げつけ逃げ帰つたと言えは、秘蔵の桶を執着するアドは太郎冠者の替えはあつても桶の替えは無いの論理。桶を採しに出掛けられては、と嘘を

採しに出掛けられては、と嘘を
採しに出掛けられては、と嘘を
採しに出掛けられては、と嘘を

暑

中

御

伺

葵心庵舞台 尾張旭市東大通町原田二四九三ノ二 若杉ビル(旭市役所南) 電話(〇五六一)五五③(二三四六番) 電話(〇五六一)五五④(六九八番)	亀井俊一 保忠雄 実	吐石会河村総一郎 河村真之介	飯島六之佐	桂後藤孝一 嘉津幸郎	幸友会 涛華能	福井聡 福井良四郎兵衛 福井介治
大蔵狂言会 大蔵彌太郎 千太郎 基誠	長生会	鬼頭義命	上田悟	青耀会	金春流太鼓	呉竹会 传统文化(能楽)こども教室
茂山千作 千五郎 七五三 千三郎	谷口正喜 〒692-0915 京都市上京区中立売通室町西入室町スカイハイツツ610号 電話(〇七六)二二二〇 谷口有辞 〒520-0221 大津市緑町二四一一〇	寛 鋳 一	後藤孝一 嘉津幸郎	福井聡 福井良四郎兵衛 福井介治	幸友会 涛華能	
大蔵彌太郎 千太郎 基誠	長生会	鬼頭義命	上田悟	青耀会	金春流太鼓	呉竹会 传统文化(能楽)こども教室
茂山千作 千五郎 七五三 千三郎	谷口正喜 〒692-0915 京都市上京区中立売通室町西入室町スカイハイツツ610号 電話(〇七六)二二二〇 谷口有辞 〒520-0221 大津市緑町二四一一〇	寛 鋳 一	後藤孝一 嘉津幸郎	福井聡 福井良四郎兵衛 福井介治	幸友会 涛華能	

茂山千作 千五郎 七五三 千三郎	谷口正喜 〒692-0915 京都市上京区中立売通室町西入室町スカイハイツツ610号 電話(〇七六)二二二〇 谷口有辞 〒520-0221 大津市緑町二四一一〇	寛 鋳 一	後藤孝一 嘉津幸郎	福井聡 福井良四郎兵衛 福井介治	幸友会 涛華能	
大蔵彌太郎 千太郎 基誠	長生会	鬼頭義命	上田悟	青耀会	金春流太鼓	呉竹会 传统文化(能楽)こども教室
茂山千作 千五郎 七五三 千三郎	谷口正喜 〒692-0915 京都市上京区中立売通室町西入室町スカイハイツツ610号 電話(〇七六)二二二〇 谷口有辞 〒520-0221 大津市緑町二四一一〇	寛 鋳 一	後藤孝一 嘉津幸郎	福井聡 福井良四郎兵衛 福井介治	幸友会 涛華能	

⑤面よりつづき

朔夜するのには大童のシテ。生来シテに具わる巧まざる稚氣が出せながら、苦劫が生むツレの活殺自在の才気が素晴らしい。（22分・5月24日・金剛会例会・金剛能楽堂）

「三千石」 許しもなく大動の太郎冠者（アド右近）を懲しめるつもりが、京見物だつたと分れば都の様子も知りたい主（シテ万作）、アドが都に流行るという説を披露すればシテの逆鱗に触れる。説が解らず怪訝な表情のアド、シテは床几を下りて正先へ。太刀・扇を前に置くと「南無説の大明神」と下居合舞、家伝藩札の説を踏踏にしたことを詠ひ、アドに説の仔細を語つた後で成就すると凄しい見舞。「ずいっとこれに寄つて聞き居れ」とシテ、隠行して傍に寄るアド、緊迫感が。

昔、先祖が前九年後三年の役の折、陣中の酒宴に誘われて祝言に詰つた「二千石」が戦勝の吉兆、八幡太郎義家から恩賞に与つた程の大事な説、と仕方を変え語る（写真）うち自身も興奮するシテ、これを目だりに流行らせたは怪しからん。と太刀振りかぶれば、双シテのアドに「未練な者が」と泣く理由を問えば、そこは抜けないアド。泣きは、太刀持つ手許が昔、粗相をして大殿様に尺八で打擲された時の手許に似、それを思い出され悲しいからと、亡父を慕う事をつこんのシテの弱みに付け込めばシテも慄きに貫き泣き。更にアドの巧言にかまけて太刀はおろか持物まで与えてしまふ。拳向、子が親に似るは目出度い、と笑と留めに。名古屋では珍しい万作・右近の舞台。主と太郎冠者の、言葉の外にある気分、味わいが感じられる練達の面者の充



やるまい会「二千石」野村万作

（アド右近）を懲しめるつもりが、京見物だつたと分れば都の様子も知りたい主（シテ万作）、アドが都に流行るという説を披露すればシテの逆鱗に触れる。説が解らず怪訝な表情のアド、シテは床几を下りて正先へ。太刀・扇を前に置くと「南無説の大明神」と下居合舞、家伝藩札の説を踏踏にしたことを詠ひ、アドに説の仔細を語つた後で成就すると凄しい見舞。「ずいっとこれに寄つて聞き居れ」とシテ、隠行して傍に寄るアド、緊迫感が。

昔、先祖が前九年後三年の役の折、陣中の酒宴に誘われて祝言に詰つた「二千石」が戦勝の吉兆、八幡太郎義家から恩賞に与つた程の大事な説、と仕方を変え語る（写真）うち自身も興奮するシテ、これを目だりに流行らせたは怪しからん。と太刀振りかぶれば、双シテのアドに「未練な者が」と泣く理由を問えば、そこは抜けないアド。泣きは、太刀持つ手許が昔、粗相をして大殿様に尺八で打擲された時の手許に似、それを思い出され悲しいからと、亡父を慕う事をつこんのシテの弱みに付け込めばシテも慄きに貫き泣き。更にアドの巧言にかまけて太刀はおろか持物まで与えてしまふ。拳向、子が親に似るは目出度い、と笑と留めに。名古屋では珍しい万作・右近の舞台。主と太郎冠者の、言葉の外にある気分、味わいが感じられる練達の面者の充



やるまい会「呂蓮」前・野村万蔵、後・野村萬

男（シテ小三郎）が呼掛け、ワキと問答のうち一ノ松へ。ワキを見込み、草庵は祐善の宿り、我は祐善ノ亡霊、昔は我も傘張り、と明かし、月の夜、再び現われ事の顛末を語らん、と回向を願ひ下居合舞、立つと地（地頭・高巻）のうちには「軒端の竹のかさかさど、鳴る數の中、中入。ワキが所ノ者（アと信明）を呼び出し祐善のことども尋ねると、傘張りが下手で傘をよそに求められることに狂気にさいたい死に、跡を祐善の宿りと呼ぶことなど、確り答える。小学校低学年の信明君、達者と言うよりは幼にして役者根性の立派。「懇に御教へ祝着に存し候」とワキは正先へ、下居に敷珠をつまぐり回向する。後シテ祐善ノ霊は先能力頭巾を角頭巾に、括褌を白綾着付・小格子脱ぎ下々に替え、傘を担ぎ出る。ワキとの問答に回向を喜び、再度現われたと筆への姿勢を地との掛合に。へ御前に差し掛かり、とワキ前、傘を開き（写真）、畳むと小前へ。三ツ拍子踏みへ祐善が唐舞、と狂おしくカケリ。更に地で舞い継ぎ、地獄の底から回向によりへ南無阿彌尊の仄かに見えてぞ失せにける、と開いた傘の下に入り失せる心に詰留め。

能がかりの舞狂言を好んだ先代又三郎の三回忌追善に嫡子・嫡孫

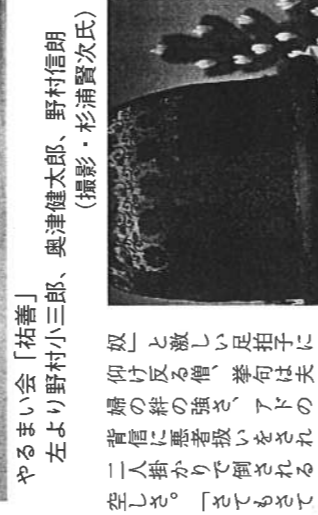


やるまい会「祐善」左よより野村小三郎、奥津健太郎、野村信朗

の手向ける「祐善」、泉下の先代、以て暇すべし。（29分）

「呂蓮」 所の大法で独り旅人には宿をしない宿主（アド万蔵）も僧（シテ萬）ゆえ通し、問答のうちに「さてまさでも有難いお返しを受けてござる」と僧の生き方につかり感化され、出家したいと言いつ、一時の氣紛れを俥れ、家族の承諾の是非などを問ひ抑止にかゝるが、逸る宿主は女房も「はや成れと申してせがみまする」と専断。真に受けた僧は、入念な手際で宿主の頭を二・三度水で洗い、剃刀を研ぐ型からシャリシャリと操る言葉の剃髪（写真）、状況描写が細にわたれば、法名を付ける段は、呂蓮坊と付けるに至る心理が最大までお座なり、その対照が面白い。

火の怒りは弁解も聞かばこそ。その目暮に責めを僧に擦り付ければ、「さては彼奴が刺りましたか」と矛先は僧に。「マイイそこな



も胸欲を目に合はせをつた「南無三宣しないたり」と悔いても後の祭り、とはほとほと懺悔を退いて行く萬の背に思ひ万感。（30分）

「茸」 山中はいざ知らず、車が屋敷内に次々と生えてくる無気味に、山伏（シテ小三郎）を招き折袴を頼む何某（アド高巻）。勿体ぶつた山伏が折れば折る程に押える様々な茸。敵が多勢なら、目立つために演技過剰にならざるを得ないのも必然か、と思わせる程に小三郎大奮闘。敵ある茸の中にも巨大な鬼茸（靖造）が憎々しければ、極く小さな姫茸（信明）が可憐。（16分・5月31日・野村又三郎三回忌追善。第52回やるまい会）

「道成寺・赤頭」シテ清司、面近江女、襟白一・萌黄地金鱗箔着付・黒地紋尺縵箔腰巻、赤地御所



やるまい会「祐善」左よより野村小三郎、奥津健太郎、野村信朗



名古屋能楽堂6月公演「道成寺」片山清司

怒」と激しい足拍子に仰け反る僧、拳向は夫婦の絆の強さ、アドの背信に悪者扱いをされ二人掛かりで倒される空しさ。「さてもさて」

鐘が上がり始めると、ところを巻く心に躊躇して居るのではなく、左手で鐘の縁を支え、鎌首を握ける心か、斜に構えワキに挑みか、らんもの恐ろしさ、初めて見る珍しい型である。白綾を腰に巻き、立つと鑼落を白地に巻いた蛇体は白般若・緋長袴・打杖（紺）。折りに三ノ松へ追いつて立てられる際、橋懸へ入る早々の鑼落シは身鞋にたつた心に長袴を見事に割き、打杖振りかぶり逆襲すれば、たちまちとなりきり巻いて威嚇する辺りの凄味も、へ折られ、と折られ伏せられてシテ。怨みの鐘をきくと脱むと執心を残し火速磨となつて日高川へ走り込むキリは幕内で飛び、ワキのユークン留め。

小鼓は柳原雷司忠に役が付いていたが、残念なことに舞台一週間で立派に賞を蒙たした。泉下の師匠の胸中も厚ばれる。（鐘出しから1時間57分・6月6日・名古屋能楽堂六月特別公演）

伺

御

中

暑

鳳の会

茂山忠三郎 茂山良暢

〒606 896 京都府左京区北白川東小倉町28
電話0757570220二二番
FAX0757570223三二

狂言共同社

鹿嶋政行 今井大佐 今井佐大 藤上野藤 上野藤 佐藤友彦 藤友彦 井上菊次郎 井上菊次郎 奥津健太郎 奥津健太郎

〒466 096 名古屋市中区昭和区瀬川町54
サンハウス瀬川3D 井上芳
電話05228348607
FAX05228348607

狂言やるまい会

野村小三郎 松田高義 野口隆行 奥津健太郎

〒466 096 名古屋市中区昭和区一ノ二〇一四
電話052235079771
FAX052235079772

林和利 井上菊次郎 佐藤友彦 藤友彦

朝日カルチャーセンター
囃子教室
小鼓 後藤孝一郎
丸栄スカイル10階

ウシマド写真工房
牛窓正勝
雅之

〒602 001 京都市上京区北野上七軒
TEL(075)4671234二
FAX(075)467157七二

栄能楽舞台
名古屋市中区栄五十六
電話二六二二一八二三番

お稽古用敷舞台
彰 諷 閣
濃緒先 豊中市緑丘五十五一四
山本博通
電話(06)六八四九一二五六
または 安城市三河安城東町一七七一
グレイシキスピア安城内
電話(0566)七七一三四一

楽 諷 庵 舞 台
濃緒は 名古屋市中区川名町一〇五
電話(八三二)三四九二番

能楽の友社
〔おことわり〕巻中広告の掲載にあたりましては、誌面の都合により順不同とさせて頂きましたので何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

NHK放送予定(平成21年8月～9月)

8月30日 NHK-FMラジオ能楽鑑賞(毎週日曜日7時15分～8時)
 9月6日 能の音楽(5)SPの名演 解説 高桑いづみ
 9月13日 楽謡「姑」観世流 梅若玄祥様ほか
 9月20日 楽謡「松虫」宝生流 朝倉俊樹ほか
 9月27日 楽謡「雨月」観世流 片山九郎右衛門ほか
 9月27日 楽謡「殺生石」(再)宝生流 武田孝史ほか
 8月26日 教育テレビ 茂山千之丞の狂言入門II (14時～14時30分)
 8月26日 茂山千之丞の狂言「鯛牛」(再9月1日) (15時～17時)
 9月6日 一調一管 花重蘭曲
 9月6日 仕舞「野守」 「三井寺」
 9月24日 能(観世流) 「岡山のみ」9月7日 零時15分～2時15分)
 教育テレビ (14時～14時44分)
 伝統の至芸: 栗谷菊生 (再放送9月27日23時30分)

演能力レンダー

第25回衣斐正直後援会能楽会 (有料) (無料)
 鳳鳴 大

名古屋能楽堂9月定期公演(番組①面) (有料) (無料)
 青陽会定式能楽大会 (有料) (無料)
 名古屋能楽堂9月定期公演(番組②面) (有料) (無料)
 名古屋能楽堂9月定期公演(番組③面) (有料) (無料)
 名古屋能楽堂9月定期公演(番組④面) (有料) (無料)
 名古屋能楽堂9月定期公演(番組⑤面) (有料) (無料)
 名古屋能楽堂9月定期公演(番組⑥面) (有料) (無料)
 名古屋能楽堂9月定期公演(番組⑦面) (有料) (無料)
 名古屋能楽堂9月定期公演(番組⑧面) (有料) (無料)
 名古屋能楽堂9月定期公演(番組⑨面) (有料) (無料)
 名古屋能楽堂9月定期公演(番組⑩面) (有料) (無料)

能楽の友

友楽能楽の友社

名古屋千種区千種2丁目18-18
 (郵便番号 464-0858)
 電話 (052) 731-798 4
 FAX (052) 733-283 7
 振替口座 00800-6-36393

購読料 1年 1100円
 1年 1800円
 郵送の場合 1100円

観世九年会百周年記念特別公演

能「道成寺」上演

10月3日 名古屋能楽堂

名古屋観世九年会(観世喜之師主催)は、観世九年会百周年記念特別公演として、きたる10月3日(土)名古屋能楽堂で、能「道成寺」と能「狸々乱」、狂言「鐘の草」を上演する。

「道成寺」を所演する中所宜夫(なかしよ のおお)氏は、1958年名古屋生まれ、栗谷、名古屋の九年会および緑泉会の定期公演をはじめ各地の演能に参加。豊明、中津川、岐阜に稽古場を開き、可見市でも活躍している。能組は次のとおり。(番組②面)

名古屋観世九年会(観世喜之師主催)は、観世九年会百周年記念特別公演として、きたる10月3日(土)名古屋能楽堂で、能「道成寺」と能「狸々乱」、狂言「鐘の草」を上演する。

「道成寺」を所演する中所宜夫

能楽座 美濃加茂公演

10月17日 美濃加茂市で

美濃加茂市では、坪内逍遙生誕150周年を記念して、きたる10月17日(土)美濃加茂市文化会館で、「能楽座 美濃加茂公演」を開催する。

能楽座は平成18年度に第11回坪内逍遙大賞を受賞された観世來夫師が所属していた由緒がある。

能組は次のとおり。

能「隅田川」(シテ片山九郎右衛門、ワキ榎王茂十郎、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・豊和博朗、大鼓・山本孝)

狂言「柑子」(太郎冠者・野村万作)

能「葵上」空之祈(シテ大槻文蔵、ワキ榎王茂十郎、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・成田達志、大鼓・上野義雄、太鼓・三島元太郎)

午後2時開演。会場・美濃加茂市文化会館ホール(美濃加茂市島町2-15-17)。入場料前売り、S席4500円、A席3000円(当日券500円増)

廣田鑑賞会能

10月4日金剛能楽堂

金剛流「第13回広田鑑賞会能」は、10月4日(日)午後1時半から京都・金剛能楽堂(京都市上京区烏丸通一条)で開催される。

入場料/全席指定(税込)正面席6000円、脇・中・正面席4000円。チケットの既売は、豊田市能楽堂(☎05655-3558200)、チケットぴあ(☎0570-02-9999、Pコート395-429)

九月能「敦盛」上演

9月5日豊田能楽堂

豊田市能楽堂では、同能楽堂主催公演の「九月能」を九月五日(土)豊田市能楽堂で開催する。番組は、朗読「平家物語巻第九」「敦盛最後」 国井雅比古。

能(観世流)「敦盛」二段之舞、脇之語

前シテ・後シテ岡根祥人、ツレ野村昌司、團屋祥人、北浪寅村、ワキ宝生閑、アイ井上靖浩

笛・竹市学、小鼓・船戸昭弘、大鼓・河村総一郎。午後二時開演。

小牧山新能

9月5日(土)開催

小牧市、小牧市教育委員会、小牧山文化事業「小牧山新能」実行委員会主催による「小牧山新能」は、9月5日(土)小牧山史跡公園で行われる。

演能は午後5時45分火入れ式を挙行、午後6時開演、能(観世流)「壮若・恋之舞」(シテ梅田邦久、ワキ高安勝久)。

狂言(和泉流)「蚊相撲」(シテ井上靖浩 アド佐藤融、佐藤友彦)

能(観世流)「安達原・息連之下ル」で開催される。

番組は、狂言「月見座頭」(善竹忠二郎、善竹隆平)

能「融」渡曲、思立之出(金剛勝久)

返(シテ藤田幸隆、ワキ高安勝久、間・善竹隆司、笛・杉市和、小鼓・久田舜二郎、大鼓・谷口有辞、太鼓・前川光範、地謡藤田泰能ほか)。

料金 一般八〇〇円、学生三〇〇円、チケット取扱い/金剛能楽堂(☎075-441-7222)、広田鑑賞会(☎075-722-9123)、絵書店(☎075-231-1990)など。

名古屋能楽堂9月定期公演

【初秋能】

九月六日(日) 2部制

名古屋能楽堂

第一部(午前十時開演)

仕舞 高砂 前田 登 地謡 藤原 雅久
 (金葉流) 加藤 英昭

能花 長田 颯 橋本 幸 寛 一 萩 竹市 学
 (喜多流) 後藤 孝一郎

演能案内

名古屋能楽堂

中部能楽研究会(代表磯部孝雲氏)は、「第7回新作能面展」を8月26日から30日まで名古屋博物館3階ギャラリー第4室で開催する。「翁」「松垣姥」はじめ新作四十数点を一堂に出展。

入場無料。午前9時30分午後4時45分。最終日は午後4時まで。後援愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

中部能楽研究社事務局 名古屋瑞穂区船原町4-16-10-12号、☎052-882-4310。

新作能面展

名古屋博物館で

中部能楽研究会(代表磯部孝雲氏)は、「第7回新作能面展」を8月26日から30日まで名古屋博物館3階ギャラリー第4室で開催する。「翁」「松垣姥」はじめ新作四十数点を一堂に出展。

入場無料。午前9時30分午後4時45分。最終日は午後4時まで。後援愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

中部能楽研究社事務局 名古屋瑞穂区船原町4-16-10-12号、☎052-882-4310。

名古屋能楽堂 9月定期公演

【初秋能】

九月六日(日) 2部制

名古屋能楽堂

第一部(午前十時開演)

仕舞 高砂 前田 登 地謡 藤原 雅久
 (金葉流) 加藤 英昭

能花 長田 颯 橋本 幸 寛 一 萩 竹市 学
 (喜多流) 後藤 孝一郎

名古屋能楽堂 9月定期公演

【初秋能】

九月六日(日) 2部制

名古屋能楽堂

第一部(午前十時開演)

仕舞 高砂 前田 登 地謡 藤原 雅久
 (金葉流) 加藤 英昭

能花 長田 颯 橋本 幸 寛 一 萩 竹市 学
 (喜多流) 後藤 孝一郎

名古屋能楽堂 9月定期公演

【初秋能】

九月六日(日) 2部制

名古屋能楽堂

第一部(午前十時開演)

仕舞 高砂 前田 登 地謡 藤原 雅久
 (金葉流) 加藤 英昭

能花 長田 颯 橋本 幸 寛 一 萩 竹市 学
 (喜多流) 後藤 孝一郎

青陽会定式能(第353回期)

九月十二日(土)十二時半開演
名古屋能楽堂

Table listing various performance pieces such as '能班女', '仕舞富士太鼓', '狂言膏葉煉', and their respective cast members and roles.

前売券二、五〇〇円 当日券三、〇〇〇円 学生一、〇〇〇円
入場券はチケットぴあ及び各出演者宅
電話〇五七〇一〇二一九九九九(Pコード七八六一二一九)

名古屋幽花会秋季大会

九月十三日(日)午前十時開演
名古屋能楽堂

Table listing performance pieces like '番外仕舞杜若', '奏談玄象', '菊慈童', and their cast members.

Table listing performance pieces such as '舞獅子猩々', '西行桜', '漫吟素讀賀茂', and their cast members.

〔御来場歓迎〕
片山慶次郎 片山伸吾
主催名古屋幽花会

名古屋観世会定例公演能

九月二十一日(祝)十二時半開演
名古屋能楽堂

Table listing performance pieces like '能半菰', '狂言禁野', and their cast members.

Table listing performance pieces such as '能郡鄂', '附祝言', and their cast members.

和泉流狂言大会

(初日)九月二十二日(火・休日)
(二日目)九月二十三日(水・休日)
名古屋能楽堂

Table listing various performance pieces such as '狂言組', '萩大名', '仏師', '謀生種', '魚說法', '柑子', '口真似', '樋の酒', '小舞七ツ子', '鐘の音', '痺', '寝音曲', '薩摩守', and their cast members.

Table listing performance pieces like '蝸牛', '咲嘩', and their cast members.

(二日目)九月二十三日正式開演

Table listing performance pieces such as '鶏聾', '酢薑', '附子', '水汲', '柑子', '舟渡聾', '鈍根草', '盆山', '宗八', '仏師', '文荷', '犬山伏', and their cast members.

(入場無料・御来場歓迎)
主催狂言共同社

名古屋観世九阜会特別公演

十月三日(土)午後一時開演
名古屋能楽堂

Table listing performance pieces like '能班女', '舞獅子高砂', and their cast members.

(3) 函こつこつ

能楽の友

発行 能楽の友社
名古屋市中種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464-0858)
電話 (052) 731-798 8 4
FAX (052) 733-283 7
振替口座 00800-6-36393

購読料 1年 1100円
1年 1800円
郵送料別

NHK放送予定(平成21年9月~10月)

9月27日 NHK-FM ラジオ能楽鑑賞(毎週日曜日 7時15分~8時)
素謡「教生石」(再)宝生流 武田 孝史ほか
10月4日 素謡「巻相」(観世流)武田志房ほか
10月11日 素謡「俊寛」(宝生流)三川泉ほか
10月18日 素謡「鉄輪」(金春流)本田光洋ほか
10月25日 素謡「紅葉狩」(観世流)津村祐礼次郎ほか
教育テレビ(14時~14時30分)
9月24日 伝統の至芸：栗谷菊生
(再放送 9月27日 23時30分)

演能力レンダー

[9月]	(無料)	(無料)	(有)	会
22日(火・祝)	和泉流狂言大会			
23日(水・祝)	和泉流狂言大会			
[10月]				
3日(出)	名古屋観世九皋会			
4日(日)	邦狂言会発表会			
10日(出)	乃座(番組①面)			
12日(月・祝)	武田謡楽会秋季大会(番組①面)			
23日(金)	名古屋能楽堂10月定期公演(番組②面)			
24日(出)	狂言「鳳の会」52回公演(番組②面)			
25日(日)	交流会(番組②面)			
[11月]	(無料)			
1日(日)	名古屋金春会特別公演(番組③面)			

能(金春流)「道成寺」上演

11月14日 豊田市能楽堂

豊田市能楽堂では特別公演として11月14日(土)金春流能「道成寺」を上演する。
シテは本田光洋、ワキ森常好、金春安明(金春流宗家)が地頭で勤める。
番組の解説は武蔵野大学教授、羽田昶氏、「道成寺縁起の絵解き」と題して、道成寺副住職・小野俊成氏の語がある。
能組は次のとおり。

「道成寺」前シテ 後シテ本
田光洋、ワキ森常好、ワキツレ館
田善博、森栄太郎
アイ井上靖浩、佐藤融
笛・藤田六郎兵衛、小鼓・観世
新九郎、大鼓・河村眞之介、太鼓
・鬼頭義命 後見・桜岡金記、横
山紳一、中村昌弘
地謡 金春安明、吉場廣明、高
橋忍、金春穂高、加藤英明、小島
芳樹、金春寛和、前田登

名古屋金春会 第30回記念特別公演

11月1日 能3番上演

名古屋秀麗会、名古屋春栄会主催による「第30回記念・名古屋金春会特別公演」が11月1日(日)名古屋能楽堂で開催される。
能組は、仕舞「養老」(中村昌弘)「隠」(正井八郎)
能「橋弁慶」(シテ金春穂高)
狂言「竹生島参」(野村小三郎)
仕舞「放下僧」(金春寛和)
「松風」(高橋忍)
能「百萬」(シテ本田光洋)
能「乱」(シテ鬼頭尚久)
午後2時開演。後援：名古屋文化振興事業団、金春円満井会、中日新聞社
チケット料金 正面指定席五〇〇円、中ワキ自由席一般四〇〇円、学生三〇〇円
前売券取扱所 名古屋能楽堂 (TEL052・231・0088) ナディアパーク7階PG (TEL052・265・2015) 名古屋金春会(アシハラ方) (TEL052・842・7931)。

観世流シテ方 熊澤恵美子氏逝去

8月26日告別式

観世流シテ方準職分熊澤恵美子氏は、かねて病氣療養中であつたが、8月24日午前4時10分多臓器不全のため逝去した。享年84歳。葬儀・告別式は8月26日午後1時から名古屋市中種区千種2のいちやなぎ中央斎場で執り行われ、能楽関係者ら多数が会葬、故人をしのび別れを惜しんだ。喪主は夫・敦氏。
故人は、観世流シテ方として猶恵会を主宰、浜松中日文化センター講師。
能「道成寺」(昭和60年、名古屋梅鑑会別会能)でシテを演ずるなど能のシテとして20数回の上演、女流能楽師として活躍した。

特別公演にあたり、主催者代表伏原靖二氏は次のようにあいさつしている。
名古屋金春会は、古い歴史と伝統ある会ですが、世代の交代時期に於いては、開催が困難な年があり、昭和五十五年(一九八〇年)に、当時の金春信高宗家が、地味でも毎年開催するように、との御支援を受けて以来、今年で連続開催三十周年を迎えました。
これ備えに、会員の皆様、シテ方、三役方の皆様の御支援、ご協力のお蔭であります。心から厚く深く御礼を申し上げます。また先賢諸氏の皆様、故人となられました故広瀬瑞弘、松本武、塚本恵市、林鉄郎、上田利英、後藤正男、他の各位には、改めて心から感謝の意を表します。

伊勢の伝統の 能楽まつり

9月20日開催

「第12回伊勢の伝統の能楽まつり」は、9月20日(日)伊勢市生涯学習センター(いせトピア)で開催。主催伊勢の伝統の能楽を継承する会、みえ県民文化発達運営委員会、三重県、三重県文化振興事業団。
能組は、狂言「鬼清水」(馬瀬 能組)、狂言「淵狸々」(通能)、狂言「文荷」(通能)半能「吉野舞」(一色能)はじめ一色能子供教室による仕舞26番、通能子供連による仕舞8番、一色能通能からの独吟、仕舞など10番の上演。
継承する会事務局川伊勢市一色町一三〇六番地二、電話0596・25・6526番。

邦謡会発表会

十月四日(日) 午前九時半始
名古屋能楽堂

兼謡 「求塚」「嫉捨」ほか
舞躰子 「卒都婆小町」「弱法師」ほか
主催 邦謡会 梅田邦久
名古屋市昭和区台町2-16-5
電話052・841・4632

狂言どぞる乃座名古屋公演

十月十日(土) 午後二時開演
名古屋能楽堂

狂言 縄 綱 太郎 野村 萬斎 主 野村 万作 何某 野村 万之介
小舞 海 人 野村 万作
狂言 小 傘 僧 野村 萬斎 伴 田金者 深田 博治 新発達者 高野 和憲 参詣人 竹月 山崎 修徳 夫木 阿村 山崎 修徳 夫木 石田 幸雄 尼

主催 万作の会
東京都練馬区高野台5-1-15
電話03・3997・8778

「取り扱い」
電子チケットが(052・02・99999・Pコード397・6228) 券フレチケット(名古屋三越地下)問い合わせ052・953・0777

武田謡楽会秋季大会

十月十二日(月・祝) 十時始
名古屋能楽堂

兼外仕舞 通小町 武田 邦弘
兼謡 井 筒 坂 寛美子 前川 桂子

兼謡 弱法師 岡崎 千代 大田 晴代
山 姥 渡美子江子 川合 孝子 奥田えつこ

舞躰子 養 老 井田 順子 河村眞之介 加藤 洋輝 水波之伝 後藤 嘉津幸 藤田六郎兵衛

古野 静 小瀬古豊代子 河村眞之介 藤田六郎兵衛 船戸 昭弘

雲林院 市川 敦子 河村 総一郎 加藤 洋輝 船戸 昭弘 藤田六郎兵衛

恋重荷 田中 篤子 河村 総一郎 加藤 洋輝 後藤 嘉津幸 藤田六郎兵衛

兼外仕舞 萩 野 吉井 順一 片山 慶次郎

兼謡 藤 戸 永田 肇子 高田さだ子 安井多鶴子

舞躰子 安 宅 斎藤 忠佳 河村 総一郎 鹿取 希世 五條之型 後藤 嘉津幸

花 筐 下里 紀子 河村 総一郎 鹿取 希世 後藤 嘉津幸

紅葉狩 加藤 愛郎 河村 総一郎 鹿取 希世 後藤 嘉津幸

兼謡 盛 久 前山 鎮男 長谷川邦彦 武田 大志 夢子出

仕舞 清 経 クモ 松陰 真彦
巻 網 キリ 井内 孝子
忠 度 川合 孝子
籠 太 鼓 山本 三三

独鼓 遊行柳 桑原 壽子 加藤 洋輝

仕舞 雨 之 段 小林 郁夫 橋本 正康

兼謡 班 女 辻岡 勝洋 河村眞之介 鹿取 希世 水之伝 船戸 昭弘

兼外仕舞 野 守 渡辺 一彦 河村眞之介 加藤 洋輝 船戸 昭弘 鹿取 希世

兼外舞躰子 融 武田 大志 河村眞之介 加藤 洋輝 船戸 昭弘 鹿取 希世

附 祝 言 (高砂) 武田 大志 (終了予定五時過)

主催 武田謡楽会 武田 邦弘 武田 大志

「御来場歓迎」

演能案内

名古屋能楽堂10月定例公演

十月二十三日(金) 午後六時半開演
名古屋能楽堂

狂言 不腹立 坊主 井上 靖浩 座主 佐藤 友彦
(須泉流) 後見 今枝 郁雄
能野 宮 高安 勝久 河村 眞之介 藤田 六郎兵衛
(全生流) 後見 今枝 郁雄
間 佐藤 融
衣装 正宣
後見 五井 博 藤田 融
内藤 飛能
地謡 村上 茂 稲川 壽一
竹内 正一 近藤 乾之助
平田 幸三 佐藤 耕司
久野 幸三 佐藤 耕司

(午後八時五十分終了予定)

当地の各流儀・流派・結社。
社中の消息を辿る

竹尾 邦太郎

三 「調友会」 ①

「調友会」は能楽協会名古屋支部に所属する囃子方の技術向上をはかると共に囃子方の主導のもと能楽を運営、常の催しでは演奏の機会が少ない二調や素囃子・舞囃子を出来るだけ多く出して囃子の種々相の理解、鑑賞に供しようと能楽協会名古屋支部長・田鍋惣太郎の胆照りで昭和三七年(一九六二)七月七日、発表する。当時、囃子方の会員は笹方藤田流 藤田六郎兵衛・寛三男・鬼頭季信・小島鉄次郎・金森準三・藤田昭彦(逸)、後に大森英三郎・鹿取希世・小鼓方幸清流 青木垣治・後藤孝一郎・田鍋惣太郎・田鍋惣一郎・田鍋洋一・福井啓次郎・福井良久、後に柳原富司忠・山口亮太郎・大鼓方石井流 西尾孫太郎・河村総一郎・吉田定男・大鼓方大倉流 寛一・大鼓方観世流 池田茂・鬼頭八郎・鬼頭喜太郎・助川龍夫・野崎太郎・山口義郎。
初回の能組は順に舞囃子「翁」橋岡久馬・柴田初太郎(千歳)、

舞囃子「高砂」内藤泰二・小舞「鮒」和泉保之 舞囃子「胡蝶」山田仁三郎、一調「松史」田鍋惣太郎・本田秀男(詠)、舞囃子二番「紋上」辰巳孝(唐船・盤渉)大槻秀夫、素囃子「獅子」藤田六郎兵衛・田鍋惣一郎・河村総一郎・鬼頭喜太郎、半能「船弁慶」前住之登 観世武雄、深見賢子(子方)高安滋郎・西村欽也、井上松次郎、シテ方には東西から金春・宝生・観世の各流から名手の来演がある。
第二回は翌二八年七月六日、能組は順に舞囃子二番「養老」柴田初太郎「邯鄲」盤渉「内藤泰二」一調「春日籠神」野崎太郎・山本順之(詠)、舞囃子「山姥」大塚二、素囃子「早舞」龜 藤田昭彦・福井啓次郎・吉田定男・鬼頭八郎、舞囃子「藤戸」大槻秀夫、一調二管「班女」田鍋惣一郎・藤田六郎兵衛・辰巳孝(詠)、枹能「巨萬」山本博之・田辺明宏(子方)高安滋郎・井上松次郎、当地阪から観世流の大槻家・山本家の



調友会「草之神楽」1985・8・18より転載

当主・宝生流の探題・辰巳孝が今回も来演。なお五月一〇日以来、福井病院・福井長久院長(幸清流・福井家十代)のもとで入院療養中であった田辺惣太郎が約二ヶ月ぶりに「藤戸」の舞囃子に出動する。
第三回は昭和三九年七月二六日、舞囃子「加茂」内藤泰二、素囃子「神舞」小島鉄次郎、後藤孝一郎、寛一・野崎太郎、舞囃子「頓政」観世武雄、連管「草之神楽」藤田六郎兵衛・昭彦(写真)、小舞二番「小原木」井上礼之助「海邊下り」井上松次郎、舞囃子「三笑」柴田初太郎・入田秀雄・河村延二、一調「勧進帳」田辺惣太郎・本田秀男(詠)、舞囃子「龍田」大塚二、一調「遊行

柳」鬼頭八郎・泉嘉夫(詠)、枹能「土蜘蛛」大槻秀夫・橋岡久共・柴田収武・祖父江修一・高安滋郎・西村欽也・高安彦彦、佐藤秀雄。
第四回は昭和四〇年六月六日、初回から終回(昭和四八年)まで七月が定例であったがこの年に限り六月、開演の前に「一声・出端の囃子について」と題し、聞き手の内藤泰二の質問に四拍子(寛三男・後藤孝一郎・河村総一郎・助川龍夫)の実技を交え観世武雄が答えるという形式で解説がある。
能組は舞囃子「竹生鳥」片岡道子、一管「琵琶」金森準三、舞囃子「龍田」柴田初太郎、一調「女郎花」田辺惣太郎・野口禄久(詠)、舞囃子「邯鄲」長田藤、狂言「朝比奈」佐藤友彦・井上松次郎、一調「杜若」野崎太郎・南条秀雄(詠)、舞囃子「松風」野口禄久、能「融」思立之出・今合返、能「観世武雄」高安滋郎・佐藤秀雄。なお開演前の舞台での解説の他に能組裏面に次の解説文がある。
調友会は、囃子方の催しでございます。ベテランから

若年の者まで、一生懸命稽古し、真面目に演奏致します。限られた時間に、種々の囃子を取合せてお聞き願えますように、番組が作つてございます。まず今回初めての試みと致しまして、一声(イッセイ)と出端(アハ)を解説し、演奏します。御観能、御研究の御参考になりますればと存じます。
初番は誰方にも親しまれる曲「竹生鳥」、聴能物の囃子は清く、明るく、開幕を飾ることでしよう。八拍(ヤツバチ)を能楽に取り入れ、芸術化した囃子が羯鼓(カッソ)でございます。笛と大小鼓で囃します曲で、今回は笛の一管で奏し、軽快で面白い音色を味わって頂きます。女神を主人公とした曲のうち、最も素直で神々しい曲は「龍田」だと思います。神楽(カクラ)の舞を中心とする気品に充ちた舞囃子でございます。一調「女郎花」は、本日のもっとも価値の高い一番でございます。拙い解説を申し上げますので、たゞ御静聴をおす、め致します。名曲「邯鄲」の、夢の中で栄華が頂点を極める部分を舞囃子で致します。特に舞楽を表現する楽(カク)の囃子は、いつも心を養育の世界に誘ってくれます。
朝比奈三郎、無常の風に誘われ、冥土へ赴く。六道の辻にて閻魔王と出会う。地獄へ責め落とされ、秘術を尽す閻魔王も、大塚朝比奈には買ぬちかみ、名を聞いてヒッ

主催 名古屋市文化振興事業団
〈名古屋能楽堂〉
能楽協会名古屋支部
指定席 前売券 四〇〇〇円
自由席 前売券 三〇〇〇円
(当日券 全五〇〇円)
前売券取扱 名古屋能楽堂 (TEL052・231・0088)
アレイガイド(栄アレイチケ92・松坂屋他)
チケットぴあ (TEL0570・0570・0088)
ナディアパルクPGL (TEL052・2659・2015)

狂言 鳳の会 第52回公演
十月二十四日(土) 午後二時三十分始
名古屋能楽堂
【解説】名古屋女子大学教授 林 和利
伊文字 女 通行人 佐藤 友彦 主人 今枝 靖雄
後見 今枝 郁雄

菊の花 太郎冠者 佐藤 友彦 主人 大野 弘之
後見 鷺見 政行
★「釣針」の装束着付実演
釣針 太郎冠者 井上 靖浩
豊元 大今 今枝 靖雄
乙 米倉 長中 高橋 清
寺田 内 登 輝 亮
鹿島 隆 隆 輝 亮
後見 佐藤 友彦

三交会大会
十月二十五日(日) 午前九時四十五分始
名古屋能楽堂
番外仕舞 放下僧 久田三津子
殺生石 久田勤吉郎
番謡 杜若 松井 輝子 梅村ひろみ
猩猩 々々 篠田 武次 早川 功一
仕舞 蟬 丸 岩崎 光子
熊半 野 藤 園 さなへ
鐘之段 野 藤 園 さなへ
鶴 亀 梅村ひろみ
熊野 藤 園 さなへ
玉 雙 藤 園 さなへ
鞍馬天狗 増米 悦子

舞囃子 胡蝶 武藤 明美 井林 清一 竹加 洋輝
月市 川美保子 船戸 昭弘 竹市
羽衣 小森 祐子 船戸 昭弘 竹加 洋輝
仕舞 桜 川 七 後藤 阿紀
小町 戸松 花枝
秋田 恵美子
舞囃子 松風 山田 紗智子 井林 清一 竹市
輪 坂 井田セツ子 久田 輝一 竹市
山内 清智子 井林 清一 鹿取 希世
独吟 恋重荷 村瀬 恵美子
光 松見 知子
能 楊貴妃 飯富 雅介 河村 眞之介 藤田 六郎兵衛
福井 四郎兵衛
問 井上 靖浩
後見 橋岡 久馬 三津子 八神 孝 藤谷 音彌
久田 勤吉郎 山本 幸 上田 豊弘
寺澤 信一郎 藤井 徳三
寺澤 幸 下川 直長

(3) 面へつづく

NHK放送予定(平成21年10月~11月)

10月25日 NHK-FM ラジオ能楽鑑賞(毎週日曜日7時15分~8時)
 10月25日 素謡「紅葉狩」(観世流)津村權次郎ほか
 11月1日 素謡「龍田」(観世流)角寛次朗ほか
 11月8日 素謡「定家」(宝生流)三川津雄ほか
 11月15日 素謡「綾鼓」(金剛流)豊嶋三千春ほか
 11月22日 素謡「船弁慶」(再)(宝生流)渡辺荷之助ほか
 11月29日 狂言「券句奪」(和泉流)三宅石近ほか

10月 NHK教育テレビ(15時~17時)
 11月8日 能「岩舟」(金春流)
 狂言「鬼瓦」(大藏流)
 能「鷲」(宝生流)

演能カレンダー
名古屋能楽堂

公演日	公演名	観覧料
[10月]	名古屋能楽堂10月定例公演 狂言「鳳の会」第52回公演	(有料) (有料) (無料)
[11月]	名古屋金春流友会 名古屋金春会特別公演	(午前の部・無料) (番組①面) (午後の部・有料) (番組①面)
5日(木)	名古屋山狂言会会古屋会演	(番組①面)(有料)
8日(日)	名古屋山狂言会会古屋会演	(番組①面)(有料)
14日(土)	名古屋山狂言会会古屋会演	(番組②面)(有料)
15日(日)	名古屋山狂言会会古屋会演	(番組②面)(有料)
19日(木)	名古屋山狂言会会古屋会演	(番組②面)(有料)
21日(土)	名古屋山狂言会会古屋会演	(番組②面)(有料)
22日(日)	名古屋山狂言会会古屋会演	(番組③面)(有料)
29日(日)	名古屋山狂言会会古屋会演	(番組③面)(有料)

能楽の友

発行能楽の友社
 名古屋市千種区千種2丁目18-18
 (郵便番号 464-0858)
 電話 (052) 731-798 4
 FAX (052) 733-283 7
 振替口座 00800-6-36393

購読料 1年 1100円
 1年 1800円
 郵送の場合 1100円

能「二人静」新「舍利」
 12月11日 名古屋能楽堂
 中京テレビ放送主催

中京テレビ放送主催による「名古屋御前能」が12月11日(金)名古屋能楽堂で、昼夜2部制で始めて開催される。

この「名古屋御前能」は、「名古屋祭、名古屋初、名古屋てしか」見られない、豪華出演陣を纏う企画で、出演は昼の部に梅若玄祥、大槻文蔵、片山清司、野村小三郎による能「二人静」はじめ舞

能「二人静」(新「舍利」)
 舞姫子、狂言、夜の部は、新作「舍利」舞姫子、狂言、加えて昼の部には箏曲「吉野静」(立方・藤間勤十郎)夜の部は、能と舞踊による新作「舍利」(梅若玄祥、藤間勤十郎)のダイナミックな所演が注目される。

「昼の部」(午後1時開演)
 舞姫子「高砂」八段之舞(片山清司、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・

「夜の部」(午後6時開演)
 舞姫子「天鼓」盤沙(大槻文蔵、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・後藤嘉津幸、大鼓・河村眞之介、大鼓・観世元伯)

狂言「柑子使」(柑子亮・野村小三郎、亭主・奥津健太郎、太郎冠者・野村信朗)

能と舞踊による新作「舍利」(春鼓実・藤間勤十郎、足疾鬼・梅若玄祥)

チケット料金SS15000円、S12000円、A9000円、B5000円

発売所 チケットぴあ0570・02・99999(ポコト3910570・084・004)(Lコード46222)

問い合わせ、申込みは中京テレビ事業部052・957・3333(名古屋市中区錦3-15、C-TVビル6F)

ユネスコによる無形文化遺産
「能楽」第2回公演
 12月5日 国立能楽堂

ユネスコによる無形文化遺産「能楽」第2回公演が12月5日(土)国立能楽堂で開催される。

主催は、社団法人能楽協会、協力：独立行政法人日本芸術文化振興会。

能楽は、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)本部において、平成13年5月、世界の無形文化遺産保護の一環として行われた第1回「人類の口承及び無形遺産の傑作の宣言」を受け、更に平成20年11月の無形文化遺産保護条約に基づき、「人類の無形文化遺産の代表的な「一覧表」に初めて登録された。

このたびの公演は、能楽が後世に伝えるべき貴重な人類の財産として広く世界に認定されたことを記念し、より優れた舞台を人々に鑑賞してもらうことを目指して開催されるものである。

能組は次のとおり。
 能(宝生流)「半部」シテ高橋章、ワキ榎王茂十郎、笛・杉市和、小鼓・亀井俊一、大鼓・柿原崇志、アイ茂山千之丞 後見宝生和英、武田孝史、地謡三川泉、前田晴啓ほか

狂言(大藏流)「奈論」シテ山本東次郎、アト茂山七五三、山本則俊

能(観世流)「鶴飼」空之働、シテ関根祥六、ワキ玉生岡、ワキツレ殿田謙吉、アイ善竹十郎、笛・一噌仙幸、小鼓・大倉源次郎、大鼓・亀井忠雄、大鼓三島元太

高橋弘、地謡・観世鏡之丞、武田志厚ほか。開演午後1時30分。

入場料(全席指定) S席二〇〇〇円、A席一〇〇〇円、B席八〇〇円、C席六〇〇円

取扱いは国立能楽堂(窓口販売のみ)チケットぴあ0570・02・9999、びあ全国各店舗、ロンドンチケット0570・084・003 問い合わせ能楽協会(電話03・5925・3871)

記第30回 名古屋金春会特別公演
 十一月一日(日) 午後二時開演
 名古屋能楽堂

仕舞 養老 中村昌弘
 融老 辻井八郎

狂言 竹生島参 シテ野村小三郎 アト松田高義
 後見 伴野俊彦

仕舞 放下僧小歌 金春豊和
 松風 高橋忍

狂言 百方 飯富雅介 河村総一郎 鬼頭義命
 高安勝久 後藤孝一郎 鹿取泰世

能 乱 鬼頭尚久 河村眞之介 加藤洋輝
 高安勝久 輪戸昭弘 大野誠

主催 名古屋秀麗会 名古屋春栄会

「チケット料金・申込み」
 正面指定席五〇〇〇円
 中ワキ自由席四〇〇〇円
 名古屋能楽堂(052・2231・7038)
 名古屋金春会(052・2231・7038)

記第32回 名古屋金春流友会
 十一月一日(日) 午前10時開演
 名古屋能楽堂

連判 鶴亀 シテ鈴木靖一郎 五郎丸林 健功
 山田信善 立立 兼千村

地謡 伏原靖二 古里五郎 山田信善
 鬼田三郎 加藤英幸
 田三郎 加藤英幸 清二

仕舞 黒塚 後藤吉孝 十郎 伏原靖二 小島芳術

連判 藤戸 シテ小野瀬莊樹 五郎 小島芳術

能 夜討 曾我 河村眞之介 大野誠
 後藤嘉津幸 早打伊藤泰

仕舞 春日龍神 寺田まち子
 小鍛冶 約谷桂子

仕舞 郎 野村 松本久子

仕舞 芦崎キリ 前田登

仕舞 竜羽衣 羽浦郁子
 二井寺 豊田均

仕舞 井筒 水吉 容子
 鷹願寺 林由華
 田クモ 後藤美代子

仕舞 六浦 羽浦 蓮
 花月 弘雅 藤山はる江

後藤嘉津幸、大鼓・河村眞之介、大鼓・観世元伯

狂言「寝草曲」(太郎冠者・野村小三郎、主・奥津健太郎)

箏曲「吉野静」(立方・藤間勤十郎)

能「二人静」(新「舍利」)
 梅若玄祥、菜摘女・大槻文蔵、ワキ殿田謙吉、間・野村小三郎、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・後藤嘉津幸、大鼓・河村眞之介)

「夜の部」(午後6時開演)
 舞姫子「天鼓」盤沙(大槻文蔵、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・後藤嘉津幸、大鼓・河村眞之介、大鼓・観世元伯)

狂言「柑子使」(柑子亮・野村小三郎、亭主・奥津健太郎、太郎冠者・野村信朗)

能と舞踊による新作「舍利」(春鼓実・藤間勤十郎、足疾鬼・梅若玄祥)

チケット料金SS15000円、S12000円、A9000円、B5000円

発売所 チケットぴあ0570・02・99999(ポコト3910570・084・004)(Lコード46222)

問い合わせ、申込みは中京テレビ事業部052・957・3333(名古屋市中区錦3-15、C-TVビル6F)

記第30回 名古屋金春会特別公演
 十一月一日(日) 午後二時開演
 名古屋能楽堂

仕舞 養老 中村昌弘
 融老 辻井八郎

狂言 竹生島参 シテ野村小三郎 アト松田高義
 後見 伴野俊彦

仕舞 放下僧小歌 金春豊和
 松風 高橋忍

狂言 百方 飯富雅介 河村総一郎 鬼頭義命
 高安勝久 後藤孝一郎 鹿取泰世

能 乱 鬼頭尚久 河村眞之介 加藤洋輝
 高安勝久 輪戸昭弘 大野誠

主催 名古屋秀麗会 名古屋春栄会

「チケット料金・申込み」
 正面指定席五〇〇〇円
 中ワキ自由席四〇〇〇円
 名古屋能楽堂(052・2231・7038)
 名古屋金春会(052・2231・7038)

記第32回 名古屋金春流友会
 十一月一日(日) 午前10時開演
 名古屋能楽堂

連判 鶴亀 シテ鈴木靖一郎 五郎丸林 健功
 山田信善 立立 兼千村

地謡 伏原靖二 古里五郎 山田信善
 鬼田三郎 加藤英幸
 田三郎 加藤英幸 清二

仕舞 黒塚 後藤吉孝 十郎 伏原靖二 小島芳術

連判 藤戸 シテ小野瀬莊樹 五郎 小島芳術

能 夜討 曾我 河村眞之介 大野誠
 後藤嘉津幸 早打伊藤泰

仕舞 春日龍神 寺田まち子
 小鍛冶 約谷桂子

仕舞 郎 野村 松本久子

仕舞 芦崎キリ 前田登

仕舞 竜羽衣 羽浦郁子
 二井寺 豊田均

仕舞 井筒 水吉 容子
 鷹願寺 林由華
 田クモ 後藤美代子

仕舞 六浦 羽浦 蓮
 花月 弘雅 藤山はる江

後藤嘉津幸、大鼓・河村眞之介、大鼓・観世元伯

狂言「寝草曲」(太郎冠者・野村小三郎、主・奥津健太郎)

箏曲「吉野静」(立方・藤間勤十郎)

能「二人静」(新「舍利」)
 梅若玄祥、菜摘女・大槻文蔵、ワキ殿田謙吉、間・野村小三郎、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・後藤嘉津幸、大鼓・河村眞之介)

「夜の部」(午後6時開演)
 舞姫子「天鼓」盤沙(大槻文蔵、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・後藤嘉津幸、大鼓・河村眞之介、大鼓・観世元伯)

狂言「柑子使」(柑子亮・野村小三郎、亭主・奥津健太郎、太郎冠者・野村信朗)

能と舞踊による新作「舍利」(春鼓実・藤間勤十郎、足疾鬼・梅若玄祥)

チケット料金SS15000円、S12000円、A9000円、B5000円

発売所 チケットぴあ0570・02・99999(ポコト3910570・084・004)(Lコード46222)

問い合わせ、申込みは中京テレビ事業部052・957・3333(名古屋市中区錦3-15、C-TVビル6F)

名古屋観世会定例公演能
 十一月八日(日) 十二時半開演
 名古屋能楽堂

能 蝉丸 飯富雅介 河村眞之介 竹市学
 橋本幸 後藤孝一郎

後見 梅田嘉宏 吉沢孝旭 加古橋正敏
 片山清司 地謡 須部 南無久田勘一 祖父江修一

仕舞 放下僧小歌 高橋 藤一 八神孝一
 柏崎 清行 久田勘一 地謡 古橋江修一

狂言 隠狸 太郎冠者 野村小三郎 主 松田高義
 後見 伴野俊彦

仕舞 女郎花 片山清司 地謡 武田邦一
 梅田嘉宏 片山九郎右衛門 高安勝久 河村総一郎 加藤洋輝
 野村小三郎 久田舞一郎 藤田六郎兵衛

後見 久田勘一 吉沢孝旭 清沢一政
 梅田邦久 地謡 高橋藤一 片山幸親 武田清沢
 武田大志 古橋正邦

附祝言 (終演 四時半頃)

主催 名古屋観世会
 事務所 名古屋市昭和区町町2-1615
 TEL 052・841・4632
 FAX 052・841・4632

お問い合わせ・申込み
 名古屋能楽堂(TEL052・231・0088)
 又は名古屋観世会事務所

茂山狂言会名古屋公演
 十一月五日(木) 午後六時半始
 名古屋能楽堂

狂言 二九十八 女 茂山七五三
 茂山あきら

小舞 貝尽し 茂山十五郎

狂言 賞 男 茂山十三郎
 女房 茂山千作郎
 女房 茂山正彦

狂言 花子 男 茂山十之丞
 女房 茂山正邦
 観見者 茂山正邦

附祝言

「チケット価格」(全席指定) 主催 茂山狂言会
 S席八〇〇〇円、A席五〇〇〇円 京都市上京区中筋通
 B席三〇〇〇円、学生二〇〇〇円 石薬師上ル
 「申込み」茂山狂言会事務局(TEL075・2221・8371)
 チケットぴあ(0570・0225・2221・8371)
 Pコード名古屋397・402)

五色の会 能を観る 能「邯鄲」上演

12月23日 岡崎朋の会主催

金剛流・花間会歌舞台 朋の会では、「五色の会」第十一回能を観る公演をきたる十二月二十三日(水)・想(花間会歌舞台(岡崎市大西町奥長入47-14)で開催する。「五色の会・能を観る」(主宰 羽多野良子師)は今回で第十一回目の公演、毎年愛好者多数の鑑賞で歴史の街・岡崎に古典芸能の流を醸成、期待されている。補佐は 金剛流宇高徳成師。後援岡崎市教育委員会。

入場料は前売五〇〇〇円 当日五五〇〇円、高校生以下三〇〇〇円。問合せ0564・23・4364

能組は次のとおり。

仕舞「通小町」宇高徳成、地謡 廣田幸稔、宇高徳成、竹市幸司、宇高徳成

狂言「癡」しびり 主・野村小三郎、太郎冠者・野村信朗、後見・松田高義

能「邯鄲」シテ羽多野良子、舞臺 倉知益巨、ワキ菅安勝久、ワキツレ 相元正樹、女仙王・野村小三郎、笛・鹿取希世、小鼓・後藤寛成、大鼓・河村眞之介、太鼓・加藤洋樹

後見・廣田幸稔、小唄梨辺華、伊藤雅子、地謡・宇高徳成、宇高徳成、竹市幸司、百々康治、宇高徳成、天野幸輔

豊嶋三千春師古稀記念 豊春会秋の能

11月8日 金剛能楽堂

京都市 金剛流・豊春会は、十月十八日金剛能楽堂で、豊嶋三千春師が古稀を迎え、これを記念して「豊春会秋の能」を開催した。

能「高帽子折」シテ豊嶋幸洋、ワキ 福王茂十郎、狂言「萩大名」シテ 茂山十五郎、能「乱」シテ 豊嶋三千春。

京都市 金剛流「松野恭憲能の会」は、きたる11月8日(日)金剛能楽堂で第18回能の会を開催する。

演能は、舞囃子「枕蓑置」(金剛龍謡)。

狂言「仏師」(茂山逸子)

能「松風」小書一式之習(松野恭憲、ツレ 豊嶋見嗣、ワキ 村山私)

11月3日 名古屋能楽堂

入場料(全席自由) 前売券七〇〇〇円、当日券八〇〇〇円。取扱所/松野恭憲能の会事務局(☎075・462・2148)ほか

金剛能楽堂、絵巻店、出演楽師宅。

きたる11月15日(日)名古屋宝生会定式能上演の「班女」(殺生石)のワークショップ(鑑賞のための研究会)が11月3日(火)祝 名古屋能楽堂会議室で開催される。午前10時から11時半まで、参加費千円。

問い合わせは、能楽師竹内淳子(T・E・L・F・A・X 052・782・4171)和久狂太郎(T・E・L・F・A・X 03・3949・7395)。

幸謡会 能

十一月十四日(土)十二時半開演 名古屋能楽堂

仕舞 難波 加藤 春枝

小部 鍛冶 前野 郁子

多八島 幸江

近藤 幸江

経 飯富 雅介 河村 総一郎 廣田 六郎兵衛

後見 武富 康之 地謡 吉沢 孝充 堀内 博史 須部 甫 上田 拓司

後見 泉 義夫 地謡 孝充 堀内 博史 須部 甫 上田 拓司

後見 武富 康之 地謡 吉沢 孝充 堀内 博史 須部 甫 上田 拓司

後見 泉 義夫 地謡 孝充 堀内 博史 須部 甫 上田 拓司

幸謡会 能

十一月十五日(日)午後一時始 名古屋能楽堂

仕舞 難波 加藤 春枝

小部 鍛冶 前野 郁子

多八島 幸江

近藤 幸江

経 飯富 雅介 河村 総一郎 廣田 六郎兵衛

後見 武富 康之 地謡 吉沢 孝充 堀内 博史 須部 甫 上田 拓司

後見 泉 義夫 地謡 孝充 堀内 博史 須部 甫 上田 拓司

後見 武富 康之 地謡 吉沢 孝充 堀内 博史 須部 甫 上田 拓司

後見 泉 義夫 地謡 孝充 堀内 博史 須部 甫 上田 拓司

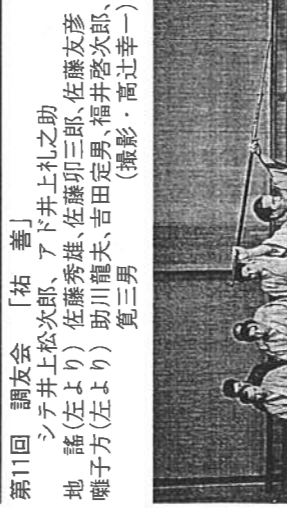
当地の各流儀・流派・結社、社中の消息を辿る

竹尾 邦太郎

三 「調友会」②

第七回は昭和四三年七月一日。能組は舞囃子二番「杜若」山田七三郎「阿漕」内藤孝二、仕舞「坂下槽」柴田初太郎、舞囃子二番「船弁慶」長田勝一、狂言「八尾」井上松次郎、佐藤卯三郎、一調三番「駒之段」後藤孝一郎、山本博之(詠)「歌占」河村総一郎、辰巳孝(詠)「春日龍神」野崎太郎、二井栄逸(詠)、能「天鼓・弄鼓之楽」山本真義、山本順之、萬安滋郎、井上礼之助。大阪から山本博之一家の来演。

第八回は昭和四四年七月六日。調友会・代表の田嶋敏太郎は当日の出演者に次の案内(⑤画)を出す。能組は舞囃子六番「養老」有賀滋子(67)「八島」豊嶋三千春(30)「阿漕」粟谷菊生(47)「羽衣」梅若盛義(32)「亂」大



守「鬼頭八郎、梅若修一(詠)、能「船弁慶」梅若盛義(58)河村大(子方)西村欽也(46)高安勝久(21)佐藤秀雄(57)。大阪から梅若盛義一家一門が来演、舞囃子にはシテ方五流の俊英、名手が揃う。括弧内は年齢。

第九回は昭和四五年七月五日。舞囃子五番「養老」本田光洋「八島」和島寛太郎(55)「羽衣」金剛水謡(18)「阿漕」大坪十喜雄「亂」観世寿夫(38)、狂言「素袍落」井上松次郎、井上礼之助、佐藤卯三郎、一調三番「花隠」田嶋敏一郎、観世寿夫(詠)「玉之段」吉田定男、大坪十喜雄(詠)③画へつづく)

「唐船」野崎太郎、和島寛太郎(詠)、能「安達原」黒頭、急進之出「観世寿夫、高安滋郎、西村欽也、佐藤秀雄。前回と同様シテ方五流による舞囃子は曲目の組立は同じで演者の流儀を替える様々というか心憎い配慮。東京から鏡仙会・観世寿夫、静夫兄弟の来演。

第十回は昭和四六年七月四日。舞囃子五番「養老」和島寛太郎「龍田」桜間金太郎「雲林院」辰巳孝「善知鳥」梅若盛義「船弁慶」豊嶋三千春、狂言「素袍落」井上松次郎、井上礼之助、佐藤卯三郎、一調三番「花隠」田嶋敏一郎、観世寿夫(詠)「玉之段」吉田定男、大坪十喜雄(詠)③画へつづく)

第11回 調友会 「祐善」シテ井上礼之助、佐藤卯三郎、佐藤友彦、佐藤卯三郎、吉田定男、福井茂幸(左より) 地謡(左) 舞囃子(右) 寛三男 (撮影・高辻幸一)

第11回 調友会 「熊坂・働」長田 勝一、山本 才、富田陽二、富田晴二、福岡周吉、二井栄逸(左より) 前列 和谷衛市、福岡周吉、高辻幸一(撮影・高辻幸一)

附祝言

主催 幸 謡 会

近藤 幸 江

岡崎市鴨田本町十一二三

T・E・L(〇五六四)二一二五二九

会員券 五十円(全席自由席)

名古屋宝生会定式能

十一月十五日(日)午後一時始 名古屋能楽堂

仕舞 難波 加藤 春枝

小部 鍛冶 前野 郁子

多八島 幸江

近藤 幸江

経 飯富 雅介 河村 総一郎 廣田 六郎兵衛

後見 武富 康之 地謡 吉沢 孝充 堀内 博史 須部 甫 上田 拓司

後見 泉 義夫 地謡 孝充 堀内 博史 須部 甫 上田 拓司

後見 武富 康之 地謡 吉沢 孝充 堀内 博史 須部 甫 上田 拓司

後見 泉 義夫 地謡 孝充 堀内 博史 須部 甫 上田 拓司

附祝言

主催 幸 謡 会

近藤 幸 江

岡崎市鴨田本町十一二三

T・E・L(〇五六四)二一二五二九

会員券 五十円(全席自由席)

狂言「不見不聞」

大鼓 野村 小三郎

主 藤 波 徹

野 口 隆 行

後見 伴 野 俊 彦

殺生石

和久 狂 太郎

高 安 勝 久

船 戸 眞 之 介

大 野 義 彦

名匠狂言会

十一月十九日(土) 午後六時半開演 名古屋能楽堂

大鼓 流 千 鳥 本 館 著 茂 山 十 之 丞 主 酒 屋 の 掌 主 茂 山 五 郎 郎 後 見 茂 山 茂

和泉流 文 荷 本 館 著 佐 藤 友 彦 次 郎 冠 者 井 上 靖 浩 主 野 村 小 三 郎 郎 後 見 佐 藤 融

和泉流 舟 波 智 船 頭 勇 野 村 万 斎 坂 石 田 幸 雄 後 見 高 野 禮 夫

名古屋市民芸術祭 2009参加「狐三昧」

狂言 三の会 第八回 公演

十一月二十一日(土)午後二時開演 名古屋能楽堂

長唄 那 須 野

三 味 線 林 屋 六 春

三 味 線 林 屋 浅 吉

尺 八 武 田 旺 山

狂言 釣 狐

男 英 白 狐 主 野 村 小 三 郎

小 笛 後 藤 大 野 口 隆 行

大 鼓 河 村 眞 之 介

名古屋宝生会

十一月十九日(土) 午後六時半開演 名古屋能楽堂

大鼓 流 千 鳥 本 館 著 茂 山 十 之 丞 主 酒 屋 の 掌 主 茂 山 五 郎 郎 後 見 茂 山 茂

和泉流 文 荷 本 館 著 佐 藤 友 彦 次 郎 冠 者 井 上 靖 浩 主 野 村 小 三 郎 郎 後 見 佐 藤 融

和泉流 舟 波 智 船 頭 勇 野 村 万 斎 坂 石 田 幸 雄 後 見 高 野 禮 夫

附祝言

主催 幸 謡 会

近藤 幸 江

岡崎市鴨田本町十一二三

T・E・L(〇五六四)二一二五二九

会員券 五十円(全席自由席)

〔資料〕 申込み 野村事務所 TEL090・83・223・3210

問合せ チケットぴあ TEL0570・02・9999(P.01397・811)

入場料金 一般 5000円(全席指定)

会員 2000円

「能楽の友」紙に助成金

平成21年度 愛銀教育文化財団

愛知銀行では、財団法人愛銀教育文化財団（小出眞理理事長）を組織して、地域の文化・教育事業を推進する個人、団体および高校生の文化・体育活動への助成、援助を図っているが、ことし第20回を迎え、多数の応募のなかから、「能楽の友」紙ほか個人7団体10組織、高校6校が選ばれ、さる10月2日午前11時から名古屋市中区栄のヒルトン名古屋5階「金扇の間」で助成金贈呈式が行われた。

席上、愛銀教育文化財団の役員紹介ののち、小出理事長は祝辞とともに、さらなる文化、教育活動の推進を期待したいと顕彰と助成の挨拶を述べた。

財団の概要
所在地 名古屋市中区栄3-14-12（愛知銀行本店内）
設立 平成2年4月1日
目的 愛知県内の各地域における教育・文化活動に携わる個人および団体への助成
なお平成21年度（第20回）の助

成および援助対象先、個人は次のとおり。

「一般助成」（個人） 1 敬称略
村上正美：多様なアプローチから学習意欲向上をめざす国語指導▽加藤佳代子：声楽とヒリオド楽器（古楽器）による室内楽▽鈴木林蔵：演劇の企画・出演▽加野昭二郎：流儀を超えた能楽新聞の発行▽西村一成：絵画制作▽清水陽子：彫刻・油画・映像インスタレーション制作▽木村亮伯：木彫・油絵真彫刻制作▽稲垣知子：屋3大名の親族・相継法に関する研究
なお団体では、知多美浜松露研究会△奥田海岸の松林の復活・活性化△豊田市民合唱団（合唱音楽の普及と地域文化の向上）など10団体。

れながら第一回で終演を迎えることになった。

「調友会の足跡」
37年7月7日 番囃子（1）舞囃子（4）素囃子（1）小舞囃子（1）能（1）
38年7月6日 舞囃子（4）素囃子（1）調（2）※一管を含む
39年7月26日 舞囃子（4）素囃子（1）調（3）※連符を含む
40年6月6日 舞囃子（4）調（3）※一管を含む
41年7月24日 舞囃子（4）素囃子（1）調（2）狂言（1）能（1）
42年7月2日 舞囃子（4）素囃子（1）調（1）仕舞（2）狂言（1）能（2）／西尾・金森・小島三氏退席
43年7月14日 舞囃子（4）調（3）仕舞（1）狂言（1）能（1）
44年7月6日 舞囃子（6）調（3）狂言（1）能（1）
45年7月5日 舞囃子（5）調（2）狂言（1）能（1）
46年7月4日 舞囃子（5）調（3）狂言（1）能（1）
48年7月22日 舞囃子（4）調（2）狂言（1）能（1）連吟（1）／青木恒治・田鍋惣太郎・田鍋惣一郎三氏退席

「能清・松門之出」 流罪の父・景清（シテ勸鶴）を従者（トモ修一）と尋ねる娘・人丸（ツレ嘉彦）、道行の連吟が佳。彼地に着けば、父その人とも知らず薬屋から聞こえる呻吟にも似る声。身から出た錆とはかりに自身を苛み、来し方を述懐するいわゆる松門の語に人生の深みが。初回 邦久・邦弘・正邦らへ染むべき楓の浅ざれと、沙門帽子・小笠子着付・緑色大口・黒木衣、髷有面の景清。訪う相手は見えずとも一旦は娘と察する景清。果が娘に及ぶを怖れ、また、盲目老残の身を曝すを善しとせず追い返すところ、面右に傾け去る足音を聞く心は、父娘ゆえに名乗らずにいた苦渋の独白、地誌と相俟ち書きつける。

里人（ワキ勝久）との出遇いで、従者は里人との問答に件の食が景清と知り、事情を知って里人は景清の近況を語り、先方へ案内を買って出る意気込み、気合いの入ったワキ語がよい。大声で呼びかけ柱を叩く里人に、「姦し姦し」と両手で耳を掩うと、胸中穏やかならざる景清も、相手が里人とあつて自覚、へ片輪なる身の難として、と薬屋の柱を両手に挟み、里人に合掌、憐み心を語り、盲目ゆえの研ぎ澄まされた神経は人の心も、自然界の移ろいも分るとばかりに、へ山は松風、と左土を眺め、潮声を右に小首傾けて聴く



第111回 調友会 半能「能・十三段ノ舞」シテ片山慶次郎、ワキ西村欽也
前次 青木恒治、河村紅二、杉村竹翠、分林弘一、梅田邦久、片山博太郎、久秀雄
後次 青木恒治、河村紅二、杉村竹翠、分林弘一、梅田邦久、片山博太郎、久秀雄

◆ 晩夏から初秋舞台 ◆

「日本能楽会・名古屋公演」 「人間国宝・茂山千作の世界」と「豊田市能楽堂九月能」 「名古屋能楽堂九月定例公演・初秋能・第一部」

竹尾邦太郎

と、波の音に触発されたように立ち、物語でお慰めを、と杖をつき薬屋を出ると里人に向き合下居、両手をつき改めて非礼を詫びると問答になる。先刻事を承知の里人に訪ね人の有無を問われる景清、娘人丸と対面すれば、父をなじりつつ傍へ寄る人丸。親の慈悲はへ子に依りけるかや、とシラレば、へ御身は花の姿にて、と景清はまじく娘の顔を見詰め、名乗れば親が乞食と知れる苦衷、右手を娘の肩にかけるところ、娘を辛い目に合わせている景清の胸中も思われ切ない。

往時の偏狹な性（さが）のへその報いに、で相抱擁せんばかりの、父娘の顔も触れる濃密な愛情表現に吃驚したが、感極まった激情は離れる時も顔見交わしながら、娘に会つたばかりに土を回顧する景清、麒麟も老いては驚鳥に劣る、とがつくり安座に濃く叙し、みも。娘の所望で語る源平屋島の合戦譚は床几で、重々しく語り出し思い入れたっぷりの印象は、語え随む六ツ拍子に戦場の有様。眼目の三保の合との組み討ちは、へ主は先へ逃げ延びぬ、で床几を立てつと目の離せない型の連続、中でを相手に突き出す心に伸ばし、へ腕の強さ、とじつと見たのが如何にもの感して面白かった。

「能清・松門之出」 流罪の父・景清（シテ勸鶴）を従者（トモ修一）と尋ねる娘・人丸（ツレ嘉彦）、道行の連吟が佳。彼地に着けば、父その人とも知らず薬屋から聞こえる呻吟にも似る声。身から出た錆とはかりに自身を苛み、来し方を述懐するいわゆる松門の語に人生の深みが。初回 邦久・邦弘・正邦らへ染むべき楓の浅ざれと、沙門帽子・小笠子着付・緑色大口・黒木衣、髷有面の景清。訪う相手は見えずとも一旦は娘と察する景清。果が娘に及ぶを怖れ、また、盲目老残の身を曝すを善しとせず追い返すところ、面右に傾け去る足音を聞く心は、父娘ゆえに名乗らずにいた苦渋の独白、地誌と相俟ち書きつける。

「能清・松門之出」 流罪の父・景清（シテ勸鶴）を従者（トモ修一）と尋ねる娘・人丸（ツレ嘉彦）、道行の連吟が佳。彼地に着けば、父その人とも知らず薬屋から聞こえる呻吟にも似る声。身から出た錆とはかりに自身を苛み、来し方を述懐するいわゆる松門の語に人生の深みが。初回 邦久・邦弘・正邦らへ染むべき楓の浅ざれと、沙門帽子・小笠子着付・緑色大口・黒木衣、髷有面の景清。訪う相手は見えずとも一旦は娘と察する景清。果が娘に及ぶを怖れ、また、盲目老残の身を曝すを善しとせず追い返すところ、面右に傾け去る足音を聞く心は、父娘ゆえに名乗らずにいた苦渋の独白、地誌と相俟ち書きつける。

へ）乱れけるそや、と杖を指う景清、へはや立ち帰りと娘を促す構に左手指し、立つとへ盲目の、と行きかゝる娘を杖で止め、左手娘の肩に掛け暫し惜しむ名残り、へさらばよ留る行くそとの、で娘は父を残し構へ、この辺り情緒纏綿。景清は薬屋前、娘を見送り、二・三歩出てシラリ留メ。前半、気骨を見せた景清も娘と出逢つてからは軟化、写真に過ぎるところもあるが見応え充分だった。（1時間23分）

「大般若」 篤信家の地主（小アト弘之）の処で月例の檀家回りの僧（シテ友彦）が大般若経六百巻を読誦するところへ、これも神楽を上げにやつて来た巫女（アト高美）が鉢合わせ。読誦を邪魔され、神楽の鈴が直しと地主を介し巫女に文句を付ける僧に、勝負な巫女と神と仏は別、直しければ読誦せぬが定、と頑強。仲に立つ地主は大迷惑と思いきや、両人の言ひ分を聞きはしてもおとり構え、成るようにならぬと達観している趣、持ち味が良く出る。巴むなく巫女の鈴に對抗、声高らかに読誦する僧。いわゆる転読で、全巻の読誦に代え経題と経の一部だけを読み、折本を空中で翻転させる華やかな形式で修するが、手綺麗とはゆかず、少々乱れたのは見せ場でもあるので残念。見目好しの巫女へ心が乱れたらうか。うつつを抜かした僧は、好色ぶりを発揮すると巫女の尻を追い掛け、神楽を舞い出す始末。「今度は何を舞うて下され」と舌舐りせんばかりの追従に、嫌悪もあらわな巫女、神と仏、女と男、の在り様も思われ面白かった。（20分）

「葉土・梓之出」 照日ノ巫女（ツレ博助）が扇座に就き、後見が本幕で出て病臥の葉土を導導する出小袖を先先に延べて退くと、臣下（ワキツレ）も何事も無く出、葉土に憑く物の怪を呼び寄せる梓弓に掛けるよう巫女に命じる。ここで、筋道から言えば、臥せって居る葉土の処へ巫女が呼ばれ、頃を回り臣下が出、巫女に口寄せをさせる、と先づうが、ツレの出が出小袖より先というのには不審。（④面へつづく）

久田観正会大会

十一月二十二日（日）午前九時半開演
名古屋 能楽堂

仕舞	嵐山	堤賢太郎	河村真之介	竹市 学
仕舞	清玉鶴	高木敏男	久田舜一郎	鹿取 希世
定松	経鯉	伊藤景義	久田舜一郎	鹿取 希世
家風	風キリ	中里三紀子	久田舜一郎	鹿取 希世
金井	美晴	前川幸子	久田舜一郎	鹿取 希世
平澤 貴入	河村真之介	鹿取 希世		
近藤 利幸	久田舜一郎	鹿取 希世		
鈴木 久方	石黒 道彦			
町田 耀子	池野 章			
前川 幸子	久田 勘鶴			

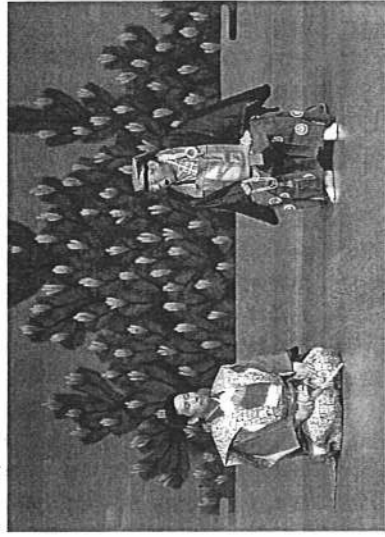
平成二十年年度
名古屋演劇ペンクラブ賞
「道成寺」赤頭 久田 勘鶴 受賞式

義経	寺澤拓海	河村真之介	竹市 学
山崎大輔	久田舜一郎	久田舜一郎	鹿取 希世
吉井善次	久田舜一郎	久田舜一郎	鹿取 希世
久保信一	久田舜一郎	久田舜一郎	鹿取 希世
笠間昭雄	久田舜一郎	久田舜一郎	鹿取 希世
久保信一	久田舜一郎	久田舜一郎	鹿取 希世
梅若基徳	久田舜一郎	久田舜一郎	鹿取 希世
上田公威	久田舜一郎	久田舜一郎	鹿取 希世
岡田徳道	久田舜一郎	久田舜一郎	鹿取 希世

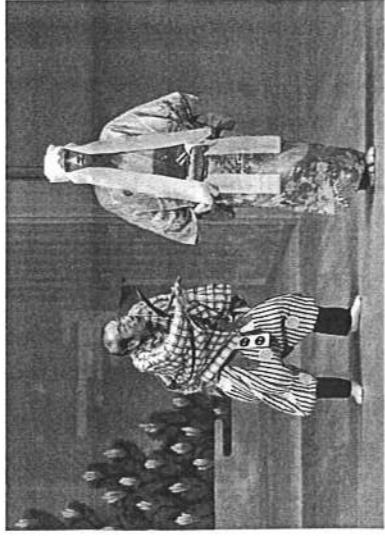
卒都婆小町	前川千鶴子	久田 勘鶴
求塚	大久保由美	松山 幸親
	後藤 玲子	上田 貴弘
仕舞 狸	柴田 雄次	
半熊	柴田 得美子	
清野	岡 佳代子	
柏野	小田あさ乃	
熊野	後藤 玲子	
熊野	岡 佳代子	柴田 雄次
菊盛	柴田 雄次	佐藤 隆男
菊盛	久田三津子	
菊盛	久田 勘鶴	

附 祝 言 — 終了予定 六時頃 —

主催 久田観正会
久田 勘鶴 事務
TEL(〇五三二七〇五一)一八八五



茂山千作の世界「魚説経」
左より 茂山正邦、茂山千作
(撮影・杉浦賢次氏)



茂山千作の世界「鎌腹」
左より茂山千五郎、茂山茂
(撮影・杉浦賢次氏)

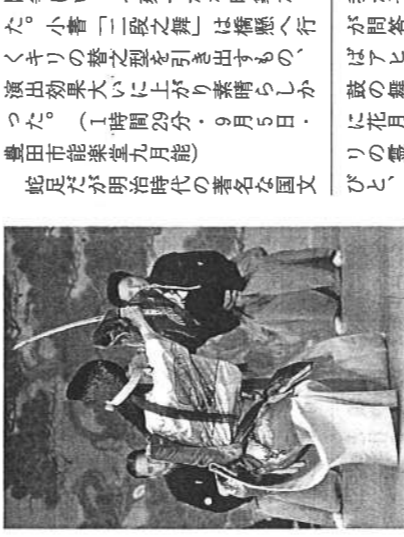
「魚説経」 殺生を業として渡世を送る漁師の味気無さをふと思ひ、程も読めぬに安易に出家に転身するシテ千作、その融通無碍な思考回路の先は滞ることを知らない。行脚の途次、たま〜同連した檀那(アド正邦)が持仏堂を建たせしめて無住で、をわれ、はそれに納まる臨機応変。さすれば着く早々、説法を求められ「何、説法をせい」と一旦は動揺するも「彼々居直りもせぬうち」と呟き一思案、後見が掛符を掛け(掛符はシテ自身の懐中から出すのでは、檀那に床几を出させて、勿体ぶつて徐に「いで〜(鎌(さば)説法を述べんと」と魚の名を織り込み、秀句仕立ては言葉の抑揚も説法調に滔々と「まず説法

境を述べたる次第・サシ・下歌・上歌を省き、直ぐ誘い出された様の弓の音の出所を探るかに四辺へ面使とするシテ、へ姿なれば問ふ人もなし、と二・三歩退りシテ、通刀をもつ巫女にしか見えなシテ、「もしかやうの人にて」と巫女に問い掛けられて、臣下は「大方は推量申して候、たゞ包まず御名のり候へ」と見えぬシテに巫女と連陰で迫る。これで正中へ出て来たシテは、婆に何時まで亡魂がさ迷い出たかを悔恨、シテと胸中の思い吐き出すクドキ。六条島所怨を乗せ、在世、春秋の花と月も忍び寄る裏きに、へこれまで現れ出でたるなり、と巫女にアシラフところ、ふ

男は口も無く働きに出掛けるつもりになるが、一早う山へ行きをれい「やい」の女屋の罵声に男の抱券を構つけられた思ひは、腹巻に鎌で自殺する覚悟。下腹の辺りを揉みほぐし準備はするが、いざとなれば優柔不断、寸前まで行って「どこも怪我は」「手が腫痛腹」と様々試すも恐ろしさが先に立ち断念。この辺りの機微、千五郎たつぷりと大仰に見せて精彩。そこへ「やあくそれは誠が真実か」と夫が自殺するのを聞きつけ走り出た女房、思い留まるよう懇願すれば、死ぬ、と脅して女房の反応を試す男の嫌味が分らず、ならばわらへとも「淵川へ身を投げて」と女房。それを聞いて男は女

房の健気さに感じ入り、ならば「それがしの名代となって此の鎌で」と自殺をそのかす(写真)纏着。やはりこの男は経道なお調子者だったか、を納得させる千五郎の巧さだった。(36分・8月20日・人間国宝茂山千作の世界) 「教盛・二段之舞・脇語」 戦ゆえに教盛を手掛けた熊谷次郎直実、無常を感じ出家して蓮生法師(アキ園)、故人の菩提を申うため古戦場一の谷へ赴くところ、名宣から連行と重々しい話に鎮魂の思ひひしく、舞台が締まる。折柄、笛の音を聞き始めるワキの前には草刈男の一行(シテ祥人ツレ兼裕、昌司・祥丈)が野を分けて勢揃い。草刈の絶叫の雄姿を纏みしめるように、確りした連陰が素晴らしい。幸い生業と裏腹に、花籠・花冠を白布の括り紐に掛け、左手胸に押さえた姿は、常の挨拶より量があり実に華やか。また、小書ではシテが花籠を担げるところを、鎌だけを持ち、刈った草花はツレに持たせるのも理に通った演出の細心。笛を巡り、「その身にも応ぜぬ業」と不華するワキに、「劣るをも腹しむな」と口跡きつぱりと反発する辺り氣品をみせるシテ。権歌牧笛の在の様を説くシテ・ワキの掛合、節尽しの初回(志房・久広、重好ら)のうちにはツレ三人は兼(退き、舞台を廻ってシテは鎌を後見に渡すと扇を持ち、一人残ってワキに十念を、と願ひ、教盛所縁の者と明かし、

キ雅介を迎えに連る。兜巾・中格子着付・白大口・黄地黒縹水衣・篠懸・小刀の姿。下人との問ならず、とシテ、へ恨みは更に、の返シ向に居立つと、更にへあら恨めしや、とシテ立字通りみせる。巫女の制止を聞かず、へいや如何に言ふとも、とキツと巫女にアシラフ、立つと葵上の前へちやうと、打つと巫女との掛合に常座へ、振り向きへ思ひ知れ、と扇で葵上を鋭く指シ意味を。枕之段はへ水唾き沢辺の強、と高カサシテ面使とに刺にさらりと虫を追う様な心をもせ、物着は後見座。後場 巫女で時が明かす臣下は下人(アと哲男)に横川小聖(ワ



豊田市能楽堂9月能
「教盛」二段之舞
脇之語、関根祥人
(撮影・杉浦賢次氏)



初秋能「鞍馬天狗・白頭」
(左より) 武田邦弘、富田尚史
(撮影・杉浦賢次氏)

「若我成仏云々、と経を連吟、中入地に茶姓更に暗して送り笛(空)で静かに入る。こ、で、アとの居語との重複を避けて小書「脇語」となる演出もある田だが、敢えて里人(アと講造)が出、居語に教盛討死のこと「許しくは存せぬ」とは言い糸滔々と語る昂り。ついでアとの求めにワキの語る体験談は「教盛はあの渚の」右ウケたとき、その先には茫茫たる海が。抑制された沈痛な思いの語は沁々と、誓て己が行為を懲ぶかである。後場は教盛の菩提を申うワキの待詔から一声で後シテ教盛ノ霊の出、面教盛・大口は黄色。念仏を介し、誓ての報味方の因果は晴れて今は仏法の友、とシテ・ワキの掛合、てきばき展開し惹きつける。では、懺悔の物語を夜すがら、と茶華の憐れさを纏りの自覚に至る悲哀を述べたクリ・サシ・クセ。へ然るに平家、と床几を立ち舞う中。へ拍子を揃へ声を上げ、と先を牽じるも覚悟の真に舞う中。不安がうかに勇壮に舞うのが、三段を二段に早々舞上げるのは迫る危機。船で逃れる一門にへ乗り後れしと、一ノ松へ。更にへ御座船も兵船も運かに、と一ノ松へ、船を追う心は曇ノ雨に見送る虚脱感も。熊谷直実に追われへ前に草刈男の一行(シテ祥人ツレ兼裕、昌司・祥丈)が野を分けて勢揃い。草刈の絶叫の雄姿を纏みしめるように、確りした連陰が素晴らしい。幸い生業と裏腹に、花籠・花冠を白布の括り紐に掛け、左手胸に押さえた姿は、常の挨拶より量があり実に華やか。また、小書ではシテが花籠を担げるところを、鎌だけを持ち、刈った草花はツレに持たせるのも理に通った演出の細心。笛を巡り、「その身にも応ぜぬ業」と不華するワキに、「劣るをも腹しむな」と口跡きつぱりと反発する辺り氣品をみせるシテ。権歌牧笛の在の様を説くシテ・ワキの掛合、節尽しの初回(志房・久広、重好ら)のうちにはツレ三人は兼(退き、舞台を廻ってシテは鎌を後見に渡すと扇を持ち、一人残ってワキに十念を、と願ひ、教盛所縁の者と明かし、



初秋能 「花月」長田駿



初秋能 「太刀薙」
今枝郁雄(前)
佐藤友彦、大野弘之(右)
(撮影・杉浦賢次氏)

学者・能楽研究家・大和田建樹(一八五七—一九一〇)作の唱歌「事業の笛」は昭和一桁頃の生れには祖母や母から習い覚え、歌が聴るであろう。一の谷の軍破れ討たれし平家の公達あわれ晩寒き須磨の風に聞えしはこれか 事業の笛 「花月」 切かされた我が子を尊ねるため發願(出家(アキ幸)行脚、都清水寺で門前ノ者(アと融)に何か面白く事をと聞え、放下(天遣芝)をよくする花月(シテ郷)の売り込み役を任じてもいるか、アとは即座に彼を呼び出す。花月は小歌に、へ身はさらさら、とアとの肩に手をやり纏わると、へ恋こそ覆られね、と巫山戯てアとを押し倒せば、「あれ〜」「薙が花を」と叫ぶアとに花月は持ちたる弓矢でへいで物見せん、と逸る。この辺り、花月とアとの絡みが洒落ていて戯れという舞々せもそつ無く、花月は我が子と察したワキが問答で茶姓明かせばアとは、ワキに羯鼓の舞を見せるように花月に勤める。キリの霊山尽しきびきびと、へ富士の高嶺

に上りつ、と正先へ勝行して出るところなど目覚しかった。(55分) 「太刀薙」 北野天神の祭の夜、太郎冠者(シテ郁雄)と参詣に向かう主(アド弘之)、途中、通行人(小アド友彦)の持つ見事な太刀に目が留まると、「お氣に入つたならば取つて参りませうか」と飛んでもない事を言い出すシテ。「人の物を何と」とは言ひ、条、満更でもない主、シテの言うま、護身の小刀を貸せば、早速実行にかゝる。明らかな無法は結局太刀を持つ通行人に奪され、逆に主の小刀を取られるていたらく。小刀を取られた手前、あくまで太刀の奪取に拘るシテは、通行人の鼻を掴み主と一緒にならぬよう、鼻を掴み、まんまと捕まはしたのが縛り上げる縄がない。盗人を見ても縄を掴う、の響えそのま、(写真)とほけたシテ、朴直な主の持ち味がよく出て上々。話柄は感じないが悪巫山戯の響気は捨て難い。(16分) 「鞍馬天狗・白頭」 前場、花

見の闖入者とされて疎外された山伏(前シテ邦弘)を勞り独り残る牛若丸(子方・尚史)。互に通い合う心は、利発な子方の詞・諸に張りがあり力強く、山伏との問答が立派。花を襟に、へ此方へ入らせ給へや、と子方を介添の山伏は儼にやさしく、茶姓を明かし兵法伝授を約してへ誓を踏んで、と一ノ松へ疾走、そこから歩を纏めて期する所があるを思わせ中人。後場 大天狗(後シテ邦弘)は木葉付腰背杖の出。鬱然たる姿は、へ刃士に於ては、と素快に左袖返すとへ如薙が獄、と胸板に牌隠すところ大きい。へ風木枯、と囃子の高調に舞台へ、へ天狗倒しは、と鹿背杖投げ捨てる音も効果。羽田扇を取り、腰良(真名公)の語りは正中床几。へ姿も心も荒天狗、と三ツ拍子強々踏み、へ師匠や(坊主と)、子方にアシラフと、へ(大事を残さず)伝へて、と羽田扇で子方を指シ、舞脚を抜くと、へ取り分まきの舞の水上は、と羽田扇を後見に渡して子方の長刀を取ると、へ纏れる平家を、と長刀薙きの鮮烈、へ会稽を雪がんと、子方に長刀を戻し(写真)キリはへこれまでなりや、と子方に一礼、橋懸へ行けば子方は後を追って一ノ松へ走りシテの袂を掴む。再び舞台へ戻る子方の、シテを養う氣持が如葉。シテは戻つて三ノ松、拍子一ツ踏みへ梢に翔つて、と左袖薙き右ウケて留めた。重みをみせ大きな天狗だった。(1時間17分・9月6日・初秋能・第一部)

「先号の訂正」 2頁4段 フォークスは「フークス」 4頁6段3行目 「負けたら要求する」は、「負けたらと要求する」

NHK放送予定(平成21年11月~12月)

11月29日	狂言「秀句傘」(和泉流)観世喜之ほか
12月6日	楽語「鉢木」(観世流)観世喜之ほか
12月13日	楽語「美上」(宝生流)金井雄資ほか
12月20日	楽語「朝政」(金春流)桜間金記ほか
12月27日	楽語「三輪」(観世流)梅若万三郎ほか

演能力レンダー

◆名古屋能楽堂

[11月]	狂言三の会第8回公演 (有料)	久田郁 (有料)
	田観正会 (無料)	郁 (無料)
	田観会 (無料)	郁 (無料)
[12月]	小・中学生芸術観賞会 (関係者のみ)	上 (有料)
	同 ()	上 (有料)
	菩提樹チャリティ公演 (有料)	能 (有料)
	名古屋大観前演会 (有料)	能 (有料)
	第13回定期自演会 (無料)	能 (無料)
	名古屋能楽堂12月定例公演(番組②面) (有料)	能 (有料)
	青陽会 (有料)	能 (有料)

能 楽 の 友

発行能楽の友社
名古屋千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464-0858)
電話 (052) 731-779 8 4
FAX (052) 733-2837
振替口座 00800-6-36393
購読料 1年 1100円
1年 1800円
郵送の場合 1100円

名古屋能楽堂 新春謡初め

整理券必要
1月2日(初めを1月2日)
名古屋能楽堂で開演

名古屋市民文化振興事業団(名古屋能楽堂)能楽協会名古屋支部では、「新春謡初め」を1月2日(名古屋能楽堂)で開演する。午後1時開演。入場は無料だが、整理券が必要。整理券は12月1日(午前9時から名古屋能楽堂、午前11時からナディアパーク7階プレイガイド)で配布する。
問い合わせは名古屋能楽堂(名古屋市中区三の丸一一一一、電話052・231・0088)

片山九郎右衛門氏

文化功勞者顕彰

政府は10月27日、文化勲章、文化功勞者の受章者を発表。能楽界から文化功勞者として、観世流シテ方・片山九郎右衛門氏が受章、11月4日に東京・虎ノ門のホテルオークラで顕彰式が行われた。

文化功勞者は15人が受章。片山九郎右衛門氏は、能楽師として勝れた基の境地を示し、能の現代化に取り込んだと功勞が顕彰されている。79歳。95年日本芸術院会員、01年人間国宝。

第3回 豊田御酒落狂言会

11月29日 豊田市能楽堂

狂言共同社では、きたる11月29日(日)「豊田御酒落狂言会」(第3回)を豊田市能楽堂で開催する。午後1時30分開演。
「お酒落」は狂言共同社創立の中心となった初代井上勘次郎、伊勢門水の諸師が当時流行した「傾楽部」(くらぶ)をもしり参加した「愛知酒落部」(あいちしゃらくぶ)に因っている。平成12年より名古屋で開催されている「御酒落名匠狂言会」は毎年好評を博している。

豊田市を中心とした愛好者の方々にもぜひ鑑賞して頂きたいとの趣旨で平成19年に発足した「豊田御酒落狂言会」は今回で3回目を迎え、地元に限らず狂言共同社の熱意ある舞台に大きな期待が寄せられている。
後援、豊田市、豊田市教育委員会、豊田市文化振興財団、愛知芸術文化協会
前売券一般三五〇〇円、学生二〇〇〇円(当日券は五〇〇円増)チケット取り扱い/狂言共同社

(TEL・FAX052・834・8607)▽豊田市能楽堂(TEL0565・35・8200)▽豊田市民文化会館(TEL0565・33・7111)
番組は次のとおり
解説||豊田市能楽堂アドバイザー・能楽ジャーナリスト 柳沢新治氏

萩大名
大名 井上 靖浩 太郎冠者 今枝 郁雄
大野弘之
住持・佐藤友彦、花見客、今枝 雄、今枝郁雄、大橋剛夫、中島知亮、鹿島俊裕。

第3回 豊田御酒落狂言会

十一月二十九日(日)午後一時三十分

豊田市能楽堂
解説 豊田市能楽堂アドバイザー
能楽ジャーナリスト 柳沢 新治

萩大名
大名 井上 靖浩 太郎冠者 今枝 郁雄
大野弘之
住持 佐藤友彦、花見客、今枝 雄、今枝郁雄、大橋剛夫、中島知亮、鹿島俊裕。

東文化小劇場 文化講演会

11月26日開催

名古屋市民文化振興事業団(名古屋市民文化小劇場、名古屋市民ギャラリー)矢田、(名古屋能楽堂)で「天下統一の時代の能、狂言」を主催する。
講師は、「天下人秀吉が愛した能」朝日大学教授宇都宮邦彦教授、米知鳳淑徳大学非常勤講師、田崎未知氏、また、能子「早苗」(舞動)

小鼓方 久田舜一郎師舞台生活50周年

「鼓楽の会」が発足

12月20日 大阪能楽会館

大倉流小鼓方、久田舜一郎師は、このたび舞台生活五十周年を記念して、後援会、松月会の支援のもと、「鼓楽の会」を発足させ、記念会をきたる12月20日(日)大阪能楽会館で開催する。これと同時に門下の高橋泰子師が独立披露として半能「石橋」を上演、また、舜一郎師長女陽春子師は、一調一声「三井寺」を勤め、鼓楽の会の発足を祝賀する。
主催：久田舜一郎後援会、久田

松月会。
観覧券は、前売A指定券1300円、B指定券10000円、2階自由席6000円、同学生席3000円(当日券はそれぞれ千円増、ただし前売券完売の節は販売されない)
申し込み||郵便、電話、FAX、メールにより申し込み。
松月会 久田舜一郎/西宮市栢 8・73・6586、FAX07

「神楽」の上演(笛・大鼓、小鼓、後藤嘉津幸、大鼓、河村真之介、大鼓、加藤洋輝)が行われる。
入場料無料・定員349名、要整理券。問い合わせは、名古屋市民文化小劇場||電話719・0430。
同時開催として、能楽写真家協会会員、杉浦隆次氏撮影の「名古屋能楽堂定例公演写真展」が11月25日から29日(9時30分~午後7時、日曜日は午後5時まで)、名古屋市民ギャラリー矢田(名古屋市中区大幸南1-11-10、カルポ1ト東3階)で開催されている。協力、能楽協会名古屋支部。

演能案内

郁 諷 会 大 会

十一月二十九日(日)午前九時四十五分開演
名古屋能楽堂

運吟	賀 茂	名古屋大学観世会
素謡	吉野天人	杉野かよ子 小島 澄江
	清 経	竹内 春雄 河崎 喜代子 大見 晃代
	松 風	中野 裕子 吉田 寛子 片山 明美
舞囃子	高 砂	有 滝 文江 後藤嘉津幸 加藤 洋輝 花 月 河崎喜代子 鹿 峯 新一 大野 誠
素謡	安 宅	濱田 國弘 佐治 光幸
	楊 貴 妃	熊谷 豊子 有滝 文江
仕舞	江 口	渡辺 郁子
	殺生石	中野 裕子
能 杜	若 若	河崎 幸雄 高安 勝久 鹿 峯 新一 加藤 洋輝 後藤 孝一郎 竹市 学
仕舞	鶴 亀	重川 美枝子
	邯 鄲	夢之舞 柴 木 麗子
舞囃子	井 筒	志津 明子 河村真之介 大野 誠 山 姥 片山 明美 河村真之介 加藤 洋輝 後藤嘉津幸
素謡	大原御幸	下川 直長 近藤 壽子 近藤 幸江 渡辺 郁子 高安 勝久 相本 正樹 藤 雅代 根 本 正樹
	女 郎 花	森田 玉枝 尾立 菅子
仕舞	花 籃 庄	新井とみや
	松 虫 唄	橋 岡 至子
舞囃子	芦 刈	伊藤 明美 河村真之介 大野 誠
	紅葉狩	佐治 光幸 河村真之介 大野 誠 後藤嘉津幸
番外舞	龍 田 唄	前野 郁子
附 祝 言	阿 漕	久田 勘麿 (楽演五時十五分頃)

(入場無料)
(御来場歓迎)

主催 郁 諷 会
前野 郁子

NHK放送予定(平成21年12月~平成22年1月)

- NHK-FMラジオ(日曜日7:15~8:00)
12月20日 素謡「賴政」(金春流) 桜間金記ほか
12月27日 素謡「三輪」(再)(観世流) 梅若万三郎ほか
1月10日 素謡「巴」(観世流) 坂井音重ほか
1月17日 素謡「通盛」(観世流) 藤井徳三ほか
1月24日 素謡「郎郷」(宝生流) 亀井保雄ほか
1月31日 素謡「善知鳥」(再)宝生流 小倉敏克ほか

演能カレンダ一

名古屋能楽堂

- (能・狂言演能関係) (TEL 052-231-0088)
(平成21年12月)
19日(出) 書陽会 定式能 (有料)
(平成22年1月)
2日(出) 名古屋能楽堂新春謡初め (要整理券)
3日(日) 名古屋能楽堂正月特別公演
9日(出) 名古屋学生能楽連盟 (有料)(番組①面)
11日(月) 名古屋清韻会 (無料)(番組②面)
17日(日) 第53回狂言鳳の会 (有料)(番組②面)
24日(日) 名古屋宝生会定式能 (有料)(番組②面)
31日(日) 万作を観る会 (有料)(番組③面)

NHKテレビ新春能狂言

- 教育テレビ(7:00~8:00)
1月1日(日) 観世流「屋島」弓流・素働 梅若女
祥、村瀬純ほか
1月2日(出) 大藏流「魚説法」茂山千作ほか
和泉流「舟渡蟹」野村万作・野村万斎ほか
1月3日(日) 金剛流「巻綱」金剛永謙、福王茂十郎
ほか
NHK-FM新春謡曲狂言
(11:00~11:50)
1月1日 観世流「高砂」片山幽雪(片山九郎右衛門改め)
1月2日 和泉流「夷毘沙門」野村 萬ほか
大藏流「三本柱」山本東次郎ほか
1月3日 宝生流「東北」三上 泉ほか

能楽の友

発行 能楽の友社
名古屋千種区千種2丁目18-18
(郵便番号) 464-0858
電話 (052) 731-7984
FAX (052) 733-2837
振替口座 00800-6-36393
購読料 1年 1100円
郵送の場合 1年 1800円

観世寿夫記念
法政大学能楽賞

表章氏受章
宝生欣哉氏

法政大学(増田壽男総長)は、一九七九年(昭和五四年)に「観世寿夫記念法政大学能楽賞」を設

定し、すでに三十回の贈呈を重ねているが、平成二十一年度も各方面の識者の推薦による候補者について、選考委員(徳安彰法政大

野村萬、みなもところろ、松本雅、西野養雄、坂本勝、山中幸子)が慎重に審議した結果、第三十一回の受賞者として、能楽研究

鳳の会では最終公演にあたり次「鳳の会」は、林和利(名古屋

名古屋は狂言和泉流の本拠地として、江戸時代より独自の芸術を今に伝えてきた。「鳳の会」はこ

第53回

鳳の会最終公演

1月17日 名古屋能楽堂

の義重着付け表演、そして終演後は、演者を囲んで観客と歓談する「演者と語るQ&A」など企画にも工夫をこらし、大盛好評を頂いてきた。
本年1月には第50回記念公演を開催、記念誌「鳳」を刊行、大きな節目を迎えることができた。
これをひとつの区切りとして、第53回「鳳の会」を最終公演として、私たちが新たな出発を図ることになりました。最終公演は「想

名古屋能楽堂

新春謡初め

平成二十二年一月二日(土)
午後一時~二時半
名古屋能楽堂

- 連吟 四海波 (観世流) 久田 勘助 他
舞囃子 高砂 (宝生流) 佐藤 耕司
狂言小舞 御田 (和泉流) 佐藤 友彦
舞囃子 八高 (喜多流) 長田 郷
連吟 鶴亀 (金春流) 鬼頭 尚久 他
狂言語 虎之語 (和泉流) 野村 小三郎
舞囃子 羽衣 (金剛流) 百々 康治
舞囃子 狸々 (観世流) 高橋 暁一

入場料(要整理券)

主催 (株)名古屋市文化振興事業団
(名古屋能楽堂)
(財)能楽協会名古屋支部

問合せ 名古屋能楽堂
TEL 052-231-1008
名古屋市中区丸の内一-1-1

名古屋能楽堂正月特別公演

「能・狂言でたどる
天下統一の道(前篇) 豊臣秀吉
平成二十二年一月三日(日)
午後二時開演
名古屋能楽堂

能翁 翁 橋田 邦久 三番叟 野村 昭弘
千歳 吉沢 小三郎 旭

能養老 前フレ 八神 孝充
後フレ 松山 幸親
清沢 一政
殿 福元 雅正 河村 眞之介
後 橋本 幸 後藤 嘉彦 船戸 昭弘
福井 聡介 福井 聡介 加藤 洋博
竹市 学

後見 武田 邦弘 地謡 黒田 博
加賀 敏彦 武田 大志

狂言 筒竹筒

松田 高義 野口 隆行
豊津 健太郎
後見 佐藤
地謡 伊藤 小三郎

(午後五時五分頃終了予定)

主催 名古屋市文化振興事業団
(名古屋能楽堂)
能楽協会名古屋支部

入場料 前売指定 五〇〇〇円(能楽堂のみ取扱い)
前売一般 四〇〇〇円(当日四五〇〇円)
学生前売 三〇〇〇円(当日三五〇〇円)
取扱所 名古屋能楽堂(052-231-0088)
チケットぴあ 0570-021-9999
市内プレイガイド、ナナイアパークPG
(052-265-2015)

学生能・狂言の会

一月九日(土)
午前十一時始
名古屋能楽堂

(金剛流) 舞囃子 「竹生島」「小管」
(観世流) 舞囃子 「胡蝶」「鞍馬天狗」
(宝生流) 舞囃子 「絃上」
(和泉流) 狂言 「樗牛」ほか

主催 名古屋学生能楽連盟
電話 090-73304110

当地の各流儀・流派・結社・ 社中の消息を辿る

竹尾 邦太郎

四 「妻の会」 ②

第七回は昭和五二年(一九七
七)七月一六日。この回から創立
者の一人、宝生流・衣斐正直が抜
け、先回(第六回)に客演した観

世流・久田徹二が参入、創立者の
長田颯と主権することとなる。こ
れまで同様、西田三好による「本
日の能について」の解説があり、
能組は独吟「禰之段」二井栄逸、
能「半部」長田颯・西村欽也・佐
藤友彦・地頭大鳥久見、仕舞三番
「女郎花」久田秀雄「笠之段」上
田照也「遊行柳」大鳥久見、狂言

東海テレビ文化賞



東海テレビ放送は、地元文化
や学術、産業などで功労のあった
人に贈る「第42回東海テレビ文化
賞」に、能楽大政方、河村総一郎
氏(七六)の授賞を決定、11月27
日東海テレビ本社で表彰式が行わ
れた。
同文化賞は河村総一郎氏のほか
陶芸家・加藤幸兵衛氏(六四)、
名古屋市立大学院教授・都健次
郎氏(六〇)、宮大工・石神敬祐
氏(六九)の諸氏が受賞された。
なお、河村総一郎氏は、平成21
年度「権花賞」を受賞している。

河村総一郎氏 受賞

権花賞

権藤芳一氏 受賞

法政大学は、服部康治氏からの
親世九郎家文庫受贈を記念し
て、一九八八年(昭和六三年)四
月に「服部記念法政大学能楽振興
基金」を設立し、同基金に基づく
事業の一つとして、能楽三夜の功
労者及び能楽の普及・発展に貢献
の大きい個人・団体を顕彰する
「権花賞」を設定、各方面の識者
から推薦された候補者について、
法政大学能楽研究所と能楽賞選考
委員とが慎重に選考した結果、受
賞者として権藤芳一氏(ごんどう
よしかず)を決定した。

氏は長年にわたって京都観世会
館の事務局長を勤め、能の公演の
現場に携わることも、能をはじめ
めとする古典芸能全般の評論と普
及に大きな役割を果たしてきた。
東京偏重の能楽界にあつて、関西
における能狂言の公演についての
情報発信を一貫して続けてきた功
績は大きく、その成果をまとめた
近著「戦後関西能楽誌」は、戦後
の関西能楽界の動向について貴重
な報告である。

秋季菊之会

能「鉢木」上演

京都 金剛流・秋季「菊之会」
は、十二月十三日(日)午後二
時から金剛能楽堂で上演。
能組は次のとおり。
仕舞「寒盛」(廣田泰三)
能「鉢木」(シテ廣田泰能、ツ
シ豊嶋晃嗣、ワキ村山弘、ワキツ

シ小林繁、笛・杉信太郎、小鼓・
吉阪一郎、大鼓・谷口有祥、問・
茂山逸平、松本薫、後見・金剛永
謙、廣田幸稔)
地謡 今井清隆 宇高道成、種
田道一、今井克紀
狂言「鉢太郎」(茂山七五三、
茂山逸平、丸石やすし、後見山下
守之)
なお「菊之会」22年度公演は、3
月14日(日)能「源氏供養」(廣田泰
能)を上演。

加賀宝生の名品Ⅱ

4月11日まで開催

金沢能楽美術館 コレク ション

金沢能楽美術館では、同館のコ
レクションによる「加賀宝生の名
品Ⅱ」の展示会を11月28日(土)から
明年4月11日(日)まで開催してい
る。
コレクション展には、金沢市の
無形文化財に登録されている名品
で、儼かな古様をしめす能面(父
尉)、室町時代をはじめ、彩り華
やかな能楽東紅地華装(くまじさ
いわびし)に権折枝文庫織(つば
きおりえだもん)からおりし江戸
時代Ⅱなどが紹介されている。
※会期中展示替えが行われる。
開催時間/午前10時~午後6時
休館日/毎週月曜日(休日の場合
はその翌日)
臨時休業:平成21年12月29日(火)

入場料/一般・大学生300
円、65歳以上200円、高校生以
下無料。団体(20名以上)250円。
なお、石川県立能楽堂で毎月開
催されている金沢能楽会定期能に
ついて、次の日程で能楽解説講座
が行われる。
1月17日(日)午後1時~2時半
能「八島」「胡蝶」狂言
2月14日(日)午後1時~2時半
能「養老」「百万」狂言
3月6日(土)午後1時~2時半
能「羽衣」「野守」狂言。

名古屋清韻会

一月一五日(成人の日)
午前九時半始
名古屋能楽堂

素謡 玉鬘	久保田和代 安藤美奈子
井筒法師	伊藤加代子 富田貞子 佐藤加代子 緒方隆子
仕舞 経正	久野洋子
笠之段	鶴岡良久
笹之段	安井美智子
玉之段	佐橋由美子
采女	馬場英子
舞獅子 松浦佐用姫	川崎あきえ 飯島加代子 後藤嘉津幸 竹市学
乱	山本淳子 飯島加代子 後藤嘉津幸 竹市学
素謡 鸚鵡小町	泉眞代子 宝生 閑
一調一管 江口	渡辺 節子 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛
舞獅子 小杜	御牧 紀代 飯島加代子 後藤嘉津幸 竹市学
若	古井 佐季 飯島加代子 後藤孝一郎 鹿取 希世
仕舞 自然居士	谷口 寛子
天鼓	加藤新一郎
連吟 玄象	中村 貴大 中村 大豊
能 野宮	篠田 幸子 河村総一郎 金富 雅介 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛
舞獅子 善知鳥	加藤美智子 河村眞之介 カケリ入り 後藤嘉津幸 大野 誠
融	杉浦 善康 河村眞之介 船戸昭弘 鹿取 希世
藤戸	佐久間美親 船戸昭弘 鹿取 希世
卷絹	加藤 千一 河村眞之介 船戸昭弘 大野 洋輝
江野島	福岡 克彦 河村眞之介 船戸昭弘 大野 洋輝
仕舞 難波	大槻 文藏

狂言 鳳の会最終公演

一月十七日(日)午後一時三十分開演
名古屋能楽堂

〔解説〕名古屋女子大学教授 林 和利

素謡 宗論	浄土僧 佐藤 友彦 信屋 鹿島 俊裕 法華僧 井上 靖浩
狂言 素袍落	大郎冠者 佐藤 友彦 伯父 今枝 郁雄 水鏡冠者 佐藤 融 主人 大野 弘之 後見 鹿島 俊裕
狂言 棒縛	大郎冠者 佐藤 友彦 主人 今枝 清雄 水鏡冠者 佐藤 融 後見 井上 靖浩

縁若と語らう"Q&A"

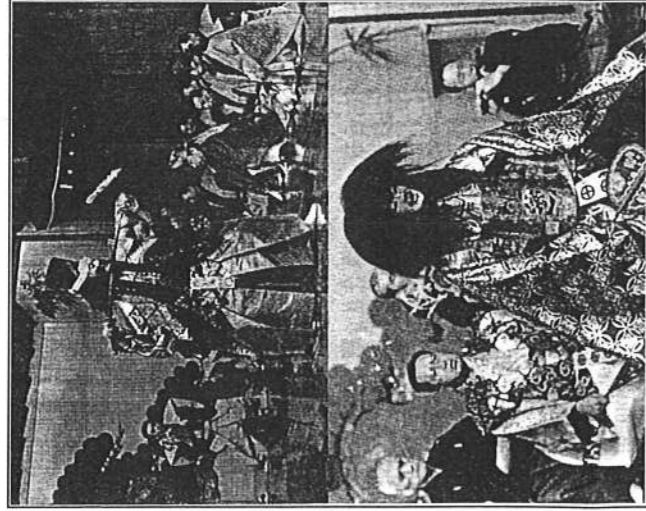
終演後会場で、佐藤友彦を囲んで歓談します。
お茶席の狂言に関する質問・質問に直接お答えします。

〔入場料〕(全席指定)
A席五〇〇〇円、B席三三〇〇円
学生二〇〇〇円
会員A席四〇〇〇円
チケット取扱い
チケットぴあ(05570・3392・999)
Pコ170・3392・619
名古屋能楽堂(0522・3392・88)
名古屋文化振興事業団プレイケイト88
(0522・265・2415)
井上松次郎宅(FAX0522・834・8607)

名古屋宝生会定式能(第54期)

一月二十四日(日)午後一時始
名古屋能楽堂

番組	衣斐 正直 佐藤 耕司 内藤 飛能 飯島 満次郎 地謡 尾田 大二郎
仕舞 卷絹	内藤 飛能
高野物狂	子方 佐藤 大綱 倉本 雅 河村眞之介 飯富 雅介 後藤嘉津幸 鹿取 希世
問	井上 靖浩



大阪文化祭参加 麦の会

■と き 昭和54年10月13日(土)
AM11:00開演
■と ころ 大阪市東区上町1-2
大榎能楽堂 TEL 06-788-9478
大榎能楽堂 豊多波 長田 駒 野田流 久田徹二
主催 麦の会 後援 読売新聞大阪本社・読売テレビ放送

②面よりつづき)
・三段之舞「長田 藤田直輝 (ツレ) 西村欽也・飯富雅介・地頭大島久見・仕舞三番「砦」上田照也「大江山」大島政允「三輪」大島久見・能「鉄輪」久田徹二・森博蔵・飯富雅介・野村又三郎・地頭上田照也・京都から森博蔵の来演。此の年、長田 久田徹二の「麦の会」は地元・名古屋を離れ十月二三日、久田徹二の師・神戸在住の上田照也の客演を得て大阪文化祭に参加する(資料参照)。能組は能「八島」長田 高林 岫二(ツレ) 植田慶之亮(ワキ) 茂山正義(アヒ) 後見和島富太郎・高林日牛二・地頭大島久見・囃子方は赤井登三・大倉長十郎・吉田太郎・仕舞四番「祝」藤谷政二「知草」笠田稔「松風」泉嘉夫「船橋」山中義滋・能「班女・笹之伝」上田照也・中村弥三郎(ワキ) 茂山千五郎(アヒ) 後見山中義滋・山田義高・地頭泉嘉夫・囃子方は赤井藤男・荒木照雄・辻芳昭・仕舞四番「松虫」高林日牛二「玉之段」大島政允「天鼓」和島富太郎「通小町」大島久見・狂言「清水」茂山正義 茂山千五郎・能「郡邸」久田徹二・藤谷章弥(子之) 江崎金治郎(ワキ) 江崎雄雄・三木栄信(ワキツレ) 和田英基・長川正彦(コシ) 松本薫(アヒ) 後見泉嘉夫・藤谷政二・地頭上田照也・囃子方は藤田昭彦・久田舞一郎・山本孝・三島元太郎、三役は藤田昭彦を除き全て京阪神在住。文化祭で賞に与ったかどうかは知らない。



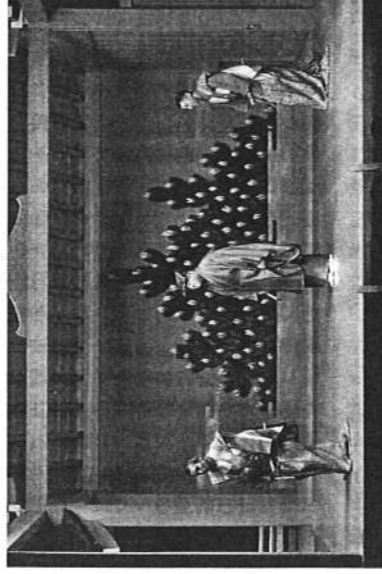
第一〇回は昭和五五年七月五日、先回「景清・松門之出」で客演した梅田邦久(49)が「麦の会」の同人となり、「麦の会」は長田・久田・梅田の三者が主催することになる。西田三好の解説のあと、能組は能「頭取」長田 西村欽也・飯富雅介・井上松次郎・地頭大島久見・仕舞六番「大江山」殿島修二「井筒」塚本秀雄「鶴之段」河村鉦二「鉄輪」久田秀雄、「花笠」大島政允「船弁

◆秋酣の舞台から◆ 「豊春会・秋の能」 名古屋能楽堂十月 定例公演「第五二回・鳳の会」と「第三〇回記念名古屋金春会特別公演」

竹尾邦太郎

「萩大名」遺園に隠れもない大名(シテ千五郎)大名烏帽子・襟赤・紅白段駈斗目着付・黒地髷大紋袴袴袴・小刀の美々しいよそゆき出立。水の在京の気遣らしに何処ぞへ遊山を、と太郎冠者(アド茂)に持ち掛ければ、大方は見尽したとあって珍しい処と言つては、と案内されたのが予て太郎冠者が懇意の庭持ちの亭主(次アド千之丞)邸。ゆるりと庭見物をするうち、「あれは何ちや」と目に留まる物へ好奇心も旺盛に筆置落大なるふりを發揮、太郎冠者に

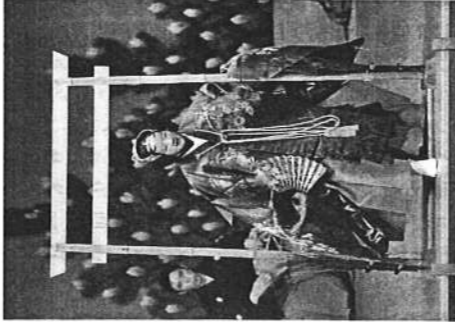
たしなめられては誤りを正し、亭主に言い纏うこと再三。この辺りシテとアド、父子来演の阿吽の呼吸、テンボ快調。また梅の古木よ「こぼく」と聞き誤り「こぼく」と正され、殊更本声で何かねちちと「こ・は・く」と反復するところが対話の中で突出、大名の嫌味も。そして、秋の庭の景は宮城野の萩、趣味人の常として歌に好ぶさかではなく、歌を強要するきらいが。それを危惧した無趣味の大名、太郎冠者の介添を頼りに一



能楽堂定例公演「不腹立」
佐藤友彦・今枝郁雄
(杉浦賢次氏撮影)

道ものにしたつもりで踏みは桑の定。太郎冠者任せの無頓着に作歌を軽んぜられ、面子を潰された思いの亭主は執拗に下の句を要求する。千之丞の粘りこが光る。キリは「今忍ひ出した」と下の句を「太郎冠者の向ふ雁と鼻の先」と付け、「面目もおりない」と大名の殊勝。「と鼻の先」まで付けるのは千五郎家独特か。「萩の花」を「雁の鼻」と当てれば理だが珍しい。(30分)

「乱」孝ゆえに靈夢を授かり、市で酒を商い富を得た高風(ワキ弘)・酔顔を見たこともなく海中の狸々、シテ三千巻)を名けり酒壺を抱え海へ帰つた客を待とう、ときつぱり爽やかな名直がよい。下り端(促美・高靖・大・光長)で二ノ松宮欄に出たシテは頭を振り、扇開き舞台へと運ぶ。装束が赤すくめで無く、唐織が黄と赤の段なのが珍しく思った。へおひせぬや、以下、地(雅彦・敏文ら)との掛合は八声の葉の笛を、吹くと舞へ。舞は中之舞から直り乱。足使いの繊細微妙は膝をむところは鞋やかにスキップを踏む印象。両足爪先立ち、横へ弧を描き流れ、水上をはつむ様な流し足、波浪を蹴り上げる心の乱し足、と舞金剛の面目躍如。大小前で舞上げ安座、へありがたや、とワキにアシラヒ、へ夜も尽きじ、と直つて立つと切地、へ竹の葉の酒、を掬つて飲む型からへ酌めど



定例公演「野宮」
衣斐正直

も尽きず、と飲めば、へ秋の夜の盃のハネ崩はもう要らないの心か。へ足立はよろくとへ酔ひも進めば、で頭を取るのにはへ東雲はやく、明ける心、へ泉はそのまま、にシテが留メ拍子。(41分・10月18日・豊春会秋の能・金剛能楽堂)

「不腹立」學を建立はしたが住僧が居らぬとあつて街道へ僧を探しに出る施主(アド友彦・郁雄)、出遇つた行脚の僧(シテ靖造)に打診、行き先を問うは「愚僧は風に木の葉の任すが如くに候」などと名傳めく言辭に惹かれ、施主二人。畏怖もあろうか、上がつてしまい、傳たる人体に「もし経はお読みなされますか」「もし経は知らぬ、の答えに名僧の資質を勝手にみてしまうのか、次いで「手はし書かせられますか」の問いには「蚯蚓のぬたぐつた様なことは」と答える僧に、併どもの手習の師匠を、の願いは当然としても、何れは墨跡をねたり兼ねないを思わせ、面白。しかし丁寧な応対もこゝまで、名を問われしどろもどろの僧、苦し紛れに「不腹立ノ正直坊」と名乗つたが運の尽き。人と生まれて腹の立たぬ事は無からう、と施主二人は「張損ひの陣子骨か?」「腹張けの無熱坊か?」などと散々に揶揄、当世にもみられる華巫山戯が面白い奇めになる典型的なケース。シテが憎めないキャラの上、アドの挑発が少々執拗、後味はよくない。

「野宮」合掌置「長月七日、たまく野宮を訪れた旅僧(ワキ

能士 狂言 狸 佐藤 融 佐藤 友彦 後見 大野 弘之

蜘蛛 橋本 正衛 河村 総一郎 加藤 洋輝 間 井上 靖治 鹿島 俊裕 中島 知亮 後見 辰巳 清次郎 地謡 竹内 久仁七 内藤 飛能 佐藤 耕司 石森 智幸 加賀山 善治 久野 幸三 金森 良充

附祝言 (終了予定 十六時二十分頃)

主催 名古屋宝生会
問い合わせ 名古屋市昭和区御器所3-23-19-1 御
電話 FAX 052-888-2560 0
衣斐 正直 方

【有料】
当日券 五〇〇〇円
会員券 4枚綴 (年間通用)
一八〇〇〇円

第12回 万作を観る会

一月三十一日(日)午後三時開演
名古屋能楽堂

解説 林 和利

養子 養 老 大鼓 河村 眞之介 太鼓 加藤 洋輝
水波 之伝 小鼓 後藤 嘉津幸 笛 竹市 学

狂言 無布施経 権 野村 万之介 舞主 石田 幸雄

狂言 歌 仙 僧 正 遇 昭 野村 萬斎 泉 報 者 野村 小三郎
後 藤 正 野村 萬斎 在 原 業 平 奥 野 口 小三郎
小 野 小 町 高 野 田 深 田 徳 太郎
津 原 元 輔 石 田 幸 雄 月 崎 和 憲 博 古 治

主催 なごや・万作の会
TEL 03-39997877

【入場料】 S 席 八〇〇〇円、A 席 七〇〇〇円
電子チケットびあTEL 0570-02-9999
※アフレカケ92(三越地下)
問い合わせ専用 0522-9553-0777

【入場料】 S 席 八〇〇〇円、A 席 七〇〇〇円
電子チケットびあTEL 0570-02-9999
※アフレカケ92(三越地下)
問い合わせ専用 0522-9553-0777

ワキの用いにて排大口・紫長絹の
④面へつづく

